

町田市障がい者青年学級

実践報告集



2018年度 第44号

はじめに

2018 年度町田市障がい者青年学級事業について、「実践報告集第 44 号」を刊行いたしました。この報告集は、障がい者青年学級(以下「青年学級」)の活動の様子を綴り、分析して課題を明らかにし、さらに今後の活動の展望を語ることを目的に編集したものです。編集にあたっては、日頃から活動をご支援いただいている「担当者」(ボランティアスタッフ)の皆様にご尽力いただきました。

2018 年度の青年学級の活動を振り返りますと、3 つの学級で 166 名の学級生が参加しました。活動内容としては、通常の学級活動以外に公民館学級は恒例の大地沢青少年センターでの宿泊合宿を行いました。ひかり学級と土曜学級では宿泊合宿か日帰り旅行を行うかを活動の中で話し合い、ひかり学級では、貸し切りバスで相模原公園へ出かけ、土曜学級はロマンスカーで小田原見学となりました。また年度末の成果発表会では各学級ともに新しい歌の作成や、日頃の思いを作文や劇を通して表現するなど、精力的な発表を行いました。特にそれぞれ 4 名と 2 名の新たな仲間を迎えた公民館学級と土曜学級では、新人学級生を交えての学級活動が他の学級生にも刺激を与え、新たな学級活動を生み出す土台になりました。

一方で、担当者の体制は必ずしも充足しているとはいえ、担当者募集のために、市内外の大学・専門学校へのポスター掲示依頼や授業・ガイダンスでの PR、市内町内会の掲示板へのポスター掲示など積極的に広報活動を行い、結果として 13 名の方に担当者として新たに参加いただくこととなりました。

青年学級に参加する学級生を取り巻く環境は、ここ数年目まぐるしく変化しています。2014 年 1 月、我が国は「障害者権利条約」を批准しました。国連総会で採択された 2006 年以後、障害者虐待防止法や障害者総合支援法の施行、障害者差別解消法の成立、障害者雇用促進法の改正など、さまざまな制度改革を経たのち批准しました。この条約は様々な分野における権利実現のための取り組みを締約国に対して求めています。教育

を受ける権利についても、同条約第 24 条において規定しています。

また、町田市においても、2016 年 3 月には、障がいのある人の施策の基本計画として、「第 5 次町田市障がい者計画」が策定されました。この計画では、障がいのある人が希望する学びや文化芸術・スポーツ活動に参加しやすくすることを明記しました。

こういった条約の批准や計画の策定がされる中、2016 年 7 月には世界でも類を見ない凄惨な事件が津久井やまゆり園で起きました。また、2018 年 1 月には旧優生保護法による強制不妊手術が提訴され、改めて社会の中で問われることになりました。

また、文部科学省が実施する「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」委託事業を受託し、障がい者の生涯学習の推進のため、若葉とそよ風のハーモニーコンサートに向けた活動を中心に、コンサート本番だけでなく、実行委員会での話し合いなどのコンサートが形作られていく過程を描くことができたと取り組みました。

このような時代に、障がいがあるといわれる人々が主体的に学び、社会参加し、自らの生を肯定し、地域で生活していくためにも、社会教育事業としての青年学級をより充実させる必要があります。町田に根付いた青年学級事業ですが、さらに社会の中で理解を深められ、より多くの市民の皆さんの参加を得て、事業を展開していけるよう努力と研鑽を重ねていきたいと考えています。

末筆になりましたが、事業の実施、「実践報告書」の作成など、日ごろから活動をご支援いただいている担当者の皆様、関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

2020 年 1 月

町田市生涯学習センター

目 次

はじめに 1

第 1 部 学級活動の概要 5

第 2 部 公民館学級

第 1 章 コース活動

わかそよづくりコース 17

みんなのたいせつなことばコース . 23

ひまわりコース 29

くらしコース 35

ハッピー生き生き！

スポーツコース . 41

夢のあかりコース 47

第 2 章 自治運営

1 班長会 54

2 つどい委員会 55

第 3 章 考察 57

第 3 部 ひかり学級

第 1 章 コース活動

エクスポコース 63

おまかせ芸術コース 69

レッドスターズ 75

みんなの未来コース 83

第 2 章 自治運営

1 班長会 89

第 3 章 考察 90

第 4 部 土曜学級

第 1 章 班活動

流れ星♥ダンス班 93

スマイルイベント班 97

ものづくりブリヂストン班 103

秋桜班 107

第 2 章 自治運営

1 班長会 111

第 3 章 考察 113

第 5 部 地域への広がり

第 1 章 サークル活動

1 おなべの会 119

2 とびたつ会 121

3 スケッチルーム 126

第 2 章 若葉とそよ風のハーモニー . 127

第 6 部 学級を支える体制

第 1 章 担当者会・調整会・学習会 . 143

第 2 章 送迎検討委員会 146

第 3 章 父母会 147

第 7 部 青年学級によせて

第 1 章 新人担当者として関わって . 151

資料 155

2018年度障がい者青年学級(学級実施日)

回	月 日	活 動 内 容 (活 動 場 所)
	4.8 日	ひかり学級 青年学級を語る会(ひかり療育園)
	4.14 土	土曜学級 青年学級を語る会(生涯学習センター。以下「生涯セ」)
	4.15 日	公民館学級 青年学級を語る会(生涯セ)
1	6.3 日	ひかり学級 開級式(ひかり療育園) 午後1時半～午後4時
1	6.9 土	土曜学級 開級式(生涯セ) 午後1時半～午後4時
1	6.10 日	公民館学級 開級式(生涯セ) 午後1時半～午後4時
2	6.17 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
2	6.23 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
3	7.1 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
3	7.14 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
4	7.15 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
4	7.28 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
5	9.2 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
5	9.8 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
6	9.16 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
6	9.22 土	土曜学級 日帰り旅行(小田原) 午前10時～午後4時
7	10.7 日	ひかり学級 バスハイク(相模原公園) 午前8時半～午後4時半
7	10.13 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
7	10.14 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
	10.21 日	若葉とそよ風のハーモニー実行委員会(コメット会館) 午後1時半～午後4時
8	10.27 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
8	10.28 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
8	11.4 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
9	11.10 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
9	11.11 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
9	11.17 土	公民館学級 合宿(大地沢青少年センター)
10	11.18 日	
10	11.24 土	土曜学級・わかそよ実行委員会(生涯セ) 午前10時～午後4時
10	12.2 日	ひかり学級・わかそよ実行委員会(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
11		公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
11	12.8 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
12・11	12.16 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
12	12.22 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
13	1.12 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
12	1.13 日	ひかり学級・わかそよ実行委員会(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
13	1.20 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
14	1.26 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
13	1.27 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
14	2.3 日	公民館学級・わかそよ実行委員会(生涯セ) 午前10時～午後4時
15	2.9 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
14	2.10 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
15	2.17 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
16	2.23 土	土曜学級 成果発表会(生涯セ) 午前10時～午後4時
15	2.24 日	ひかり学級 成果発表会(生涯セ) 午前10時～午後4時
16	3.3 日	公民館学級 成果発表会(生涯セ) 午前10時～午後4時
	3.10 日	わかそよ実行委員会(生涯セ) 午後1時半～午後4時
	3.24 日	わかそよ実行委員会(生涯セ) 午後1時半～午後4時
	3.31 日	わかそよ結団式(生涯セ) 午前10時～午後4時

第 1 部

2 0 1 8 年度

学級活動の概要

1. 青年学級のねらい

青年学級開設当初は20名に満たなかった学級生も、現在は十倍近い人数になり、3つの学級にわかれてそれぞれ独自の活動を展開しています。各学級ともに、青年学級開設当初からの目標である「生きる力・働く力の獲得」のもと、「自治」「生活づくり」「文化の創造」という3つの柱を軸に活動を行ってきました。

ここでいう3つの柱についてですが、まず「自治」とは学級生自身が活動を企画し、運営していくことを意味します。一人ひとりの学級生の意見をもとに、それを取りまとめる班長・副班長を中心とした集団活動が進められ、さらにその班長や副班長によって構成される班長会で学級全体を見渡していく、というような民主的なプロセスを重要視してきました。そして何よりも大切にしてきたことは、学級生がなにものにも束縛されることなく、一人ひとりの思いを自由に語るということです。とはいうものの、月2回の限られた活動のなかで、企画から運営まですべてを行うということは、たやすくありません。しかし、それらを大切にしていくことで、自分自身の意見を述べる機会や経験を持ちにくかった学級生一人ひとりの主体性は、確実に培われてきたのです。

次に「生活づくり」です。これは活動のなかでお互いの要求、職場や家庭での喜びや哀しみなどのさまざまな思いを伝え合い、一人ひとりの生活の様子や課題を集団の場に出し、その思いや要求を集団で受け止め共有していくことです。そのことを通して、自らの生活を振り返り、自分自身の存在を肯定し、人を思いやる仲間づくり・集団づくりが行われてきました。この集団での経験が、現実の厳しい生活に向き合い、積極的に自分の生活上の困難に立ち向かっていく力になるのではないかと考えられます。

このような自治的な集団をもとに、学級生の生活要求や課題を反映させることでつくられていく活動は、既成のものではない独自の「文化の創造」を通して、具体的なかたちを与えられ、さらに深められていきます。そ

れにより、学級生が活動のなかで実質的な主体者となり、ひいては生活場面でも主体的な存在となっていくことを目指しています。

実際の活動では、劇や音楽、絵などの様々な創作活動を素材として取り組み、経験の幅を広げながら活動を創りだしてきました。そして、このような「文化の創造」から、学級生の要求や働くことの誇り、喜び、苦しみ、仲間への思いなど、生活実感に根ざしたものを取り入れ、オリジナルソングに代表されるような、青年学級独自の表現文化活動を作り上げ、他者へアピールする力を築きあげてきました。

このように、文化活動に積極的に関わり、「文化の創造」を担っていくことは、自らの生活を振り返り、作り上げ、学級生が主人公として人生を切り拓いていく力につながると考えられます。

「文化の創造」活動の延長として、1988年からスタートした『若葉とそよ風のハーモニーコンサート』（以下、わかそよ）も、2017年5月に18回目が開催され、またこれに類する催し物が開かれるなどしていますが、これまでの青年学級の実践から、地域に打って出たコンサートであり、そこでは長年培ってきた学級生の自治の力が大いに発揮されています。

「自治」「生活づくり」「文化の創造」の3つが歯車のように回りながら学級生たちの生活をより豊かなものにしていき、大きな力になっていくことが、これまでの実践のなかで確認されてきています。このことを踏まえ、今年度もそれぞれの学級で実践が展開されました。

2. 青年学級の概要

(1) 各学級の活動の概要

青年学級は、現在、3つの学級にわかれて月2回の活動を行っています。そのうち「公民館学級」と「ひかり学級」は日曜日、「土曜学級」は土曜日に活動しています。

2018年度は3学級あわせて学級生166名（年度当初時点での在籍者数）、担当者52名（年度末時点で担当者または当日担当者）

して活動に関わっていたボランティアの人数)で活動を行いました。一年間の活動は6月の開級式から、秋の合宿や日帰り旅行を挟んで、3月の成果発表会までの間に公民館・ひかり学級は原則として毎月第1・第3日曜日に、土曜学級は毎月第2・第4土曜日に行い、それぞれの学級で年14~15回の活動を行いました。また、活動体制としては、土曜学級が班体制、公民館学級とひかり学級がコース制を取りました。

(2) 活動日の大まかな流れ

タイムテーブルは3学級ともに概ね次のとおりでした。

10時~	朝のつどい
10時30分~	コース・班活動 (途中、昼食を挟む)
15時30分~	帰りのつどい
16時	終了
16時~	班長会など

班長・副班長は、コースや班をまとめると共に、「班長会」に出席し、他のコースや班との連絡を取り合って、各学級全体の活動について話し合い、学級の自治活動を行いました。他にも、公民館学級では、朝夕のつどいについて話し合う「つどい委員会」が帰りのつどいの後に行われました。土曜学級では、班毎に交代制でつどいについて話し合われました。

(3) 一年間の学級活動の流れ

4月	学級を語る会
6月	開級式
7~2月	月2回の学級活動 (8月は夏休み、9~11月に合宿や日帰り旅行あり)
2~3月	成果発表会

3. 青年学級のこれまでの歩み

1974年度に開設された青年学級は体制面に着目すると、その歴史の中に大きな4つの節目をとらえることができます。すなわち、コース制の始まり(1985年)、ひかり学級の発足(1991年)、土曜学級の発足(1997年)、

とびたつ会の発足(2004年)です。そしてこの節目を境にして、5つの時期に分けることが可能となります。

(1) 青年学級の発足と実践から生まれた3つの柱

【1974年度~1984年度】

第一の時期は、青年学級の実践の方向性を模索する中から実践の中核となる3つの柱を確立した時期と言えます。この3つの柱とは、素材として表現活動を伴う文化的な創造活動を重視すること、集団のかたちとして自治的な集団をめざすこと、主題としてそれぞれの生活を活動の中心にすえることです。

こうした3つの柱は、それぞれ、劇づくりを通じた仲間づくりをめざした時期(1974年~1977年)、自主的な活動を重視した時期(1978年~1980年)、生活を見つめ直した時期(1981年~1984年)という3つの時期に対応しており、実践の中から生み出されてきた柱そのものと言ってよいでしょう。また、発足当初20名だった学級生の数は、1984年度には63名になっていました。

(2) コース制のはじまりとその発展の時期

【1985年度~1990年度】

第二の時期は、コース制の実施によって始まる時期ですが、第一の時期の成果を受けて、内容別のコース活動に分かれ、それぞれのコースごとにその内容をじっくり深めていく中で、生活づくりをめざすこととなりました。

この時期の生活づくりというねらいが具体的な成果となってあらわれた例に、「わかそよ」が産声を上げたことが挙げられるでしょう。それぞれの生活の中で感じている想いを歌に託して地域に向けて発信することを通じ、一人ひとりの新たな生活の創造が始まったと言えます。

また、こうした活動の中から、全国障害者問題研究会の全国大会に参加したり、パリで開催された国際会議に参加したりする学級

生が現れるようになってきました。

生活づくりという目標のもと、地域にアピールしていく活動は、いろいろなところで実を結び始めたと言ってよいと思います。

この間、参加希望者は増加を続け、1990年度には学級生が99名を数えるようになりました。活動の充実が、青年学級の存在を広く市民にアピールしたことも、希望者の増加に一役買っていると言えるでしょう。

(3) ひかり学級への分級による2学級体制の時期

【1991年度～1996年度】

第三の時期は、学級生の増加という事態に対応するためにひかり学級の誕生から始まる時期です。

学級生が増加する中で、言語的コミュニケーションが難しく、多くの介助を必要とする障がいのある学級生の姿も見られるようになりました。そうした生活上の困難を抱えた学級生がいる一方で、問題が差し迫っていない学級生も少なからずいるという状況は、学級生の多様化も意味していました。

こうした状況下では、学級全体としての共通の目標を以前のように維持することは、しだいに困難になってきました。しかしながら、それは一方で今までの流れを継承しつつ、多様な要求に応える実践を繰り返してきた時期であると言えるでしょう。

社会への大切なアピールの場「わかそよ」も、青年学級の大規模化のため、隔年開催となりましたが、ミュージカルという新しい表現を盛り込みながら発展を遂げています。またこの時期、海外研修の機会を与えられる学級生が何名か生まれました。

(4) 土曜学級の誕生による3学級体制の時期

【1997年度～2003年度】

第四の時期は、土曜学級の誕生によって3学級の体制が始まった時期です。土曜学級は、最初、休日の小学校の校舎を借りるかたちで発足しました。活動の際、車いすの方が一部

利用できない場所がありましたが、2002年に公民館が現在のビルに移ってからは、公民館で活動できるようになりました。「自治」「生活づくり」「文化の創造」の3つの柱を土台にしながらも、公民館学級、ひかり学級、土曜学級のそれぞれが独自の活動を展開するようになりました。

この時期、公民館学級の学級生である高坂茂さんが、日本で最初の本人活動の会「さくら会」結成の中心メンバーとなり、町田の青年学級にも本人活動の成果を持ち帰ろうという思いで活動を始めましたが、2000年3月に志し半ばで職場の事故で亡くなるという大変大きな出来事がありました。「町田にも本人活動を」という動きは、こうした中で芽生え始め、高坂さん亡き後は、その遺志を引き継ぐかたちでいろいろな試みがなされ、とびたつ会の発足へとつながる流れを作り出しました。

(5) とびたつ会の誕生 ～青年の活躍の拡がり

【2004年度～現在】

第五の時期は、青年学級からとびたつ会が生まれ、市主催事業としての青年学級と自主サークルとしてのとびたつ会が、並び立つ体制を開始した時期です。とびたつ会は、形式的には、青年学級とは別の組織ですが、青年学級の活動を通して本人活動の重要性を自覚したメンバーによる会です。しかし、とびたつ会にも青年学級に参加した経験のない青年が加わるなど、次第に独立した活動をするようになりましたが、学級の終わった後の交流や学級行事などへのとびたつ会メンバーの参加、「わかそよ」や、それに類する催し物の共同開催など、両者は深い関係を今後も持ち続けていくことになると思われます。

また、とびたつ会の発足によるメンバーの移動が、結果的に学級生の受け入れ能力を超えてしまった青年学級に新たなメンバーを受け入れる余地をもたらしました。しかし、短期的には学級をひっぱっていくリーダー的存在が抜けることを意味しており、学級活動に影響をもたらすことになりました。しか

し学級生の中からは新しくリーダーシップを発揮する存在が現れ始め、そのリーダーシップのもとで新しい活動の展開が見られるようになりました。

またコミュニケーションの多様化によって、これまであまり発言ができていなかった青年たちの主張が学級活動に反映され始めています。それは自ら発話や文字を書くことができずコミュニケーションが難しいため、これまで話し合いや作文など「ことばを使つての活動」にはあまり参加できなかった青年たちが活躍するようになったということです。

これは「スイッチパソコン」や「指文字」など、支援方法の充実が図られたことが大きいのですが、コミュニケーションが難しいとされる青年たちのことばの世界が拓かれたということ以上に、学級の場面での存在感が大きく増したという変化がありました。

学級では表現活動を通じて主体性を獲得する場面が多くあります。例えば実際に歌うことはできなくても学級ソングの作詞をして発表の舞台に上るといった経験を通じて主体性を獲得する青年たちが出てきました。

こうした青年たちが表舞台に出ることで、学級の雰囲気にも変化の兆しが生まれています。これが社会に受け入れられるにはまだまだ厳しい状況ですが、40年を越える学級の歴史で貫かれている理念に新しい芽吹きとなったともいえるでしょう。

4. 3学級に関わる今後の課題

(1) 新人学級生の継続的受け入れと担当者体制の充実

青年学級の抱える課題として、新人学級生の継続的な受け入れの問題があります。当初20名弱の人数からスタートした青年学級も毎年10名程度の新たな学級生を受け入れてきましたが、担当者不足などの理由から新人学級生を受け入れられない状況が2001年から発生していました。しかし、将来構想検討委員会での話し合いもあり、新人学級生を2010年からは募集できるようになりました。

それに伴って学級生の人数も3学級全体で166名となりました。

また、会場面でも生涯学習センターとひかり療育園だけでは限界があります。現在の3学級体制（公民館学級、ひかり学級、土曜学級）で、どこまでの学級生を受け入れることができるか、会場や規模の面からの検討も必要となっています。

2018年度には若干名の募集に対し、13名の応募がありましたが、体制・規模の面から考えても全員の受け入れは難しく、やむを得ず抽選により、4名を受け入れることとなりました。

また、担当者体制が厳しい状況であることに変わりありません。現在の担当者募集方法（「広報まちだ」での募集記事、地域の自治会等を通じての担当者募集のビラの配布やポスターの掲示、近隣の大学・専門学校へのポスター掲示及び授業やガイダンス等での担当者募集の説明など）に加え、大学のボランティアサークル等との連携やボランティア講座の活用など、担当者を継続的に安定して確保する方策が模索されてきました。

担当者体制は単純にマンパワーの問題だけではなく、担当者として主体的に学習活動に関わる以上は、単に「一市民としてのボランティア」として参加する以上の資質と取り組みが求められます。そのために担当者会を充実させ、参加を促していくことも必要とされています。これまでの方向性を検証し、人材確保・育成についても検討が必要な段階になっています。

(2) 青年を取り巻く環境の変化への対応

学級に参加する青年の状況も大きく変化しつつあります。障がい者施策の影響もあり学級生を取り巻く生活環境や就労状況もここ数年大きな変化ができています。新しく参加している学級生でも一般企業で働く人がいる一方で、高度なケアが必要な人も増えています。

長年学級に参加してきた青年も、グループホームや通勤寮、生活寮を利用し、仕事に就いて得られた給料の使い方の訓練を受けた

り、自らの将来について考えたりするなど、自立にむけて活動するようになってきました。特にここ数年、市内にもグループホームが増え、自宅からグループホームへ移る青年も増えていきます。現時点ではグループホームへ移ったことにより青年学級に通えなくなるということはありませんが、学級生の置かれている状況を把握することがこれまで以上に重要となってきています。

加えて、こうした家族の高齢化や生活環境の変化により、送迎の必要性も高まってきています。これまでも送迎検討委員会で青年学級における送迎の課題について検討し、一時送迎を行ってきていますが、今後、より一層、送迎に対するニーズが高まっていくことが予想されます。

そして、これらの青年学級の将来像や、青年を取り巻く状況の変化、送迎等の課題について、生涯学習センター職員や担当者、家族だけでなく、青年学級の主体者である学級生と一緒に考えていき、その中で本来の青年学級の意味を再確認し、これからの発展について将来的な展望を持っていくことが、今後の大きな課題となっています。

体制面の語句の説明

青年……発足当初より、学校を卒業して社会に出た知的障がい者の社会教育の場は「青年学級」という名称で活動が進められ、社会的にも認知され今日にいたっています。その経過の中で学級生に対して青年という呼び方が定着しています。実際には青年期を越えた学級生が多数をしめるわけですが、その活動の若々しさなどもあって、違和感をあまり覚えることなく使われてきたと言えます。

担当者……青年を支援し、共に活動する人。参加資格は18歳以上の人。学級日の運営だけではなく、担当者会や総括会議への参加、学級ニュースの作成、実践報告集の校正作業なども活動に含まれています。

当日担当者……仕事や授業などの都合により、担当者会への参加が難しいため、学級日のみ参加する担当者のこと。(役割は担当者と同様)

コース・班制……青年学級での自治活動を展開するための、10～20人の基礎集団。やりたいこと(音楽・料理・スポーツ・工作など)を参加者が選び、希望別に分かれた集団のことです。

つどい……コース・班活動に入る前に、学級参加者全員が集まって歌をうたったり、見学者の紹介をしたり、近況報告をする場。朝と帰りに行っています。

成果発表会……年度の終わりに、1年間の活動の成果を発表する場。今年度、3学級ともに生涯学習センターで行いました。

青年学級を語る会……学級生が年度の初めに学級活動について話し合う場。前年度の反省と新年度の活動について学級ごとに話し合いを行なっています。

とびたつ会……青年学級よりも、より青年が主体的に活動することをめざした本人活動の会で、発展学級としての性格も併せもっています。2004年に発足。

担当者会……青年学級に参加する担当者が集まって、週に1回開かれる会議で、学級ごとに行っています。月2回の活動の準備や反省、活動やその他の場面での学級生との関わりの中で青年が表現する

中から、青年の求めていることは何なのか、その実現に向けてどうしたらよいか、それをどのように今後につなげていくのかを話し合います。各学級の担当者会で2名程度の「学級主事」が選出され、会の進行をしています。

調整会……担当者から選ばれた学級主事と生涯学習センター職員で構成。青年学級を実施するにあたっての全体的な条件整備や調整を行い、担当者会に提示します。また学級間の情報交換・共有を図る会です。

父母会……青年の家族が、青年たちが現在抱える問題や将来の生活に抱える不安などを改善・解消するために設けている話し合いの場、及びその集団です。

送迎検討委員会……各学級から選出された数名の担当者(送迎委員)で構成される委員会。青年の通級に欠かせない送迎の保障について話し合い、取り組んでいます。

将来構想検討委員会……生涯学習センター長、生涯学習センター職員、各学級から1～3名程度ずつ代表として選出された担当者(将来構想検討委員)、とびたつ会支援者で構成される委員会。青年学級の中長期的な将来像を検討するために組織されていましたが、2012年度以降は開催されていません。

若葉とそよ風のハーモニー……青年学級の活動から生まれた学級ソングや劇を社会に向けて発信していく場として、1988年から町田市民ホールで行っている実行委員会形式のコンサートです。活動の中では、“わかそよ”と略されます。

活動内容の語句の説明

学級ソング……学級独自で作られ歌われる歌のこと。青年のことばや姿、口ずさんだフレーズなどを元に歌としてまとめています。こうした学級ソングはつどいの他、コース活動の中、行事などの場で一緒に歌うことで共有され、学級の一体感と盛り上がりの形成に一役買っています。既製の 대중文化におけるポピュラー

な曲ではなく、障がいを持つ青年たちの生活実感や思いを反映したものです。それは、民衆文化としての自分たちの「文化の創造」という青年学級で大事にされてきたテーマを象徴しています。

素材……実際の学習活動におけるテーマや取り組みのもとになるもの。具体的には青年から直接的・間接的に出される要求や生活状況などで、それを共有することで活動を展開しています。

思い起こし・近況報告……活動での話し合いの基本となるもの。青年学級での話し合いは多様な青年が参加しているため、青年の発言をまとめるだけではなく、意思表示を確認してコース・班全体で共有する作業が必要になってきます。青年一人ひとりの思いを共有するために活動の基本的なことを話したり、個人として話しやすい身の回りのことが話題にされたりしています。

作品づくり……学級では一人ひとりが絵を描いたり、ねん土を作ったり、またコース・班全体で作品づくりに取り組んでいます。いわゆる工場的なものだけではなく、作った学級ソングをレコーディングでCDにまとめたり、作文や絵画を蓄積して文集にまとめたりすること、調理活動なども含まれます。

表現活動……青年学級では二つの使い方をする活動で、一つは歌や劇といったコース・班で通常行われている「パフォーマンス活動そのもの」、もう一つは、主に成果発表会やクリスマス会など全体で行う催し物で作文を朗読したり、作った歌を披露したり、外出で調べてきたことを発表したり等、「活動内容そのものの紹介のための二次的な表現活動」との二つに分けられます。

いずれにしても成果発表会という一年の締めくくりが大きな目標になっており、成果発表会に向けて練習を重ねたり、発表のためにこれまでの活動を振り返り表現としてまとめあげたりすることで、単に青年の内部表出だけではなく、コース・班全体の活動を外在化するという意

義もあります。

本人活動……障がい当事者が決定権をもったグループ活動のこと。日本における本格的な本人活動の芽は、1991年の育成会全国大会本人分科会にあると言われていています。この時結成された「さくら会」には、町田からも高坂茂さんという青年学級の先輩も参加されました。

それまでは、多くの場面で能力がないとされ、意見表明や自己決定等の機会が剥奪される傾向にあった知的障がいのある人たちが、「自分たちのことは自分たちで考えよう」と自らが社会変革の担い手であることを自覚し、学習や行動をする活動に取り組み始めました。実際の活動は幅広く、福祉の制度や自分たちの権利についての学習活動や、レクリエーションなどを内容としています。

スイッチ・指文字・筆談……数年前より重度の肢体不自由や知的障がいのため、あるいはいわゆる自閉症などのために、言語的コミュニケーションが苦手とされる青年を中心に、スイッチパソコンで気持ちを話す方法が取り入れられてきました。現在では、パソコン自体は使用せず、通訳者が青年の体の一部に触れ、五十音を発音しながら一文字ずつ言葉を選び出していく「スイッチ」や通訳者が青年の一方の手（指）に手を添え、通訳者の掌に文字を書いていく「指文字」、青年が持つペンに手を添えて文字を書く「筆談」などがあり、コミュニケーション方法も多様化しています。また、言語でコミュニケーションをとる青年も思いや意見を語る際、補足的にこれらを使う青年も増えてきています。

また、パニックのような行動を見せた青年に対して気持ちを聞き、そのときの本人の考えや反応などを理解し、周囲の対応や受容につなげる実践がされています(詳細は2008年実践報告集の特集を参照)。

学級名		活動単位		自治活動	内容
日曜学級	公民館学級	コース制	◆わかそよづくりコース ◆みんなのたいせつな ことばコース ◆ひまわりコース ◆くらしコース ◆ハッピー生き生き！ スポーツコース ◆夢のあかりコース	班長会	各コースの班長・副班長とそれを支援する担当者と構成される学級活動後の会議。年間行事についての調整や班長会ニュースの作成を行っている。
			つどい委員	有志が集まった学級生と担当者数人で構成し、朝夕のつどいについて企画・運営を行う。また合宿・クリスマス会・成果発表会は班長会と合同で運営していた。	
	ひかり学級		◆エクスポコース ◆おまかせ芸術コース ◆レッドスターズ ◆みんなの未来コース	班長会	ひかり学級全体について話し合いをする会議。 合宿・クリスマス会・成果発表会などの行事についてと、コースからの連絡を行った。
土曜学級		班制	◆流れ星🌠ダンス班 ◆スマイルイベント班 ◆ものづくり ブリヂストン班 ◆秋桜班	班長会	各班の班長・副班長とそれを支援する担当者と構成され、成果発表会等の行事や、土曜学級全体について話し合う会議。

第2部 公民館学級

第1章 コース活動

こうみんかんがつきゅう
公民館学級 わかそよづくりコース

かつどう なが
活動の流れ

6月10日	開級式
6月17日	自己紹介
7月1日	係決め、自己紹介
7月15日	今後の活動の話し合い、若葉とそよ風のハーモニーコンサート（以下、わかそよ） についての話し合い
9月2日	過去に行なわれた、わかそよの動画鑑賞、感想について話し合い
9月16日	合宿の話し合い、わかそよの話し合い
10月14日	2グループに分かれての合宿の話し合い、太鼓奏者新倉さんの動画鑑賞、生涯 学習センターまつりの話し合い
10月21日	生涯学習センターまつり、わかそよ実行委員会（コメント会館）
11月4日	石窯ピザづくり、新倉さんのコンサートに参加
11月17日	大地沢での合宿一日目：交流会での発表の話し合い、新曲についての話し合い
11月18日	大地沢での合宿二日目：散歩、歌の練習
11月24日	わかそよ実行委員会（土曜学級）
12月2日	クリスマス会での発表内容の話し合い、クリスマス会の配役決め、わかそよ実行 委員会（ひかり学級）
12月16日	クリスマス会の練習、クリスマス会
1月13日	わかそよ実行委員会（ひかり学級）
1月20日	（午前）新年会、わかそよ実行委員会の内容の共有 （午後）わかそよのテーマについて話し合い、新曲づくり、新曲の練習
2月3日	新曲づくり、新曲の練習、わかそよ実行委員会（公民館学級）
2月17日	新曲の練習、成果発表の内容の話し合い
3月3日	成果発表会

1. コースの特徴

このコースは男性1名、女性8名のメンバーで1年間活動しました。比較的話題に積極的な青年から活動の始まりにコース内の青年たちに対して提案が投げかけられ、それに対してそれぞれが意見をだし合う形で進むような話し合いが活動に多く取り入れられました。

今年度の最初の頃は、コンサートづくりコースの中でも音楽コースとどのように分かれるかという話し合いが行われていましたが、話し合いを重ねるうちに、学級活動を通してわかそよに向けての取り組みたいという青年が多くいたので、音楽コースと分かれることになりました。

2. 活動の様子

(1) それぞれの思いについて語り合う

コース活動の最初の時期には、学級生自身の体験やニュースを通して若葉とそよ風のハーモニーコンサート(以下、「わかそよ」)で伝えたい思いが話し合われました。旧優生保護法についてや、思いが相手にうまく伝わらないことなど内容はさまざまですが、毎回話し合いが活発に行われ、わかそよにむけて青年たちの思いが伺える話し合いとなりました。また、普段の暮らしの中では、青年たちの思いを話し合う場や機会はあまりないので、コンサートづくりコースでは日ごろの生活でのつらいことなど、ニュースでの思いを語る機会が多くありました。この話し合いが、わかそよに向けて青年たち思いの共有につながっていき(話し合いの内容は次ページ終わり以降に記載されています)

(2) 学級生について

長年、青年学級を支えていた青年が亡くなりました。コースのメンバーは亡くなった青年と、同じコースで活動することが多かった青年たちがいたため、コース活動の中で話し合いをしました。青年が亡くなって感じたこと、他の仲間たちへの感謝などたくさんのことが出ました。

(3) 新曲について

この曲は長年、青年学級を支えていた学級生が亡くなり、その青年への思いを伝えたいということがきっかけでできた曲です。日頃、自分が感じていることや、伝えたい思いについて積極的に意見が出ました。また、作文を書いて自分の辛い思いや生活の中で感じたことを伝える青年もいました。

中には、口では言えないことでも筆談のできる担当者を通して思いを言う青年もいました。歌詞づくりにたくさんの時間をかけて行い、青年たちの気持ちを伝えたい、感じていることを届けたいという思いが見えてきました。曲の題名について話し合い、青年が事前に考えた候補と活動の中で出た意見と合わせて、多数決の結果、「私のきもちを伝えたい」になりました。「私たちの生きている意味をどう伝えたいか」という思いが強くなってできた曲となりました。わかそよでも発表しました。歌詞には青年たちは自分たちの届けたい思い、伝えたいことがたくさん詰まった新曲となっています。(歌詞の話し合いについて3ページ先の(5)に記載されています。)

(4) わかそよ実行委員会の参加

コンサートづくりコースとしてコースの中で参加することのできる学級生でわかそよ実行委員会に参加し、テーマやコースの活動で話し合った

内容をひかり学級、土曜学級の青年たちとも共有をしました。わかそよ実行委員会のある場所によっては、公民館から出向くこともありました。わかそよ実行委員会の話し合いでコンサートづくりコースの中でコースの活動を通して決まったことや案を意見として出たことで話し、自分の思っていることを伝えました。この話し合いであまり自分の意見を言えない青年も、自分の思いを伝え合い、テーマ、構成、ステージで伝えたいことを他の青年たちとも意見を交換する機会となりました。

わかそよについて長い間、青年学級に参加している青年たちからは「これからの世代につなげていくわかそよにしたい」という声が多くありました。次のわかそよに向けての意見を述べる青年もいました。他にも、「今は、いない仲間にもむけてわかそよにしていきたい」という青年の意見もありました。青年たちのわかそよで届けたい思いはより多くの人に自分たちの気持ちや日頃感じていることを伝えていきたいという思いがうかえた有意義な取り組みとなりました。長い時間をかけてわかそよにむけて話し合いを重ねていきました。わかそよ実行委員会の話し合いではわかそよに対する青年たちの思いや伝えたいことは様々ですが、熱い気持ちや観ている人へ何を伝えていきたいのかを共有することで、わかそよに向けてコース活動内での話し合いの内容にもつながっていきました。

3. コンサートづくりコースの展望

(1) コンサートづくりコースのこれからの活動について

公民館学級の中であった青年たちが公民館学級について話し合いで、コンサートづくりコースについての今後について話がありました。自分達の思いを外に発信できる機会が少ないため積極的に外に発信できるコースにしたいという声が青年たちから出ました。この話し合いで出た青年たちの意見を受けて、青年たちの中で話し合いを続け、コンサートづくりを続けていくという方向で決定をしました。名前や活動する内容がどうなるかは未定ですが、例えば、外部のイベントなどに参加し、青年学級の活動、青年たちがどのような思いで曲を作ってきたのかをたくさんの人たちに伝えるコースになる予定です。また、作文や新曲を作りたいという青年もいました。わかそよは2年に1回しかないため、来年はわかそよの開催はありませんが、「次のわかそよに向けての活動も行っていきたい」という青年もいました。コンサートづくりコースでの活動については青年たちの次に活動をつなげていきたいという熱い思いが見えていました。

・コンサートづくりコースの話し合いの記録

(1) わかそよについて伝えたい思いについて話し合いました。(2018. 7. 1)

「今年あった出来事として私が一番気にしているのは優生思想の事です。旧優生保護法のことについて当事者が声をあげたことが私にとって印象的でした。私たちの命の価値について私たちの仲間がついに声をあげたのだと驚かされました。」

「私はもっと、私の命の話をしたいです。私たちが生きていることの素晴らしさがどこにあるのかということが話し合いたいのです。」

「私たちの生活が少しばかり辛いことばかりだということ少し伝えたいです。私たちにとってよりよい生活とはどういうものなのかを伝えていきたいです。」

「私は命の価値と感謝の気持ちはイコールではないけれども、私たちの命はいつも軽く見られるように思うのですが、感謝されることがよくあってそういったときはうれしくなります。私たちはそうやって気持ちのやり取りすることで、少し感謝をしたり、そんな中で意味が感じられたりすると思います。」

(2) わかそよをどのようなテーマにしたいかについて青年たちから出た意見があります。

(2018. 7. 15)

「自分たちの言葉や思いと、生きている意味を发表したい」

「生活の中で色々な人に感謝したり、されたりすることを发表したい」

「私たちにも伝えたい気持ちがあることを、まず发表したい。」

「私は人に支えてもらいながら生きていますので、そのことにも感謝をしながらも、私がそれでも生きる意味があるのだということを伝えたいです。私がこうやって話しているときこそ、その意味を感じることができていて、私の話がまた別の人の思いを動かして繋がってできる変化に私は自分が生きる意味を感じるのです。ですので、私たちの言葉とそれを伝える方法を考えて発

表に繋がられたらいいと思います。私たちには思いがあるそれを伝えたいです。」

「私たちの生活はいつも感謝と共感で溢れていますので、生きる意味を感じるができます。ですが、ときには思いが伝わらなかったり言葉がでなかったりしますので、気持ちがないように扱われたり気持ちが伝わらなかったりします。私たちの気持ちはみんなと同じようにあるのに、そのことが伝わらないのが一番大変なのです。ですので、たしかに命の価値とかそのようなことは大切ですが、まずは、私たちにも気持ちがあって、感謝と共感の中にみんなと同じように生活したいということをお伝えたいです」

「私たちの仲間がまるで価値のないように扱われたりすることを聞いたときに、なぜそのようなことが起きるのかと悲しくなります。私たちは自分たちで生きている意味を見つけない。それが私の伝えたいことです」

(3) 楽器・音楽コースとの合同で活動をしました。前回のわかそよの動画を観て1部のミュージカル、2部合唱について意見や感想が出ました。

(2018. 9. 2)

1部ミュージカル

「見ていくと元気をもらえた気がする」

「私は今回も誰でも共感を与えられるテーマのもとに、私たちのことやほかの困っている人たちのことを伝えていく発信をしていきたいと思っています。」

2部合唱は学級ごとに考えた演出したステージでした。

「やまゆり園のこと。大きな花、みんなが花を持つ

て歌っていたのがよかった。」

「今回のわかそよのステージもあたたかいステージになったらいいな。」

(4) わかよそ実行委員会で参加した青年からテーマについて学級内の活動で話し合っていて欲しいということになり、意見をだし合いました。

(2019. 1. 20)

「テーマはやっぱり「命」という言葉を入れたい。～命あって私たちは輝く～こういうようなテーマはどうでしょう」

「今回のわかそよでも、やまゆり園のことを大きく取り上げられるようになると思います。そうするとやっぱり、命の大切さが伝わるようなテーマにしたいですね。」

(5) 新曲の歌詞の伝えたい思いを話し合いました。(2019. 2. 3)

「私の気持ちはいつも私の中にある、その思いがステージを飾るといいですね。私たちの気持ちはないように扱われてきたからこそ今、この瞬間輝きたいです。命があるから輝く、命の価値を輝かせましょう。いろんな人たちがここに集まって、私の輝きが今見つかります。私たちの命はみんなと一緒に今、ここにあります。」

「僕たちの歴史が、またここから始まって今、次の人たちに伝わっていきます。僕らの言葉はそれだけで意味があるけどもっとたくさんの人に伝わって欲しいです。僕の思いはみんなへの感謝の気持ちです。」

「私のグループホームでの生活は、嫌な気持ちになることもありますが、乗り越えています。ホー

ムで厳しく言われると、ストレスで嫌な気持ちになります。ホームでの生活で心がモヤモヤしています。早く明るくなって欲しいです。」

「私たちの思いは何もないと思われてしまうことが多く、辛いときもありますが、こうやって、私たちの声が人に伝わった嬉しさは、私たちがよく分かっているつもりです。言葉は話す人と聞く人の気持ちがひとつになって初めて伝わります。聞く人みんなに感謝を伝えたいです。」

「私たちの命が、まるで価値の無いように扱われていることを私は感じます。私たちの命が輝く、その場面を私は作り出したいです。命があるからこそ輝ける。私はそのことをずっと言いたいと思って生きています。私の命が輝けるのは、命があるからこそなので、この命を輝かせたいということを広く伝えたいのです。そのために私たちに何ができるのかを考えたいのです。私は言葉には思いがあるということをおもいますが、それよりも何より、私の命が輝くために今、何ができるのかそれだけを考えてステージを作りたいのです。私たちが輝くステージを作りましょう」

(6) 成果発表の内容で「わたしの気持ちを伝えたい」について思いを伝えました。(2019. 3. 3)

「わたしの気持ちを伝えたい」という歌は、私たちの生きている意味を、どうして伝えたいのかが積み重なって誕生した曲です。

わたしの気持ちを伝えたい

わかそよぶくりコース

2018

Musical score for 'わたしの気持ちを伝えたい'. The score is written for guitar and voice. It consists of six staves of music with lyrics in Japanese. The chords used are G, Em, Am, D, F, C, Bb, and G7. The lyrics are:

いろん な ひと た ちの な が り が こ こ に あ り ま っ て い わ た
 ま し の な が り が つ た え ら れ る じ ょ り だ ら せ ぐ ぐ ぐ
 ん の こ と ば が こ こ に あ つ ま っ て い っ し ょ に つ な
 ぐ っ て ほ し い に わ た し の お も い っ し ょ
 は き も ち は い わ た し の な か に な か ば こ そ
 の お た い で な に を は な し た だ ら せ ぐ ぐ ぐ
 の こ ん な ん を の り こ え う に あ つ ま っ て
 た ちの き も ち は ない よ う に あ つ ま っ て

Musical score for 'わたしの気持ちを伝えたい' (continued). It consists of three staves of music with lyrics in Japanese. The chords used are F, Em, Am, D, G, C, F, G, and G7. The lyrics are:

ほ に や さ し き こ そ あ つ ま っ て い る べ
 た か ら こ そ あ つ ま っ て い る べ
 つ に こ え を あ げ て き た か ら い の
 ち が あ る か ら わ た し の お も い
 ち の か ち き い ま っ た え る

- 1

いろんなひとたちの いまはない	わたしのなごまは なにをはなしたであらう	れましのうえで つたえられるであらう	3	はいかつのなかでは いやなまもちを つたえることができない そんなんでも なやみをいいてくれる かんしやしたい
たくさんのことばが つながつてほしい	おおくのこんなんを ことばにやるしさ まべつにこえを いのちのかをを	ここにあつまって わたしのおもい		はなすひとと ひとつになつて はじめてつたれる
いまはない	わたしのなごまは なにをはなしたであらう	わたしのうえで つたえられるであらう		きいてくれるひとと はじめつたれる
このおもいで おおくのこんなんを ことばにやるしさ まべつにこえを いのちのかをを	わたしのなごまは なにをはなしたであらう	ここにあつまって わたしのおもい		これからもつづいて つたわつていく いみがあるけど ひろがつてほしい
いろんなひとたちの いまはない	わたしのなごまは なにをはなしたであらう	れましのうえで つたえられるであらう		いちんなひとたちの いまはない
たくさんのことばが つながつてほしい	おおくのこんなんを ことばにやるしさ まべつにこえを いのちのかをを	ここにあつまって わたしのおもい		いちんなひとたちの いまはない
いまはない	わたしのなごまは なにをはなしたであらう	わたしのうえで つたえられるであらう		たくさんのことばが つながつてほしい
このおもいで おおくのこんなんを ことばにやるしさ まべつにこえを いのちのかをを	わたしのなごまは なにをはなしたであらう	ここにあつまって わたしのおもい		わたしのうえで つたえられるであらう
いろんなひとたちの いまはない	わたしのなごまは なにをはなしたであらう	ここにあつまって わたしのおもい		ここにあつまって わたしのうえで つたえられるであらう
- 2

わたしのおもちは そのおもいで	わたしのなごまは なにをはなしたであらう	わたしのうえで つたえられるであらう		いちんなひとたちの いまはない
わたしのおもちは そのおもいで	わたしのなごまは なにをはなしたであらう	ここにあつまって わたしのおもい		いちんなひとたちの いまはない
わたしのおもちは そのおもいで	わたしのなごまは なにをはなしたであらう	ここにあつまって わたしのおもい		いちんなひとたちの いまはない
わたしのおもちは そのおもいで	わたしのなごまは なにをはなしたであらう	ここにあつまって わたしのおもい		いちんなひとたちの いまはない

こうみんかんがつきゅう
公民館学級 みんなのたいせつなことばコース

かつどう なが
活動の流れ

6月10日	開級式
6月17日	学級全体でわかそよコンサート・コース編成について話し合い
7月1日	コース内の係決め、コース名決め、自己紹介、歌を歌う
7月15日	今年度やってみたい取り組みについて共有、太鼓に挑戦
9月2日	わかそよコンサートや合宿について話し合い、過去のコンサート DVD を鑑賞
9月16日	歌づくり 感謝の歌をつくることに
10月14日	歌づくり 感謝の手紙を書く
11月4日	合宿の朝食メニュー、コース発表内容について話し合い、 感謝の手紙の中で歌詞になりそうなフレーズの抜粋
11月17日	合宿1日目：朝食メニューの買い出し、コース発表の練習、全体交流会
11月18日	合宿2日目：うたづくり 1番と2番の構成について話し合い、歌を歌う
12月2日	合宿の振り返り、新曲歌詞のたたき台確認、クリスマス会について話し合い
12月16日	クリスマス会の配役決め、コース発表練習、本番
1月20日	わかそよコンサートのテーマについて・歌づくりの話し合い
2月3日	新曲のメロディーについて話し合い、わかそよ実行委員会参加
2月17日	新曲「ありがとうのうた」完成、成果発表会について話し合い
3月3日	成果発表会

1. コースの特徴

男性6名、女性5名のメンバーで活動しました。前年度から楽器・音楽コースを経験してきた青年が6名、他コースから参加した青年が4名、今年度新入の青年が1名でした。学級経験の長い青年と若手の青年が同じくらいの人数で構成されました。

活動内容に関しては、5月の若葉とそよ風のハーモニーコンサートに向けて歌を作っていきたいという青年が多く、楽器を演奏したい、歌をたくさん歌いたいという希望もありました。

2. 活動のねらい

- 話し合いを通して仲間の気持ちを知る、自分の気持ちを仲間と共有する
- 自分たちが何を表現したいのかを考え、仲間とともに一つの形にする
- 様々な人達の前で、音楽を通して自分たちの思いを発信する
- 楽器の演奏や歌づくり・コンサートづくりへ携わることで、新たな経験を広げていく

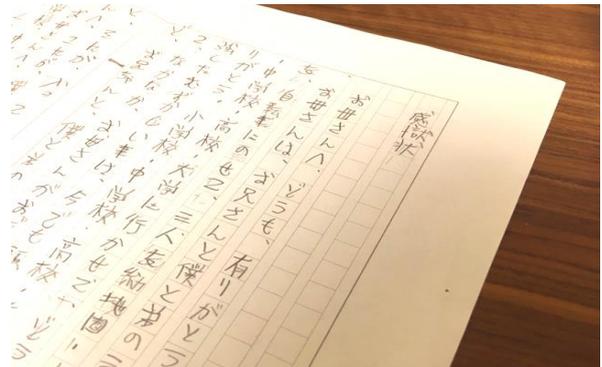
3. 活動の様子

(1) 歌をつくろう

活動当初から多くのメンバーに歌づくりへの強い要望がありました。歌のテーマとして挙げてきたのは「感謝、いのち、家族、仕事のこと」などでした。それぞれのテーマ設定について話をしていくうちに、メンバーに共通していたのが「感謝を伝えたい」や「ありがとう」という思いでした。そのため、テーマを「感謝」として歌づくりを始めることになりました。

(2) 感謝の手紙を書いてみよう

テーマが抽象的なこともあり、いざ歌づくりとなっても、これといった進め方がわからず話し合いは止まってしまいました。そこで、担当者から「感謝を伝えたい人に手紙を書く、というやり方はどうですか」という提案をし、賛同が得られたので「手紙」という手法を用いて歌の素材づくりを始めました。



作文用紙に自分で書く人、絵を描く人、筆談での聞き取りなど、想いの伝え方は様々でした。手紙の相手も、家族や先生、職場の仲間、学級の担当者と幅広いものになりました。絵を描いた青年は、なぜこの絵を描いたのかという想いを完成後説明しました。

手紙の文章を自分で読みながら、笑顔がこぼれる青年もいるほど、手紙や絵にかかれた一人ひとりのエピソードは心温まるものでした。聞いている仲間も笑顔になり、素敵な時間を共有しました。

また、「愛してるよ、ママ」など、日頃は恥ずかしくて出てこない言葉も、不思議と手紙だと書けてしまうもので、完成した感謝の手紙や絵は、相手への愛がたくさん詰まったものとなりました。

「いつか良い歌で感謝の気持ちを伝えたい」と思っていたので、手紙を書いて、それを歌にできて

嬉しいです」と最終日に青年の一人が語りました。

なお、この手紙と絵については、学級ニュースにも掲載しましたが、成果発表会でも一人ひとりが発表しました。手紙を書いた相手が成果発表会に来ていて、感謝のことは直接伝えることができた青年もいました。

(3) 感謝の気持ちから考えたこと

今回、手紙をお母さんに書いた、ある青年。いつも買い物のときには荷物をお母さんが持ってくれていたそう。ですが、手紙を書いた後に「これまでは、お母さんのしてくれることに感謝の気持ちでいっぱいでしたが、私も自立をしていかないといけませんね。今度は私がお母さんの荷物を持ってあげたいです。」と話しました。コースのメンバーが、「いいね!」と応援し、担当者を通じてこれからは自分が持つということをお母さんに伝えました。

しばらく経って、この青年は「荷物を実際に持ちましたよ」と笑顔で仲間に報告しました。手紙を書くことで感謝の気持ちから家族との関係を振り返り、そしてこれからの自分について考えるきっかけになったようでした。

(4) 太鼓に挑戦

青年の中に楽器をやってみたいという希望もあったため、学級にある締め太鼓と宮太鼓を叩いてみることにしました。コースに太鼓のサークルに所属していた青年がいたため、まずは手本で叩くと、その迫力ある音と叩く姿にみんなで感動! 「お〜! すごい!」「カッコいいね!」と盛り上がりました。

簡単なリズムを習い、他のメンバーも挑戦。リズム良く軽快に叩くメンバー、部屋中に響く音に

笑顔を見せるメンバー、カッコいいポーズをきめるメンバーもいて、楽しい時間を共有しました。活動の中では時間の都合上、これ以上取り組みができませんでしたが、「今後、曲に合わせてみたい、練習の工夫をしてやってみたいです」という声もあがりました。



(4) コンサートづくりへの関わり

わかそよづくりコースと合同で活動を行うことも多くありました。わかそよコンサートへ向けての話し合いに関わることとなり、コンサートづくりへ意見を反映させる機会を持つことができました。

特に、みんなのたいせつなことばコースでは、「いのちについてわかそよで伝えたい」という青年がいて、コース内でも共有されていました。そして、「いいいのちとわるいのちとは」「わるいのちなんてない」「いのちはみんな同じいのちである」など議論が発展しました。その中で、「いのちのかずだけことばがある。いのちのかずだけ人生がある。すべてはいのちの数だけ。」といったことばが生まれ、わかそよ実行委員会で提案することとなりました。結果的に、コンサートのテーマは「いのちのかずだけ おもいはある ~みんなちがってもいっしょに生きる~」となりました。わかそよづくりコースとともに活動をすることでコンサートづくりに携わることができ、「コンサートを自分たちで作っていること」そして「自分た

ちが伝えていきたいことは何か、ということ」をより強く実感する機会となったようです。

4. 課題と展望

(1) 感謝をテーマとした新曲の完成

コースの一番の目標であった「感謝の歌をつくること」にじっくりと取り組み、その達成を全員で喜びました。みんなの想いを形にした新曲が、「ありがとうのうた」です。

今回、歌詞のたたき台とメロディーについては、青年が書いた手紙や意見を反映させ担当者らが形づくりましたが、今回の経験を通して、「良い歌になって、嬉しい気持ちでいっぱいです。今度は私も歌を自分でつくってみたいです」と意気込む青年もいました。

今回、歌作りの素材として「手紙を書く」という手法を使いましたが、これにより感謝を伝えたい相手がイメージしやすくなり、また相手に語りかけるように自分が日頃使っている言葉を用いることになるため、より青年の言葉が引き出されやすくなりました。今回のテーマに適した手法となったように思います。相手との親密な関係性も文章から見えてくるため、家庭などが学級以外の場所での青年の表情も感じとることができました。

そして何より、手紙から歌詞がつくられ、それぞれのエピソードが入った歌になったことで、メンバーが描いていた「より自分たちに近い存在のうた」「みんなの心にしみ込んでいくうた」となりました。これからも感謝を伝える学級ソングとして歌い継がれていくことを期待します。

(2) みんなのことばをたいせつに

歌づくりの過程で大切にすることは、筆談で語る、選択肢の中から選ぶ、自分で話す等、青年それぞれが必要としている方法で意見を話し、一人ひとりの意見を反映して活動を進めるということです。

班長が不在の際は担当者が進めたり、活動の様子を見て、担当者がアイディアを出したり選択肢の提案をすることもありましたが、基本的な進行や最終的な判断はすべて青年が行いました。全員が意見をじっくり話して進めるということは、時間はかかるものですが、その分丁寧に活動をつくっていくことができました。活動最終日には「みんなとのんびり歌を作ってこられてよかったです」「このコースはどんなときもゆったりとした空気感で進んでいましたね」と青年が活動を振り返りました。

コース名どおり、「みんなのことばを大切に」にして活動できたコースでした。

(3) 活動の素材について

手紙を書くことから歌づくりに広げていくという素材は良かったのですが、時間的に他の素材へ取り組むことができませんでした。今後の楽器・音楽コースにおいては、スケジュールに余裕を持って歌づくり以外の時間も確保し、歌が完成した後は楽器で演奏をつける等、活動の幅を広げていきたいと思っています。





— 感謝の手紙 (抜粋) —

<お母さん、お父さんに向けて>

「感謝状」

お母さんへ、どうもありがとう。
お兄さんと僕とお弟の3人を自転車に乗せて、
3人を幼稚園・小学校・中学校・高校・大学に
行かせてくれて、どうもありがとう。
勉強したむずかしいことは、
今でも頭の中に入っています。



悩んだこともありましたが、お母さんがいてくれ
たから頑張ることができました。
今度是我がお母さんを支えたいと思います。
大変な買い物や洗たくを毎日やっている
お母さんを見て、いつもありがとうと思っ
ています。いつもおいしいごはんを食
べられて、私は幸せです。これか
らも愛しています、ママ、毎日あ
りがとう。愛してるよ、Yより。



お母さんはいつもAちゃんのことを考えて、
階段だったり、足場の悪い所を通らないように
してくれます。いつもありがとうと言
いたいです。あんなに愛してくれる人
はお母さんしかいないと思うから
です。Aちゃんは、これからもお母
さんと一緒にくらしていきたいです。
そして、一緒にたくさんお出かけ
したいです。そして、たくさん愛
していると言いたいです。
Aちゃんより。

お父さんいつもありがとう。
名前を呼ばれるたびに、愛されて
いることを痛感します。

いつもありがとう、お母さん。私
はあなたの子どもに生まれてこれ
てよかった。

お母さんへ 本を買ってくれること
みかんの皮をむいてくれること
感謝しています。

<担当者に向けて>

いつも送ってくれるTさんに感謝
しています。送ってもらわないと、
学級に來れないからです。他の
担当の方、みんなのためにしてく
れています。ありがとうございます。

<先生に向けて>

僕が今こうして太鼓を続けてい
られるのは、高校の授業で先生
に太鼓を教わったからです。高
校を卒業してからも太鼓をや
りたいと思います。太鼓のチ
ームに入りました。すごく楽
しいです。ありがとうございます。

<職場の仲間に向けての絵>



職場で使う道具や育てている花を描
きました。みんなで働くことが楽
しくて、いつも感謝しています。



ありがとうのうた

2 C G C C E G F C C G C C

1. あはたにおくる わんしじょう たいせつな あはたへ あいこめと じがしえ
2. あはたにおくる わんしじょう たいせつな あはたへ あいこめと じがしえ

8 A G C F G E F E C

かまじ た えいほう (ごほう)の たいの たのしき おいこめさん おいこめさん ぼくさんまはたへ あいこめさん かんじえこめと かんじえこめと かんじえこめと

14 F G E F G C F E

あはたのこどもに ころをあげて くれ る おとーおとーん かあーさん かんじえこめと かんじえこめと かんじえこめと

20 F E F G C F E F E

あはたのこどもに ころをあげて くれ る おとーおとーん かあーさん かんじえこめと かんじえこめと かんじえこめと

25 F G C G C F E F G C

あはたのこどもに ころをあげて くれ る おとーおとーん かあーさん かんじえこめと かんじえこめと かんじえこめと

31 F E F E D C

あいしてる まわりをたのしむ ありがとうのうた

こうみんかんがつきゅう
公民館学級 ひまわり(ものづくり)コース

かつどう なが
活動の流れ

6月10日	開級式
6月17日	自己紹介、今年の目標、コース名決め(ひまわりコース)
7月1日	係決め、看板作り、七夕飾り作り
7月15日	近況報告、ペットボトル工作
9月2日	夏休みの思い出、合宿の話し合い、国際版画美術館の市民展の見学
9月16日	調理(焼きそば、フルーツポンチ)、粘土工作
10月14日	合宿の話し合い、粘土工作
11月4日	合宿の話し合い
11月17日	合宿1日目：朝食の食材の買い出し、相模原麻溝公園へ外出
11月18日	合宿2日目：朝食作り(サンドイッチ、ポテトサラダ)、落ち葉で作品作り
12月2日	合宿の振り返り、クリスマス会の話し合い、成果発表会の話し合い
12月16日	クリスマス会(合宿で作った作品の発表)、年明けの活動の話し合い
1月20日	近況報告(冬休みの思い出、新年の目標)、フィンガーペイント
2月3日	調理(ラーメン、チャーハン、餃子)、フィンガーペイント
2月17日	テロ災害合同訓練の見学、成果発表会の練習
3月3日	成果発表会

1. ひまわりコースの特徴

今年度の「ひまわりコース」は、男性8名で活動しました。昨年度から継続して所属するメンバーも含め、新たに2名がものづくりコースに加入了。例年、1年を通し様々なものづくりを行います。が、「調理をしたい」「公園へ行きたい」などの意見が年度当初から多くあがりました。活動内容についてはメンバーで話し合いを重ねて決めていきました。

年度終わりの成果発表会に向けては「みんなで一つの作品を作りたい」という意見が多くあがり、コース名であるひまわりの絵をメンバー全員で作ることができました。またひとりひとりの作品をメンバーに紹介する時間もあり、1年間を通して様々な活動ができました。



2. 活動のねらい

- ・互いの意見を認め合いながらオリジナルの作品を作り上げる
- ・仕事を含む日常生活での出来事や思いを共有し、創作活動へつなげる
- ・個性を大切にし、それぞれの表現の方法を

尊重する

- ・1年を通じて仲間との創作活動時間を共有し、ものづくりの楽しさを共有する

3. 活動の様子

(1) 話し合いから出た取り組み

ものづくりコースには長くものづくりに在籍している青年が多くいました。青年の意見を取り入れた活動をするため、午前中は話し合いが多く行われました。その中で、「調理がしたいです」「版画美術館へ行きたいです」「電車とバスで出かけたいです」などの意見があがりました。また、青年が職場で取り組んだというペットボトルを使った工作の話題になり、その日の午後の活動に早速取り入れました。話し合いの中で出た意見をコースみんなで共有した活動ができました。

① センター祭りへの出展

10月に行われた生涯学習センターのセンター祭りに公民館学級として作品を展示しようという話題になり、「紙粘土で好きなものを作りたい」という意見を取り入れました。青年がそれぞれテーマを決めて作品作りに取り組み、3日間展示がされました。11月の合宿では他のコースの青年に向けて作品のテーマを発表しました。近い距離で



はありましたが、自分たちの作品を外に向ける事ができました。



② 外出

年度当初から「外出がしたいです」「みんなで電車やバスを使って外へ出たい」との声が多くありました。そんな中、「コースでの創作活動に生かしたい」という意見から、市内の国際版画美術館の市民展（絵画や写真、陶芸）などの見学に出かけました。「電車の写真が良かった。いつか写真もやってみたい」「富士山や海、紫陽花の花の絵がきれいだった。ひまわりの絵が印象的だった」などの感想があがり、外部の作品を見たことで色づかいや風景の鮮明さを感じる事が出来ました。そしてその日は「喫茶けやき」で昼食をとり、数少ない外食タイムをみんなで過ごしました。



また、合宿の初日には「公園に行きたい」「アスレチックがしたい」との意見から、相模原麻溝公園へ出かけました。



公園ではふれあい動物園、アスレチック、展望台見学など普段とは異なる活動ができました。また、事前に「公園で拾った落ち葉で作品を作りませんか」との提案があり、合宿2日目にはそれらを用いて合宿の思



いで 作品で 表現 しました。その 作品は クリスマス 会で 他の コースの 青年に 紹介 しました。

③ 調理活動

調理活動は合宿も含めて3回取り組みました。メニューは多数決を取り、9月には焼きそばとフルーツポンチ、合宿ではサンドイッチ、2月にはチャーハンとラーメン作りを行いました。9月と合宿時の活動では数人で具材の買い出しから始めましたが、2月の調理では出来合いのチャーハン、ラーメンに自分たちの好きな野菜を追加することなどを行いました。「みんなで作れて楽しかった」「今年からのメンバーと調理ができてよかったです」など感想が話され、青年からあがったメニューを一通り作ることもでき、重要な活動内容となりました。また、調理活動により余った昼食代で年度末にはみんなで取り組んだフィンガーペイントのクリアファイルを作成して、ひまわりコースの思い出の作品を手元に残すことができました。

④ フィンガーペイント



年末に成果発表会で何を発表するかという話し合いの中で、「みんなでひとつの作品を作りたいです」と多く意見があがりました。新人の青年も含め、合宿を機に作品づくりに用いる色が増えたこと、前年のものづくりコースがパフォーマンス書道を行っていたことから、たくさん色を使える「フィンガーペイント」に取

り組みました。作品のテーマには「コース名のひまわりを描きたいです」「発表の時には世界に一つだけの花を歌いたいです」と話され、「世界に一つだけのひまわりコース」として全員でテーマに向けた作品作りを行うことができました。

作品は、溶かした小麦粉に絵の具を混ぜたものを手や指につけて、半紙に伸ばして描く方法を取りました。大きな半紙にダイナミックに色を重ね、手が汚れることを遠慮するメンバーはクレヨンやペンで細かい部分を描き、それぞれが思い思いの色を使い空に浮かぶひまわりの絵が完成しました。



「自分達で作ったとは思えないくらいすごい作品
ができました」と話があがるように、1年間の
活動でも印象に残る内容になりました。

また、この作品が第19回若葉とそよ風のハーモ
ニーコンサートのポスター素材として使用された
ことで、青年学級を越えた方々にも自分たちの
作品や活動を伝えるきっかけになりました。また、
「ひとつの作品を全員でつくる」ことで青年同士
が作品を描きながら話す姿などが見られ、自然と
仲間意識も生まれたのではと思います。



⑤ 成果発表会

成果発表会ではスライドに合わせ1年間の
活動を紹介し、各自の感想も併せて発表しまし
た。フィンガーペイントの絵をつるし、「クレヨン
でチューリップを描きました」「家族に伝えたいで
す」「水色で空をイメージして描きました」と思い
思いの感想を伝えました。また、振り付け付きの
歌で「世界に一つだけのひまわりコース」という
テーマを伝えることができました。

(2) 青年同士の関わり

男性8名のうち、学級歴の長い青年が6名、
若手の青年が2名という構成でした。ものづくり
という個々の創作活動になりがちですが、活動
のねらいである「互いの意見を認め合いながらオ
リジナルの作品を作り上げる」という点は、互い
の作品をテーマとともに発表しあう時間を設け
た事で達成できたのではと思います。

また合宿では、若手の青年に「初めての合宿は
どうでしたか」「また来年も一緒に行きましょう」
などと話し掛け、学級歴の長い青年がコース活
動をリードする姿が見られました。

(3) 担当者の役割

コース活動では青年の意見を聞き、話し合いを
重ねて活動を進めていきました。例えば外出とい
う声があがった時、担当者では実現させるために
どこが妥当か、全員の希望に合う施設はどこか、
行き方などを慎重に話し合いました。結果、国際
版画美術館の市民展が活動日に開催されていた事、
相模原麻溝公園にアスレチックや展望台がある事
などの情報共有ができ、青年に提案する事がで
きました。青年の意見を活動に反映させられるよ
う、担当者それぞれの話題や情報提示が必要だと
感じました。

4. 課題と展望

1年間の中で、調理は合宿も含め3回、外出2
回、年明けからは全員で一つの作品に取り組むな
ど、青年からあがった意見を反映させながら多く
の活動ができました。

しかし、活動内容を話し合い、ものづくりや調

理を開始するという流れが多く、青年の仕事のこ
とや近況報告など、それぞれの話をする機会が
少なくなりました。1年間同じコースの仲間とし
て活動するという事は、活動以外でも普段の思い
や悩みを共有する事も大切です。コースの基盤は
「ものづくり」ですが、今後はそういった話し合
いの場を設ける事も必要です。

また、外出には国際版画美術館、相模原麻溝
公園に出かけ、青年からも「みんなで行ってよか
ったです」「1年のうちで一番の思い出です」など
の意見があがりました。絵や写真の鑑賞、素材集
めを外で行うことで、その後の作品づくりに活か
せることが多かったのではと感じます。しかし、
「地域・外部との交流」という点では活動に反映
させることが少なくなっていました。例えば、
他団体のものづくり教室に参加する、自分たちの

作品を作品展などへ出展する事などがあげられ
ます。そのような取り組みの参加へは、やはり
担当者が日頃から情報収集に努める必要があ
り、今後の課題です。



こうみんかんがつきゆう
公民館学級 くらしコース

かつどう なが
活動の流れ

6月10日	開級式
6月17日	「コンサートづくりコース」について 「ひとつのいのち」を歌う
7月1日	自己紹介 コース活動の方向性について
7月15日	見学者に自己紹介 調理実習（お好み焼き） 次回の活動について
9月2日	活動の振り返り 近況報告（夏休み） 合宿について 職場見学について
9月16日	職場見学について 生涯学習センターまつりで歌う曲について
10月14日	ダリア園（かがやき）見学 合宿について
11月4日	ダリア園見学の振り返り 合宿の発表について 働くことについての作文
11月17日	合宿1日目：朝食の買い出し 交流会で作文と「いつまでもともだち」の発表
11月18日	合宿2日目：朝食づくり JAXAと相模原市立博物館の見学
12月2日	クリスマス会の発表について 合宿の振り返り
12月16日	パン作りの話し合い クリスマス会の発表の準備 クリスマス会
1月20日	パン作り お互いの作文の発表 成果発表会について
2月3日	近況報告 仕事についての話し合い 成果発表会について
2月17日	成果発表会で発表する内容の確認 うたの練習
3月3日	成果発表会

1. 集団の特徴

メンバー構成としては、全員が前年度くらしコースに参加していた男性が9名。さらに全員が、

学級経験の長い青年で構成されています。少人数で落ち着いていて、長く歩けない青年が1名、車イスの青年が3名いるため、外出は人手を要しますが、青年学級での経験が豊富なため、様々な活動に取り組みやすいメンバー構成でした。

昨年のくらしコースで活動への意見を積極的に述べて引っ張ってきた青年が、今年度は数名が他のコースへ移りました。話し合いでは5名が主に自分の言葉で発言し、4名が主に筆談（介助付きコミュニケーションの手法）を用いて発言していました。

活動内容に関しては、仕事や生活のこと、亡くなった仲間のこと、「津久井やまゆり園」の事件のことについて考えていきたいという意見が出され、翌年5月の「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」で何を発信していくかということについても高い関心を寄せていました。

短期入所やグループホームの利用状況から、欠席が多くなる青年が2～3名いました。

2. 活動のねらい

活動の狙いは以下の3点です。

・仕事や暮らし、仲間のことに関する話し合いや作文を書くことで、自分たちの想いを伝え合い、互いの想いを共有する。

・職場やグループホームの見学や、料理などの活動をとおして生活や仕事の中の楽しさや豊かさを見つめ直す。

・作文などの自分たちメッセージを社会に対して

発信することで、自信を持って生活していく力を身に着ける。

3. 活動の様子

(1) 仲間づくりと発言の様子

今年度のくらしコースの活動は、話し合いと作文を書くことをベースにして活動してきました。その間に、仕事についての話し合いから職場見学としてダリア園に出かけたり、パンの販売をしている仲間の発言からパン作りをしたりするなどの活動を行ってきました。

また、活動の区切りには、作文を書くことが習慣化し、作文を読みあうことで仲間との関係も深化してきたように思います。

話し合いは自分の言葉で話し言葉で伝えることが得意な一般就労をしているAyさん、パンの販売が好きなIsさん、複数の職場の経験を持つYkさんから進んでいきました。

仕事中の事故で車イスに乗るSkさんも積極的に発言し、中学卒業時から青年学級に参加しているSmさんも言葉数は少ないものの話し合いには積極的に参加していました。

ダリア園を運営する職場で働くMmさんも質問に対して的確に意思を示し、必要な場面では筆



談^{だん}が発言^{はつげん}していきました。ベテランで最近^{さいきん}グループホームで暮らし始めた^{はじめた} Ks さんは、自分で^{おこな}行う意思^{いし}表示^{ひょうじ}を大切に^{たいせつ}しているので筆談^{ひつだん}を多用^{たよう}はしません^しが、Ks さんの意見^{いけん}を聞き^きたいときに声^{こゑ}をかけると、筆談^{ひつだん}でベテランらしいグループをリードする^{はつげん}発言^{はつげん}をしていました。

20代^{だい}で車イス^{くるま}に乗^のる Fg さんは、意見^{いけん}を声^{こゑ}や拍手^{はく}、体^{からだ}の動き^{うご}を使って^{つか}かなり適切^{てきせつ}に表現^{ひょうげん}し、まとまった意見^{いけん}などを聞^きくときに筆談^{ひつだん}を利用^{りよう}していました。ベテランの Mm2 さんは、車イス^{くるま}での活動^{かつどう}が續^{つづ}くと疲^{つか}れてしまい、日中^{にちゆう}に目^めをつぶることもありましたが、質問^{しつもん}に対して手^てをあげたり、表情^{ひょうじょう}を使って^{つか}コミュニケーションをとったり、筆談^{ひつだん}でも意見^{いけん}を伝^{つた}えていました。

(2) 取り組んだ活動

① 職場^{しよくば} (ダリア園^{えん}) 見学^{けんがく}



コース活動^{かつどう}の中間点^{ちゆうかんでん}で行^{おこな}った「ダリア園^{えん}」外出^{がいしゅつ}は、きれいに咲^さいたダリア^みを見^みられただけでなく、仲間^{なかま}の職場^{しよくば}を訪^{たず}ねるとい^{おお}きな意味^{いみ}がありました。「ダリア園^{えん}」では、たくさん^{ひと}の人が見^みに訪^{おとず}れるダリア^みを育て^{そだ}ていることを誇^{ほこ}りに思^{おも}う松井^{まつい}さんに、仕事^{しごと}について話^{はなし}を聞^きくことができました。鮮^{あざ}やかなダリア^{はな}の花^{はな}と共に、一年^{いちねん}の活動^{かつどう}を振り返^{かえ}るうえでも彩^{いろど}りのある大切^{たいせつ}な活動^{かつどう}となりました。

仕事^{しごと}に誇^{ほこ}りや喜び^{よろこ}を感じ^{かん}ている Mm さんの発言^{はつげん}を聞^きき、その後^{のち}の振^ふる舞^まいや表情^{ひょうじょう}を改^{あらた}めて見^みつめ直^なすと、ふとした瞬間^{しゅんかん}に落^おち着^つきや尊^{そん}厳^{げん}を持^もった壮年^{そうねん}の姿^{すがた}を伺^{うかが}うことができました。

② 調理^{ちようり}実習^{じっしゅう}

前期^{ぜんき}から行^{おこな}ってきた調理^{ちようり}実習^{じっしゅう}も、コースに弾^{はず}みをつける活動^{かつどう}として定期的^{ていきてき}に取り組^とみましました。お好^{この}み焼^やきづくり、合宿^{がっしゆく}での朝食^{ちようしゆく}づくり、生地^{きじ}から作^{つく}るパンづくりと3回^{かい}行^{おこな}いました。



特^{とく}に最後^{さいご}のパンづくりは、Is さんがパンを販^{はん}売^{ばい}していること^{こと}や Yk さんの職場^{しよくば}でパンを作^{つく}っていること、Sm さんからパンを作^{つく}りたいとい^{いけん}う意見^{いけん}があ^あがったこと^{こと}からスタート^{スタート}しました。

パンづくりは、粉^{こな}を混^まぜて生地^{きじ}をつくり、一次^{いちじ}発酵^{はつこう}の後^{あと}に成^{せい}形^{けい}し、二次^{にじ}発酵^{はつこう}から焼^あき上^あがりまで自分^{じぶん}たちの手^てで行^{おこな}い、本^{ほん}格^{かく}的なパン^{ぱん}を作^{つく}りました。普^ふ段^{だん}は完^{かん}成^{せい}品^{ひん}しか手^てにしな^いいパン^{ぱん}を一^{いち}から作^{つく}ったこと^{こと}で、Fg さんも、パン^{ぱん}作り^{つくり}を仕^し事^{ごと}としてとらえ



はつげん
の発言をするなど、たのしみとしてのちょうりから、し
ごと
事や生活の豊かさを自分たちの手に取り戻す活動
になりました。



④ JAXAと相模原市立博物館へ

おおちきわせいしやうねん
大地沢青少年センターに合宿に行った2日
は、JAXAと相模原博物館に外出しました。室内
での活動が多いコースなので、合宿と併せて良い
きぶんてんかん
気分転換と社会科見学になりました。特に車イス
に乗る Fgさんと公共交通機関を利用して外出
したことは、特別な気分の高揚がありました。



⑤ 成果発表会で自分の思いを伝える

がっしゆく
合宿の交流会のコース発表、クリスマス会の
コース発表、成果発表会と、発表する機会があ
るときは、コース内の話し合いを重ねた上で作文
を書き、発表していました。うたも昨年さくねんのくらしコ
ースで、青年学級のリーダーの一人であった茂垣
まさこさんが亡くなったことを契機としてできた

「いつまでもともだち」というオリジナルソング
を欠かさず発表し、クリスマス会からは「わたし
のしごとのうた」を加えて発表していきました。



♪いつまでもともだち

- 1 ここにあなたのいすがある
でもここにあなたはいない
今ぼくたちにはこのいすに
すわってるあなたが見える
だからぼくたちはこのいすを
けっしてしまうことはない
あなたとずっと友だちだから
あなたも友だちでいてほしい
- 2 ここにあなたの道がある
でもここにあなたはいない
今ぼくたちはこの道を
あなたとともに歩いていく
だからぼくたちはこの道を
けっして見うしなうことはない
あなたとずっと友だちだから
あなたも友だちでいてほしい

か
書いた作文をすべて集約できませんでしたが、
いんしやうてき
印象的な作文を数多く書きました。Skさんの長

編の作文は、20代に巻きこまれた交通事故から始まる自叙伝風の文書でした。重要な事実を淡々と語る場所を担当者が聞き写しました。様々な感情が去来する事故からこれまでの時の流れを作文という形で切り取りました。

また、班長のAyさんが成果発表会でコースを代表して書いた作文は、一年間で語られた仲間の思いを包括するメッセージ性に富んだ内容でした。

コース活動では、仕事のこと、生活への思い、そして失われた仲間や亡くなった友のことを語り合ってきました。Ayさんの中では、障がいや差別、いのちの問題を常に真剣に考えていた亡くなった仲間たちへの思い、自ら命を絶った友人への思い、そして尊い命を奪われた「津久井やまゆり園」の仲間への思いを自分の言葉で、しっかりと文章にまとめました。

Ayさんの作文は、亡くなった仲間たちの思いと響きあっているように響く印象的なメッセージとなりました。

また、最後に発表したのは、グループホームを利用する都合で活動を欠席することが多かったKsさんが成果発表会に向けて書いた作文でした。Ksさんの長年の友人で、青年学級のリーダーの一人であった故人の杉本好郎さんが、演劇やダンスを通して仲間の心に届けていたやさしさと明るさをみんなに伝える内容でした。当事者としてしか伝えられない暖かさをもって書いていたのが印象的でした。なお、Ksさんの作文は、筆談で担当者が聞き取って書きました。筆談で聞き取る時にKsさんは、大きくうなずきながら肯定の声をあげていました。

4. 課題と展望

作文を中心に活動を進めるときに、一人ひとりと向き合えば充実した作文が生まれるのでしょうか。例えば過去の交通事故の経験を作文につづったSkさんは、もう少し時間をかけて過去から現在へ、そして将来への展望に筆を進められたでしょうか。

もしかしたら、一人で書き進めることを急いでも、あまり意味がないのかもしれませんが。それぞれの仲間の作文が充実していたのは、仲間と共に話し合い、経験し、書きあい、読みあったからだと考えています。古くは生活綴り方で子どもたちが生活を見つめ直す中で自分の思いと社会を活写したように、現在では識字教育の場や夜間中学などで学びあいながら、その学びが社会を照らすように実践は進んでいくものなのかもしれません。

そこには、様々なことを話し合える仲間の存在がとても大切です。障がいがある当事者は、社会や生活の中で、常に差別にさらされて生きています。実は、自分の思いを語ることや意思を正しく伝えることはとても困難です。その仲間の思いを引き出すためには、真剣に語り合える仲間の存在や自由に話せる場がとても重要なのです。

また、今後さらに、活動を進めるために、学びを深めるための素材の提供を行っていく必要があると感じています。青年学級での学習で、様々な社会の問題や本物の文化と出会い、丁寧に向き合うことができれば、さらに豊かな文化を障がいがある当事者が発信していけるのではないのでしょうか。

いつまでも友だち

C Am Em
 こ こ に あ な た の い す が あ る
 こ こ に あ な た の い す が あ る

Dm7 G7 F G7
 で も こ こ に あ な た は い な
 で も こ こ に あ な た は い な

C C
 い い い ま ほ く た ち に は
 い い い ま ほ く た ち に は

Am Em Dm7 G7
 こ の い す に ー す わ っ た る
 こ の い す に ー す わ っ た る

F G7 C
 あ な た が み え る
 あ と も に あ ゆん で い る

Am F E7
 た か ら ほ く た ち ー は こ の い す き
 た か ら ほ く た ち ー は こ の い す き

Am F G7
 け っ し て し ー ま ー う こ と は な い ー
 け っ し て み う し な ー う こ と は な い ー

F Am Dm7 G7
 あ な た と す っ と ー と も た ち た か ら
 あ な た と す っ と ー と も た ち た か ら

F Am G7 C
 あ な た も と も た ち で い て ほ ほ し い
 あ な た も と も た ち で い て ほ ほ し い

こうみんかんがっきゅう
公民館学級 **ハッピー生き生き！スポーツコース**

かつどう **なが**
活動の流れ

6月10日	開級式、話し合い（学級全体で、コンサートコースについて）コース決め
6月17日	話し合い（学級全体で、コンサートコースについて）コース決め、話し合い
7月1日	話し合い、制作（短冊に思いを書く、ゲームカードづくり）話し合い、ボッチャ
7月15日	話し合い（コース名について確認）ゲーム、話し合い（今後の活動について）
9月2日	話し合い（合宿キャンプファイヤー、次回の外出、夏休みなど近況報告）外出
9月16日	外出（相原界限）話し合い（外出の思い起こし、合宿について）
10月14日	話し合い（係の確認、合宿について）ボッチャ、話し合い（合宿の確認）
11月4日	応援担当者に自己紹介、話し合い（合宿の発表について）制作、発表、ゲーム
11月17日	合宿1日目：かしのき山ウォーキング、合宿合流、コース発表
11月18日	合宿2日目：草戸山ハイキング、調理活動
12月2日	話し合い（合宿の思い起こし）制作（お礼の手紙）話し合い（クリスマス会）
12月16日	制作（めくり作制・発表の絵を描く）発表
1月20日	話し合い（見学者へ自己紹介、正月からの近況報告）ウォーキング、話し合い
2月3日	話し合い（成果発表会）外出、豆まき
2月17日	話し合い（成果発表会台本作り、当日役割）練習
3月3日	成果発表会練習、お茶会、成果発表会参加、

1. 集団の特徴

「身体を動かしたい」「どこかへ出かけたい」「健康になりたい」「スポーツをしたい」という20歳代4名、40歳以上4名の男女が集まりました。1名土曜学級からベテラン学級生が移動してきましたが、その他の学級生は、全員が健康コース経験者です。グループホームで生活している学級生が2名、家庭で生活している学級生は7名。そのうち2名は週に一日から二日、グループホームにショートステイしています。

ベテラン学級生がリードする発言に「どうですか」と担当者が投げかけると他の学級生も意見を出すなどゆったりとした雰囲気での活動でした。土曜学級から移動してきたベテラン学級生のユニークな発言が活動の中で、良いエッセンスとなっていました。

2. 活動のねらい

一昨年までのフットベースボールやポッチャで「打倒、ひかり学級！」と掲げてきた、強い要求はなくなり、健康からだづくりコースの軸となるものが変化してきました。そこで、学級生それぞれが、このコースで何がやりたいのかを明確にしていく必要があります、コース名を決めるときに丁寧に話し合っていました。スポーツ全般を楽しみたいという要求、また、少しの時間でも健康のために近隣を歩きたいという要求が多くあり、今年度の活動の大きなねらいとなりました。

- ・いろいろなスポーツに積極的に参加することや、近隣のウォーキングを短時間でも行うことで運動をすることに興味と関心を持つと同時に体力を増進して気力を高めていく。
- ・健康を維持するために自らの健康法を話したり、

資料を見たりして、健康について関心を持つ。

- ・コースの中で一人ひとりが役割を分担して活動する中で、互いの存在を認識し、仲間づくりにつなげていく。
- ・自己紹介、近況報告などの話し合いを通して仲間の生活を知り、自分の生活を伝えることで自身の生活を見つめ直すきっかけを作る。
- ・昨年から取り組んだポッチャをさらに楽しんでいく。昨年経験していない学級生にルールなど伝えていく。また、独自の練習やルールも考えるというねらいで活動をスタートしました。

3. 活動の様子

(1) 話し合い

① コースの名前を考える話し合い

「健康」のイメージは？の問いかけに、「ハッピーがいい」「いきいきしている」「生き生きの漢字がいい」「元気」「スポーツをしたい」と、それぞれの発言がありました。そこから出てきたコース名の意見は、ハッピーコース、生き生きコースけんこう元気コースと発言が上がりました。その意見を総合して「ハッピー生き生き！スポーツコース」と全員が納得したコース名が決まりました。

② 健康について話し合う

今年度の活動日の前半は、異常な暑さの中で行われました。健康を考えるコースとして熱中症について話題が出ました。熱中症にならないよう気を付けようと「前に健康コースで、熱中症予防ドリンクを作って公園で運動中に飲んだね」と経験の長い学級生が具体的に入れた食品を挙げながら話しました。また、自分の健康管理はどう行っているかをテーマに話し合いました。そこから、健康診断の話合いになりました。「月に2

回、歯の掃除に行っている」「お母さんと検診に行く」「職場でやっている」「職場で誕生日が来たらやります」皆さんほぼ、身長、体重、尿を採る、血液検査、X線を行っているということでした。

後に、この活動のニュースを見た家族に勧められ、健康診断に行ったことを「12月に誕生日祝いをしてもらいました。初めて健康診断を受けに行きました」と近況報告の中で話した学級生がいました。学級ニュースに書いた活動の事柄を、家庭でも参考にし、学級活動を、生活の中に取り入れていたことがわかり、話し合いの活動の意義を感じました。

③係決め

班長3名、副班長2名の立候補がありました。それぞれの仕事の内容を挙げていき、帰りの集いに参加後17時までの班長会に参加できる、できないという話し合いの結果、班長会に参加できるメンバーと活動中頑張りたいメンバーの2人体性で行っていくことになりました。

(2) ウォーキングからハイキング、山登り



開級式から、前期4回目の活動で、話し合い後、恩田川を渡った先のかしのき山へ外出しました。目的地まであと15分というところで雨模様になり引き返しました。2時間ほ

どウォーキングをし次回の足慣らしを行うことができました。

話し合いの時、「アイスクリームを食べたい」と

言っていた仲間のために閉店が決まっていたアイスクリーム工房へウォーキングする計画ができ、途中スポーツもしながら、往復4時間、初秋の相原界隈を歩きました。

2年前、高尾山に登った経験者から、再度ハイキングの活動を行いたいという要求が多く出ていました。合宿では、



9月に途中雨が降ってきて引き返した、かしのき山ハイキングのリベンジを行うことになりました。

朝の往路では、「かなったね!」と嬉しそうに語る学級生や「やまのぼり!」と日頃ほとんど発言しない学級生の生き生きした発言は、歩いたことのないこれから先の続く道への期待感にあふれていました。2日目の草戸山ハイキングでも、峠までのちょっと急な道を緊張して登り、やっと頂上に着いた時は皆、達成感に満たされた表情でした。

(3) スポーツ

①相原中央公園での活動

相原界隈のウォーキングにて立ち寄った公園で、ラジオ体操第1を行った後、





スポーツを 30分ほど
楽しみました。「公園で
やったバドミントンは
楽しかった」「フリスビー
をやりました」「暑か
ったけど頑張りました」

「バドミントンしました」「フリスビー、バドミントンやって楽しかった」「アスレチックやった」「アスレチック、フリスビー」(ベンチに座り、3メートル程前の担当者に投げるといいう学級生が考えたやり方)と、それぞれが好きなスポーツを十分楽しみました。

② 凧あげ

正月明けの学級日に、近況報告などの話し合い後、近隣の芹ヶ谷公園へ、ウォーキングにいき、公園で凧あげをしました。ちょうど凧を受けて高くあがり、各自が懐かしい体験をしました。



③ ボッチャ

昨年度盛り上ったボッチャは、話し合いの合間に投げる練習として行いましたが、実際にはコートを作って対戦することはできませんでした。当初、要求が出ていた活動でありながら実践の活動につながりませんでした。

④ ゲームで対戦

一定時間、2色の紙をひっくり返し、色の多さ

を競う、ゲームを楽しみました。

自発的に笛を持ってきて、笛を吹き、スタートと終了の合図を行う役目を行う学級生もいました。「もう1回やろう！」その後トーナメントで5回戦やり終了後「おもしろかったね」と皆、汗を拭きながら話していました。話し合いの合間に行った簡単なゲームで「ハッピー生き生き」を実感できた活動でした。

(4) 合宿の調理

2日目の昼食調理について、話し合いでしたが、2日間とも、ハードな活動ですので、栄養を付けたメニューを考えることを担当者が提案しました。プルコギ風豚丼のほか、味噌汁を具だくさんにし、豆乳汁を作ることに決まりました。具を何にするかでは、白菜、人参シイタケ、ネギ、豆腐があげられました。「シイタケは副班長の職場のシイタケを頼もう」「マスクをした方がいいかな」と経験豊富な学級生たちの貴重な発言もありました。「白菜、大根を切った」「玉ネギの皮をむいた」「玉ネギ、パプリカ、ピーマン、シイタケ





を切ったり肉と野菜をまぜあわせた」「白菜をちぎった」「リンゴの皮をピーラーでむいた」「食器をそろえた」「味見をした」「箸を並べた」「ミニトマトを半分はんぶんに切った」など家庭やグループホームでは、

行く機会が少い調理活動ができました。

分量や手順を確認し、全員参加の調理活動で、

「おいしかった!」と好評で大満足でした。

班長の学級生は「調理をみんなでやったね、栄養満点だったね」と思い起こしの時、印象を語っていました。そして合宿1日目の夕食のカレーライス作りをしてくださった「町田市退職者会の方たちにお礼状を書きましょう」という配慮も忘れず、皆で寄せ書きを作成しました。

(5) クリスマス会

班長から「班長会でクリスマス会で発表をするかしないか決めてくださいと出ていますのでみなさんどうしますか」と発言がありました。皆さん発表したいという事でしたが、いざ何をするかは出てきませんでした。近況報告の中で「インフルエンザが流行っているので気を付けよう」という発言から、どう気を付けたらよいかなどを話しあうことができました。そこで担当者からインフルエンザ予防の話題をもとにクリスマス会発表するのはどうかを提案していました。今年もインフルエンザが猛威を振るい、報道や職場の啓発などで、「インフルエンザ予防」は学級生の意識に

はしっかりあるようで、やる気になり、言葉だけの発表でなく、字や絵を描いてインフルエンザ撃退法を発表しようという話し合いになりました。発表当日は学級ソングの「健からソング」を♪さあ、みんなでスクラム組んで戦え、健からファイトだ、ファイトお〜♪と歌い、インフルエンザの風船が割れるはずでした。発表では撃退のタイミングはイマイチでしたが、この冬、インフルエンザに感染したのは担当者ぐらいで学級生は全員インフルエンザに罹ることなく過ごせました。

(6) 成果発表会

成果発表会の前、2月3日の活動日、成果発表会の話し合いの後、豆まきをしに近くの公園に行きました。その後、センターに帰り、つづきの話し合いをしているときに、横になっているおおがらが突然、怒り出し「KSさんが、僕の頭を蹴ったー」と指差したのです。その勢いに部屋にいた皆がびっくりしました。日頃ほとんど発言をせず、友達との関係性があまり見られず、コース内のメンバーの名前を呼んだことがなかったADさんが大声で名指ししたことに、一同驚きと共に感動しました。しかし、共感する間もなくADさんからKSさんへの反撃が始まり、それを夢中で担当者が制止し、やっと収まりました。頭を蹴ってしまったKSさんに理由を聞くと「イライラしていたから」ということでした。自分の行為を反省したKSさんがADさんに謝ってその日は収まり、両家庭にトラブルの次第を話し、変化が見られたら受け止めていってほしいことを伝えました。担当者として二人の思いを察知することができず、大きく反省をしました。

3月初め、コースが一丸になって取り組む成果発表会で発表ができるのか、とても心配しました。しかし、当日、かつて成果発表会で舞台上に立って発表することのなかったADさんは皆と一緒に参加し、「KSさんの大好きなアイスクリームのお店に行きました」と前活動のわだかまりなく、見事に発表しました。

発表会前に、班長がセンター内にある喫茶にケーキとコーヒーを予約しました。当日、食後のティータイムでADさんに「何ケーキを注文したんですか」と尋ねると「ミルフィーユ！」と即、返事が帰ってきて、ADさんとの関係がぐっと近づいてきたのがわかりました。

(7) 仲間づくり

① 係の仕事

合宿が終わり、前期総括を作成時に班長、副班長の仕事で日中頑張る班長副班長の支援をしていないことに気づきました。11月からでしたが係など役割を明確にし、皆で確認しました。朝の出欠をとる、テーブルやイスを設定するなど係の仕事を支援していきました。一人ひとりに支援していくことで上達していくことを周りの学級生が認め、学級生自身もうまくできるようになってきたことを実感していくようになってきました。出欠をとる班長の声が小さいと周りの学級生が私語をやめて注目する、テーブルとイス出しを手伝うなど、他の学級生に協力することや相手を尊重する姿が見られてきました。

「今日は休みだから私が代わってやります」と互いの存在を認識し、仲間意識が深まっていきました。

4. 課題と展望

活動で行いたい事の一つのボッチャは、投げる練習は何回か行いましたが、試合形式の活動は行うことができませんでした。実践の活動は、それに向かっていく活動として昨年度は多くの意義がありました。勝利するためのいろいろな経験や、ルールを忘れないうちに、ボッチャは来年度再度、経験していきたい活動です。

前期総括にて、活動を顧みて、担当者の意識に抜けていた事があったことに気づき、後期から取り組んだ係の仕事は、学級生自身が個々の事ととらえ積極的に活動する姿が見られました。また、それを互いに認め合う姿を発見することができました。

学級生との活動は、活動後の担当者会議で担当者同士思い起こしすることで共有していきます。しかし、当日だけ参加する担当者は担当者会議に参加しないため、活動の共有をすることができない悩みがありました。担当者同士、同じ気持ちを持って取り組めるよう前期、後期に総括の話合いの時間を持ちました。毎回思い起こしを行うことで共有するより時間差はありますが、総括で話し合う事で、学級日だけ参加する担当者が学級生との関わり方について共通理解を持ってました。総括で話し合い確認する事は、少ない担当者体制でも、より良い活動ができるようにしていくために必要なことであり、一つの方法だと思いました。



こうみんかんがっきゅう ゆめ
公民館学級 夢のあかりコース

かつどう なが
活動の流れ

6月10日	かいきゅうしき 開級式
6月17日	じこしょうかい <small>こんご</small> 自己紹介、今後やりたい事
7月1日	かつどうほうこうぎ 活動方向決め
7月15日	はな あ <small>げき ないよう</small> 話し合い (劇の内容)
9月2日	ちようり 調理
9月16日	センターまつりの話し合い
10月14日	はな あ <small>うた</small> 話し合い・歌づくり
11月4日	はな あ <small>うた</small> 話し合い・歌づくり
11月17日	がつしゆく <small>にちめ あき か だ</small> 合宿1日目：朝ごはんの買い出し・歌の練習・コース発表
11月18日	がつしゆく <small>か め ちようしゆく</small> 合宿2日目：朝食づくり・シナリオづくり
12月2日	クリスマス会の練習
12月16日	クリスマス会
1月20日	せい か <small>はっぴようかい じゅんび</small> 成果発表会の準備
2月3日	せい か <small>はっぴようかい じゅんび</small> 成果発表会の準備
2月17日	せい か <small>はっぴようかい じゅんび</small> 成果発表会の準備
3月3日	せい か <small>はっぴようかい</small> 成果発表会

1. 夢のあかりコースの特徴

夢のあかりコースでは女性4名男性9名の計13名の方で活動してきました。

筆談によるコミュニケーションの援助なしにリーダー的な役割を担う人として3名の学級生がいます。簡単なやりとりは可能ですが、まとまった意見は、コミュニケーションの援助が必要なメンバーとして7名の学級生がいます。コミュニケーションの援助がなければほとんど意思表示がむずかしい学級生として1名の方がいます。

学級生が、やりたい事として挙げているのは、基本的にはミュージカルづくりです。その他にも調理や外出の希望も持っています。



2. 活動のねらい

劇ミュージカルコースでは、若葉とそよ風のハーモニーコンサートに向けたミュージカルづくりをしたいという意見がありました。そのため、歌づくりに加えてストーリーづくりをすることになりました。

そのほかにも、自分たちの生活について語り合いたいという意見が出ました。

3. 活動の様子

(1) ストーリーづくり

ミュージカルをするにあたり、どんなテーマ・内容について取り組むかを話し合い、やまゆり園の事件についての劇をする事になりました。学級生の方が出した様々なアイデアを一人の学級生がまとめる形で物語が完成しました。この中の話し合いでは、花のすばらしさについて伝えたいと話した学級生がいました。そこで、熊とやまゆりの花が出てくるストーリーをつくりました。

熊が花を踏み荒らす。花が枯れてしまったのは、熊が蜜を取るのに役に立たない花は、意味がないと考えたからだ。やまゆりの花がむざんにふみしだかれたことに悲しんだ山の神様が、すべての花に咲くのをやめるように命令した。

その命令にしたがった花たちはいっせいに咲くのをやめたので、山から花が消えてしまった。

花が枯れてしまったことを悲しんだ僕たちは、どうにかしてやまゆりをはじめとする花たちが、もう一度咲けるようにと考えをめぐらせたところ、とにかく、失われた花たちの価値を大地に向かって祈るようにささやくことにした。

すると、祈りが届いたのか、大地からささやくような声で、「山奥に秘密の種が眠っていて、未来の花は咲かない」ことを知り、本当の花の心の歌を山中に伝えることにした。

歌声がどんどん大きくなっていき、花の種をまく時期が訪れて、みんなで祈りを込めて、花の種をまいた。

(2) 劇について

劇ミュージカルコースの中でどのように発表をするかという話し合いをしました。演技をする

ことは難しいと考^{かんが}え、今^{こんかい}回は演^{えんぎ}技^ぎをせ^せず^ずに、ス
トリーを^よ読^あみ^あげることと、登^{とうじょうじんぶつ}場^{じょう}人^{じん}物^{ぶつ}のセリフ
を^よ読^あみ^あげること、歌^{うた}を^{うた}うこと、絵^えを^か描^かいて添^そ
えるかたちで^{はっぴよう}発^{はつ}表^{ひょう}しようとい^いうこと^きに決^きまりま
した。その中^{なか}で、一^{ひとり}人^{ひと}の学^{がっきゅうせい}級^{きゅう}生^{せい}が、絵^えを^か描^かくこと
が^{とく}得^く意^いで熊^{くま}の絵^えを^か描^かきました。他^{ほか}の学^{がっきゅうせい}級^{きゅう}生^{せい}も、劇^{げき}
に出^でてくる花^{はな}や泉^{いづみ}を^か描^かきました。

(3) 歌^{うた}づくり

歌^{かし}詞^しは学^{がっきゅうせい}級^{きゅう}生^{せい}がス^きトリー^{かんが}を^{かんが}聞^きいて考^{かんが}えてい
ました。その歌^{かし}詞^しに他^{ほか}の学^{がっきゅうせい}級^{きゅう}生^{せい}がメ^めロ^ろディー^いをつ
けていきました。

学^{がっきゅうせい}級^{きゅう}生^{せい}は、日^ひ々^びの生^{せい}活^{かつ}の事^{こと}や思^{おも}っ^{こと}て^{こと}いる事^{こと}をス
トリーに^{かき}重^{かんが}ね^{かんが}ながら考^{かんが}えていました。

メ^めロ^ろディー^いをつ^とけ^とて^とい^とく^と時^{とき}には^{ひつだん}筆^も談^ちを^{もち}用^{もち}いまし
た。言^{こと}ば^ばが^{はな}う^うま^まく^ま話^{はな}せ^せない^せ人^{ひと}も自^じ分^{ぶん}の考^{かんが}えて^かいた
メ^めロ^ろディー^いを^{つた}伝^{うた}え^え歌^{うた}に^でする^きこと^きが^き出^で来^きま^ました。

花^{はな}のす^{つた}ば^たら^たし^しさ^さに^{はな}つ^ついて^{はな}伝^{つた}え^えたい^えと^{はな}話^{はな}した^が学^が
級^{きゅうせい}生^{せい}も^もい^いま^ました。

学^{がっきゅうせい}級^{きゅう}生^{せい}か^から^らは、私^{わたし}たち^{たち}に^も無^む言^{ごん}の中^{なか}に^も言^{こと}ば^ばが
ある^{こと}事^{つた}を^{つた}伝^{うた}え^えたい^えとい^いう^い意^い見^{けん}が^で出^でま^ました。今^{こんかい}回^{かい}の
活^{かつどう}動^{どう}では^{ぜんぶ}全^{ぜん}部^ぶで^{きよく}6^{うた}曲^{かんせい}の歌^{うた}が^{かんせい}完^{かん}成^{せい}しま^ました。

1. 熊^{くま}の歌^{うた}

み^{みつ}の^のと^とれ^れな^ない^い花^{はな}な^なん^んて
ま^まっ^たく^くや^やく^くに^にた^たた^たない^いか^から
お^おれ^れさ^さま^まが^がぐ^ぐしゃ^{しゃ}ぐ^ぐしゃ^{しゃ}に^にふ^ふみ^みつ^つぶ^ぶし^して^てや^やる
み^{みつ}の^のと^とれ^れな^ない^い花^{はな}な^なん^んて^てい^いの^のち^ちに^にい^いみ^みが^がな^ない^いの^のだ
か^から
ぐ^ぐしゃ^{しゃ}ぐ^ぐしゃ^{しゃ}に^にふ^ふみ^みつ^つぶ^ぶせ
ぐ^ぐしゃ^{しゃ}ぐ^ぐしゃ^{しゃ}に^にふ^ふみ^みつ^つぶ^ぶせ

2. 踏^{ふみ}し^しだ^だか^かれた^たや^やま^まゆ^ゆり

や^やま^まゆ^ゆり^りが^がこ^こん^んな^なに^にむ^むざ^ざん^んに^にふ^ふみ^みし^しだ^だか^かれ^れて
や^やま^まゆ^ゆり^りは^はど^どう^うし^して^てい^いい^いか^かわ^わら^らな^ない^いま^まま
知^ちら^らな^ない^い世^せ界^{かい}に^に旅^{りょ}立^たっ^つて^てい^いっ^つた
私^{わたし}た^たち^ちは^はい^いま^ま深^{ふか}い^い悲^{かな}し^しみ^みの^の中^{なか}で
や^やま^まゆ^ゆり^りを^をた^ただ^だ心^{こころ}か^から^らし^しの^のぶ^ぶだ^だけ
や^やま^まゆ^ゆり^りを^をも^もう^う一^{いち}度^どよ^よみ^みが^がえ^えら^らせ^せる^るた^ため^めに
私^{わたし}た^たち^ちは^はも^もう^う一^{いち}度^どた^たち^ちあ^あが^がろ^ろう

3. 真^まっ^つ暗^{あん}な^な世^せ界^{かい}

ま^まっ^つく^くら^らな^な闇^{やみ}の^の中^{なか}
世^せ界^{かい}の^のす^すべ^べて^ての^の花^{はな}が^が 咲^さき^きほ^ほこ^こる^るの^のを^をや^やめ^めた
僕^{ぼく}た^たち^ち心^{こころ}か^から^ら 花^{はな}が^が消^けえ^えさ^さっ^つて^てし^しま^まい
勇^{ゆう}気^きも^も未^み来^{らい}も^も消^けえ^えた
ざ^ざん^んこ^こく^くな^な熊^{くま}の^のし^しわ^わぎ^ぎで
失^しわ^われ^れた^た花^{はな}を^を取^とり^りも^もど^どす^すた^ため
僕^{ぼく}ら^らは^は立^たち^ちす^すく^くむ^むだ^だけ^けだ^だが
こ^この^の手^てで^で未^み来^{らい}の^の花^{はな}を^を取^とり^りも^もど^どそ^そう

4. 秘^ひ密^{みつ}の^の泉^{いづみ}を^を探^{たづ}ね^ねし^しに^に行^いこう

ま^まっ^つす^すぐ^く向^{むか}い^いの^の山^{やま}ま^まで
み^{みんな}ん^なで^で秘^ひ密^{みつ}の^のい^いず^ずみ^みを^を探^{たづ}ね^ねし^しに^にゆ^ゆこう
秘^ひ密^{みつ}の^のい^いず^ずみ^みが^がど^どこ^こに^に眠^ねっ^つて^てい^いる^るか^か探^{たづ}ね^ねり^り当^{あた}て
秘^ひ密^{みつ}の^のい^いず^ずみ^みの^のみ^みず^ずを
か^かれ^れた^た花^{はな}に^にそ^そい^いで^であ^あげ^げて
世^せ界^{かい}中^{ちゆう}に^に新^{あたら}しい^い花^{はな}を^を咲^さか^かせ^せよ^う

5. 私^{わたし}た^たち^ちに^には^は言^{こと}ば^ばが^があ^ある

わ^{わたし}た^たち^ちに^には^はこ^{こと}ば^ばが^があ^ある
そ^{それ}れ^れを^を伝^{つた}え^える^るす^すべ^べも^もな^なく
わ^{わたし}た^たち^ちの^のい^いの^のち^ちは^はか^かな^なく^くき^きえ^えた
こ^{この}の^のま^まま^ま消^けえ^えて^てし^しま^まう^うに^には
あ^{あまり}ま^まり^りに^にこ^ころ^ろ残^{のこ}り^りだ^だか^から

せめてほんとうのすがたを
みんなに知ってほしい

6. 光がもっと届きますように
光がもっとこの世界にとどきますように
みんなで新しい花をさかせよう
あたらしい花のいのちは
あのふみしだかれた花の
いのちのやどったものだから
かなしみをのりこえてもういちど
うまれかわったいのちなんだ
もっともっと高らかにうた声をひびかせて
ひかりがもっとさすように

4. 課題と展望

2018年度の劇ミュージカルコースの最大の成果は、学級生自身の手で、ストーリーも歌も絵も生み出されたことです。ストーリーについては、これまでも、学級生自身が話し合いを重ねて作るということは、当然のことでしたが、どうしても、その話し合いの内容をまとめるのは担当者の役割になってきました。しかし、今回は、話し合われた内容を、一つの物語としてまとめあげたのも、学級生自身でした。また、歌づくりについて、歌詞に関しては、学級生自身がつくることは少なくありませんでしたが、メロディーづくりは簡単ではありませんでした。しかし、メロディーづくりも一昨年の劇ミュージカル以降、少しずつ見られるようになりました。その中で、今回、歌詞はすべて学級生のもので、かつ、メロディーも5曲中4曲を学級生自身がつくることができました。

ただ、今回のミュージカルでは、演じるということが課題として残ってしまいました。すでに、ストーリーづくりや歌づくりでエネルギーと時間を使っていたこともあるのですが、なかなか演じるのが苦手なメンバーが多いため、今回は見送ろうということになってしまったのです。たしかに、演じるのが得意なメンバーが少ないのも事実ではありましたが、青年学級の成果発表会は、そういう状況であってもやれることを工夫してきました。しかし、今回そのような工夫を提案できなかったのは、担当者の側の見通しの弱さがあったかもしれません。

津久井やまゆり園のテーマに取り組むということについては、事件以来、学級全体で繰り返し話し合ったきたテーマですが、今回は、わかそよを強く意識して、コンサートづくりコースがわかそよ全体を企画するという役割を担っていたことに對して、自分たちは、わかそよの内容をきちんと作り上げていくという思いで取り組んできたものでした。できれば、わかそよのミュージカルの台本にアイデアを提供できればと思ってきたものでしたが、残念ながらそこまでにはいたらず、2部の中に組み入れるかたちになりましたが、この重要なテーマに正面から取り組むことができたことは大きな意義を持っていたと言えるでしょう。重いテーマではありますが、今後も引き続き何らかのかたちで継続していくべきものではないでしょうか。

ふみしだかれたやまゆり

作詞作曲 寺本勝浩

♩ = 64

A F#m D A
 やまゆりが こんなにむぎんに ふみしだかれて やまゆりは
 A F#m7 D A
 どろしていいが わからないまま しらないせかいに たびたいていった
 C#m Bm A
 わたしたちはいま ふかいかなしみの な が で やまゆりをただ
 D F#m A D E7
 ここから しのぶだけ やまゆりを もらいちど
 D A E7 A D E7
 よみがえらせる た め に わたしたちは もらいちど
 A E7 A
 たち なが ろう

くまの歌

作詞・作曲 寺本勝浩

C Em F Em
 み つ の と れ な い は な ん て
 F Am G
 まっ た く や く に た た が ら
 F Am Em Am
 お れ さ ま が く し ゃ に
 Dm F G
 ふ み つ ぶ し て る
 C F Em
 み つ の と れ な い は な ん て
 Dm Em Am G
 い の ち に い み が な い が ら
 Dm Am Em Am
 く し ゃ く し ゃ に ふ み つ ぶ せ
 Dm G C
 く し ゃ く し ゃ に ふ み つ ぶ せ

秘密の泉を探しにいこう

作詞 寺本勝浩
作曲 安藤広野

Musical score for "Secret Spring" (秘密の泉を探しにいこう). The score is written in G major, 4/4 time, and consists of 10 staves. The lyrics are written below the notes.

まっすぐむこうのやままで
みんなでひみつきのいすみを
さがしにゆこう
ひみつのいすみがどこに
ねむっているからさぐりあて
ひみつのいすみのみすを
かれたたはなにしそいであけて
せかいじゅうにあたらしい
はなをさかせよう

まっくらな世界

作詞 寺本勝浩
作曲 桑原直也

Musical score for "Dark World" (まっくらな世界). The score is written in G major, 4/4 time, and consists of 5 staves. The lyrics are written below the notes.

まっくらなやみのなか
さきほこるのをやめた
はながきえさってしま
さんこくな
ぼくら
せかいのすべてのはなが
ほくたちのところから
ゆうきもみらいもきえた
くまのしわざでうしなわれたはなを
たちさくむだけだがこのでみらいの
はなをとりもどそう

光がもつと届きますように

作詞 森原清美 作曲 柴田保之

Musical score for the song "光がもつと届きますように" (Light will reach you). The score is written in G major, 4/4 time, and consists of 12 staves. The lyrics are written below the notes.

ひかりがもつとこのせかいにとどきますように
 みんなであたらしいはなをさかせよう
 あたらしいはなのいのちはあふみしだかれたはなの
 いのちのやどどたったはなだから
 かなしみをのりこえてもらいちど
 うまれかわったいのちなんだ
 もつともつとたからかにうたごえをひびかせて
 ひかりがもつとさますように

わたしたちには言葉がある

作詞 寺本勝昭
作曲 小菅浩子

Musical score for the song "わたしたちには言葉がある" (We have words). The score is written in C major, 4/4 time, and consists of 4 staves. The lyrics are written below the notes.

わたしたちにはことばがある それをつたえるすべもなく
 わたしたちのいのちははかなくきえた
 このままきえてしまうにはあまりにこころのこりだから
 せめてほんとうのすがたをみんなにしてほしい

1. 班長会

(1) 班長会の概要

班長会とは、学級全体に関わる行事や、運営に関わるさまざまなことを調整する組織です。学級活動終了後の4時過ぎから5時までの時間を使い、各コースの班長と副班長が集まり話し合いを行ってきました。

活動内容としては、各コースの活動報告、合宿やクリスマス会・成果発表会などの行事に向けた話し合いおよび実際の準備や運営を行ってきました。なお、行事に関する話し合い・準備・運営は、つどい委員と合同で取り組みました。

(2) 班長会の様子

各コースの青年1～3名と担当者が集まり行いました。昨年度と同様に、会を進行する司会と班長会ノートの記入は各コースの持ちまわり制としました。班長会ノートには、その日に話し合った内容を記録しました。活動報告と次回コース内で話し合ってもらいたいことなどをまとめ、「班長会ニュース」を書いて学級全体に向けて発信しました。

昨年度に引き続き班長、副班長を務める青年もおり、その青年が中心となり、話し合いや各コースの振り返りをスムーズに行うことができました。

(3) 評価と課題

これまで同様、一年間継続して話し合いを進めることができました。各コースで話し合っただけで意見を班長会で発表し、検討を行いました。班長会で決定した内容については、班長会メンバーからつどいの時間を使って全体に対して説明をする、または、班長会ニュースに記載することで学級全体へと発信しました。各コースの代表として集まり、意見の集約・決定・伝達をするという役割を務めることができました。

班長会ニュースは司会を務めたコースで作成す

ることになっており、班長会が終わったあとに青年が執筆しています。行事の直前になると話し合いが長引くことがありました。そういった時間に余裕のないときは担当者が代わりに執筆することもありましたが、青年が記述する部分を取り入れるなどの対応を取りました。このような取り組みをすることで、班長、副班長としての役割を確認し、青年による情報発信を行うことができました。

今年度の反省点としては、昨年に引き続き今年度の反省点としては、昨年に引き続き担当者の連携不足が挙げられます。ほぼ毎回同じ担当者が出席するコースもありましたが、出席する担当者が流動的なコースもありました。よって、班長会がスムーズに始まらない、司会担当のコースがうまく話を進めることができないといった問題が生じました。限られた時間を有効に使うために、以下のような対策を取ることが求められます。事前の担当者会で出席できる担当者を確認・確定しておく、次回の班長会で話し合う議題をメッセージアプリなどのツールを活用し事前に全担当者で共有するなどです。

2. つどい委員会

(1) つどいとは

学級日の始まりと終わりのコース活動の前後に行われている活動です。ホールに集まり、全コースの青年が集い、学級ソングを歌い、学級全体で一体となれる時間となっています。また、コース間での連絡や応援者、見学者の紹介などもここで行われています。有志の青年とつどい委員担当の担当者で運営、活動しています。

(2) 運営体制と活動内容

今年度は、男性3名、女性2名の青年、計5名体制で運営を行いました。その中に、同じ職場で働く青年から誘われ、初めてつどい委員を務めた青年がいました。例年固定化しがちなメンバーの中に新しい風が吹きました。班長会とならぶ自治活動の一つであるつどい委員会に「挑戦してみよう」という青年が現れたことは、今後のつどい委員会にとっても、明るい出来事であるでしょう。

活動内容は、つどいの司会進行、見学者・応援者の紹介、つどいで歌う学級ソングの曲決め等です。また、学級終了後のつどい委員会で決定した、取り決めや次回の司会者・歌う曲などを「つどいニュース」として発行し、学級全体への周知を行いました。昨年度の展望にもあったように、今年度は当初からリクエストボックスを活用し、つどい委員会のメンバー以外の青年からも歌いたい曲を募り、反映させていきました。

また、つどいの時間は全員が一堂に会する貴重な時間となります。活動への活力を高めるための場所だけでなく、近況報告や問題提起、学級全体

に関わることを話し合うのにとっても重要な時間となっています。

(3) 今年度の活動の特徴

今年度の活動の特徴として大きくあげられるものが3つあります。

《1. つどい委員が企画した「新年会」の実施》
学級全体でクリスマス会を行うことが決定しましたが、「新年会をやりたい」という声も少なくありませんでした。そこで、つどい委員会では、朝のつどいをコース活動に支障が出ない程度にいつもより少し長く時間をもらい、その中で「新年会」を行うことにしました。

クリスマス会を開く目的があるなら、新年会を開く目的もあります。「新たな年の幕開けをみんなで祝い、それぞれが抱く期待や抱負を共有する場にしよう」と話し合われました。「お正月と言えば…」という話し合いから、和太鼓の演奏・福笑い・書き初め等が上がり、和太鼓を習っている青年に協力を依頼し、盛大なパフォーマンスを披露してもらいました。大きな福笑いや大きな模造紙に書いた書き初めも好評でした。青年の意見や思いをこういった形で反映し、取り組みに移せることは、つどい委員会の強みであると思います。

《2. コース活動を超えての検討・共有の場として》

2019年5月に控えていた「第19回若葉とそよ風のハーモニーコンサート」(以下、わかそよ)ですが、今年度は「わかそよづくりコース」が中心となり実行委員会への参加や話し合いが進められていました。わかそよ実行委員会への参加は自由ですが、学級活動に位置づけられていないので、

送迎や日程調整の関係で参加できる人は限られてしまいます。そんな中で、実行委員会で話し合われたことの報告や次回の実行委員会へ持って行く意見の収集・集約等はつどいの時間の中で行われました。

実行委員会に参加できない青年にとっては、進捗状況を知る場にもなり、自分の意見を発信できる場にもなります。また、わかそよづくりコースとしても、より良いコンサートにするための反映させるべき意見を収集できる、恰好の場となったことでしょう。まさに「みんなで創り上げるコンサート」にするためには欠かすことのできない時間であったと思います。

《3. 仲間の死を悼む》

昨年度退級した青年の訃報が入ったのは10月のことでした。長年、リーダーシップをとって劇ミュージカルコースや公民館学級を牽引してきた方でした。訃報は、朝のつどいの中で担当者から伝えられ、みんな悲しみに包まれました。

大切なことは、亡くなった仲間に想いを馳せ、思い出を語り、その人が生きていた証を共有することです。誰からも慕われていた面倒見のよい故人に対し、付き合いの長い青年から学級歴の浅い青年まで、話が尽きなかったことは言うまでもありません。スクリーンに映し出される笑顔の写真を見ながら、故人にゆかりのある歌をみんなで歌いました。仲間の死はとても悲しい出来事ですが、丁寧に真摯に向き合うことであたたかい気持ちになれる時間でもありました。

これまでも、こういった大事な出来事を共有する場として位置していたつどいの時間ですが、今年度、つどい委員の発信で「新年会」を企画・

実行できたことは、つどい委員会の自治運営力を物語る出来事であったと思います。

(4) 活動の評価と展望

「(3) 今年度の活動の特徴」でもあげたように、つどいの時間というのは限られた時間ではありますが、みんなの要望やアイディアで無限の可能性を持った時間になります。慣習的な流れを大事にすることももちろん大切ですが、その枠にとらわれず、その時その時に必要である活動に柔軟に取り組んでいくことが、今後もつどい委員会に期待されていることなのでしょう。

第3章 考察

1. 2018年度のコース編成とその取り組み

今年度の公民館学級は、昨年度活動が展開された「歌楽器コース」、「ものづくりコース」、「健康からだづくりコース」、「暮らしコース」、「劇ミュージカルコース」の5つに加えて、「コンサートづくりコース」という新たなテーマで活動するコースが生まれ、計6コースで活動が行われました。

「コンサートづくりコース」は、活動の早い段階で名前を「わかそよづくりコース」と変えましたが、翌年度5月に開催された「若葉とそよ風のハーモニーコンサート（以下「わかそよ」。内容は○章に記載）」に向けて、そのコンサートのテーマであったり、内容であったりや考え話し合うコースとして作られたものです。

もともと文科省による障がいをもつ方の生涯学習支援の取り組みがきっかけになったものの、「わかそよへの意見反映の機会が実行委員会に参加できるメンバーに限られる」という、以前から青年より拳がっていた課題に対し「学級活動内でわかそよに向けた取り組みを積極的に行いたい」という思いも、このコースの誕生の大きなき

っかけとなりました。

このコースが作られる際、学級の活動時間を使い、担当者を含め青年間では様々な話し合いが行われましたが、「これまでの歌楽器コースとわかそよづくりコースの違いは何か？」や「このコースに入らないとわかそよについての取り組みに参加できないのか？」などの課題を徐々に整理していく中で、わかそよづくりコースの活動の特徴として、「わかそよ実行委員会の準備段階としてテーマ等の話し合いを他学級の青年とともに開催し、わかそよ実行委員会にもその中心として参加していく」、「わかそよづくりコースはあくまでもわかそよのテーマや構成について考えるコースで、わかそよに向けた内容づくりはコース単位で行っていく」というようなものが、それぞれの共通認識として浮かび上がってきました。

わかそよづくりコースでは、一年を通してわかそよに向けた多くの話し合いを重ね、また、メンバーであった浅井さんは今回のわかそよの実行委員長となりコンサートを引っ張っていくことになりましたが、成果として取り上げられるべきこ

とはそれだけではなく、わかそよに向けた多くの
取り組みがわかそよづくりコース以外でも展開さ
れることとなったこともこの成果だと思われま
す。
劇ミュージカルコースに活動で作られた朗読劇は、
短くしたものがそのままわかそよのステージの
内容に組み込まれましたし、ものづくりコースで
作られた大きなひまわりの絵は、そのステージ上
を賑やかに飾ることとなりました。

青年学級の意義として、障がいをもつ人たちがこの場でたくさん
の学びを通して、どう社会にいかしていくかという
こともまた重要であり、わかそよという広く開
かれたステージでの発表を目標に、様々な取
組みが各コースで行われたということは、障
がいをもつ人たちの学習の場としてより有意義な
ものとなったように思います。わかそよは現在、
2年に一回の開催を予定しているため、来年の
開催はありませんが、活動内で積み重ねる学びの
成果を大切にするとともに、それを社会にどうい
かしていくのかを担当者は青年とともにさらに

考えていかなければならないかもしれません。

2. 杉本好朗さんについて

長年リーダーとして、青年学級を引っ張ってき
た杉本好朗さんが昨年亡くなりました。過去、
NHK が開催したシンポジウムに当事者として
登壇しスピーチした姿は全国放送もされました
が、国内の障がい者福祉の歴史に大きく関わって
いたこともある杉本さんも、ここ数年は学級の
先輩として新たなリーダー達を支えるさらに大き
な存在となっていました。亡くなられたことにつ
いては学級全体でも、つどいや合宿を通して振
り返り、今後の自分たちの活動につなげようとす
る取り組みが行われましたが、各コースでも同様
に杉本さんの死を偲びながらも前に進もうとする
活動が多く実施されました。暮らしコースでは、
杉本さんについての作文を全員で書き成果
発表会での発表につなげましたし、コンサート
づくりコースでは、直接名前はいれなかったもの
の杉本さんについて書いた歌が作られました。歌
からは、これまで杉本さんが社会を変えようと多
くの活動に参加してきたこと、どんな人に対して

も優しく接してきてたくさんの人に愛されていた
ことがうかがえます。

今はない私の仲間は
この舞台上で何を話しただろう
多くの困難を乗り越えてきたから
言葉に優しさ溢れている
差別に声を上げてきたから
命の価値を今伝える
歌「私の気持ちをつたえたい」より

3. 他学級との連携について

これまでも青年学級では、学級間での交流等
を目的とした活動（キックベースの交流試合や、
クリスマス会などの招待など）を行ってしまし
たが、今年度は、わかそよに向けた活動の中で、
他学級と連携をしながら活動をつくる場面が多
くありました。わかそよ実行委員会が開催される
前には、わかそよづくりコースや歌・楽器コース
に加え、他学級やとびたつ会の人たちとともに
意見交換をする機会を定期的ににつくることができ、
年度の後半からは、わかそよ実行委員会が開催さ
れるようになり、わかそよづくりコースのメンバ
ーを中心に公民館学級の青年も委員会に参加し
ていきました。

公民館学級での開催もあったものの、他の
学級の活動内での開催も多くあり、その際には、
これまであまり言葉での表現をする機会がなか
った青年が、委員会にて筆談を通してたくさん
の思いを言葉で表現することとなりました。

これまでのわかそよでは、実行委員会に参加で
きる人たちが中心になり、内容が組み立てられて
きましたが、今回のわかそよがこれまでと大きく
違う点としては、これまでわかそよについて思い
を語る機会が無かった人たちが、内容を作ってい
く段階で内容についてや、普段から抱えている
各々の思いについて話し、その構成に関わること
ができたことだと思います。

たくさんの意見をまとめて、なにかを決めてい
くことは、当然容易ではなく、今年度話された多
くの言葉がわかそよという舞台にどれだけ反映で
きたかは、疑問が残るところもありますが、多く
の意見を拾い上げるための、学級を超えた連携が
また新たにひとつスタートしたように思いますの
で、わかそよをはじめ、多くの活動の場がそれぞ
れ、青年が主体的に関われる場となるよう、この

つながりを維持し続けられればと思います。

第3部 ひかり学級

第1章 コース活動

ひかり学級 エクスポコース

活動の流れ

6月3日	開級式
6月17日	自己紹介、係・コース名決め、ポッチャ
7月1日	自己紹介、バスハイク話し合い、七夕飾り作成
7月15日	バスハイク話し合い、ダンス(マルマルモリモリ)、ペットボトルボーリング
9月2日	近況報告、バスハイク話し合い、ペットボトルボーリング、フルーチェ作り
9月16日	バスハイク話し合い、風船バレー
10月7日	バスハイク
10月28日	バスハイク振り返り、クリスマス会・新年会について話し合い、ぬりえ作成
11月11日	クリスマス会話し合い、ラジオ体操、ポッチャ
12月2日	クリスマス会話し合い、ダンス(U.S.A.)
12月16日	ケーキ作り、クリスマス会
1月13日	クリスマス会振り返り、近況報告、福笑い
1月27日	成果発表会話し合い、食事(デリバリー)、ペットボトルボーリング
2月10日	成果発表会準備、練習
2月24日	成果発表会

1. エクスポコースの特徴

男性 10 名、女性 5 名から構成されるコースです。「身体を動かしたい」「どこかへ出かけたい」「健康になりたい」という青年が集まりました。全員が過去にスポーツコースを経験しているため、活動に慣れていました。同じ職場や施設の青年同士も多く、活動当初から和やかな雰囲気でした。積極的な青年が数人おり、その青年が中心となって話し合いやスポーツなど活動を進めていく様子が見られました。

2. 活動のねらい

スポーツをメインとしたコースのため、運動することに興味と関心を持つと同時にスポーツに積極的に参加することで、体力を増進して気力を付けていくことをねらいとしました。また活動の中から、相手を思いやり、協力し合う仲間づくりを行っていき、新しいスポーツに挑戦していくことも意識しました。

3. 活動の様子

(1) スポーツ

①ポッチャ

コース内に数名車椅子の青年がいることもあり、全員が主体的に活動できるスポーツであるポッチャを行うことが多かったです。初めてポッチャを行う青年もいましたが、昨年度スポーツコースに所属していた青年が率先してボールを投げて試合を進めていったため、比較的早くルールの把握ができました。

②ペットボトルボーリング

ボーリングはコースの青年の中でも人気が高いスポーツであり、学級日に行うスポーツを決める際にはいつも候補に挙がっています。車椅子の青年はスロープを利用し、1度に2球までというルールで倒したピンの数に応じて得点を付けながら行いました。ペットボトルボーリングでは飽き足らず、本物のボーリングに行きたいという青年の声もありました。



③風船バレー

ボールの代わりに風船を使ってバレーを行いました。ボールと違い少しの力で持ったり投げたりできるため、車椅子の青年も参加することができました。しかし、スポーツが得意で自ら積極的に動くことができる青年が試合を進める形になり、風船に触る回数に偏りができてしまいがちになってしまいました。そのため、全員が椅子に座った状態で رفتたり、同じ人が連続で触ってはいけないといったルールを作ったりする必要があったと感じました。

(2) エクササイズ

生涯学習センターや青年から借りた CD に合わせて体を動かしました。具体的には「マルマルモリモリ」「U.S.A.」「ラジオ体操」などを使用しました。しかしスポーツを希望する青年が多いことから活動内容がスポーツに偏ってしまい、あまり



エクササイズ的时间が取れませんでした。音楽を流すだけではどのように動いていいかわからない青年や、ダンスが得意ではない青年もいるため、映像資料があるとよいと感じました。



(3) 創作活動

①ボーリングのピン作り

ペットボトルボーリングを行うにあたって、担当者の提案で1人1本ピンに絵を描くことになりました。ずっと続けている卓球の絵や花の絵など、自分の好きなものや仕事に関係するものを描く青年が多かったです。自分たちで作ったピンを使って行ったボーリングが非常に盛り上がったので、今後も創作活動とスポーツやエクササイズを組み合わせた活動をしていきたいと思います。

②おやつ作り

体を動かす活動が多いため、水分補給や休憩などの観点からおやつ作りを行い、活動の合間に間食を挟みました。エクスポコースには体力のある青年も多いですが、数時間1つの活動をしていると集中力が切れてしまったり、疲れてしまったりする青年もいるため、休憩時間をとることは重要だと感じました。作り方があまり難しくないものを選ぶことで、全員がおやつ作りに携われるようにしていきたいです。

③七夕

本物の大きな笹に、願い事を書いた短冊や折り紙で作った飾りを飾り付けました。短冊に書いた願い事を通して、仕事のことや趣味のこと、コース活動についての青年の思いを知ることができ、

よかったと感じます。折り紙で作る飾りは、作り方を印刷し、その紙を見ながら作成しました。はさみで少し切り込みを入れるだけで綺麗な飾りが完成するため、いろいろな種類の飾りがたくさんできました。笹がとても大きく、脚立を使用したの飾り付けとなったため、青年が自らではなく担当者が青年の希望を聞いてその場所に飾り付ける形になりました。スポーツは季節に関係がないものが多いため、季節を感じられる活動ができよかったです。

④ぬりえ作成

ハロウィンらしい活動のために芸術コースからぬりえをもらい、それに色を塗りました。単色でダイナミックに塗る青年もいれば、色分けをしながら丁寧に塗る青年もいて、各人の個性が表れる活動となりました。最終的には作った全てのぬりえを1枚の模造紙に貼って大きな作品となり、自分たちで作ったという達成感が得られました。スポーツをメインに行うコースではありませんが、絵を描くことが好きな青年も多いため、楽しく積極的に活動する様子がみられました。



⑤福笑い

新年最初の活動ということで、画用紙に顔を描き、それを切り取って福笑いを作りました。点や線でも目や口に見えるため、かくことが難しい青年も担当者と一緒に作成することができました。できあがった福笑いで遊ぶ際には、目隠しがなかったため各自で目をつむって遊びました。1人ずつ自分が使った福笑いを使用しました。口と鼻が重なってしまったり、目の位置が横にずれてしま

ったりと、様々な顔が完成し盛り上がりました。絵を描くことが得意な青年は、福笑いの他にもおかめや今年の干支であるいのししの絵を描いていました。



(4) 食事(デリバリー)

外食をしたいという希望があったのですが、担当者体制と車椅子を使用する青年の数から断念し、デリバリーで少し特別なお昼ごはんを食べました。ピザとオードブルを頼み、ピザの種類は事前に担当者が絞り込み、その中から青年が選ぶという形をとりました。見た目はたくさんあるように見えたが一瞬で無くなってしまい、担当者はほとんどお昼ごはんを食べられませんでした。また車椅子を使用する青年や席の場所によっては取りづらく、事前に取り分けるなど工夫が必要だと感じました。ですが他のコースが作って余ったラーメンも食べたこともあり、いつもと違うお昼ごはんに満足そうな様子でした。



(5) 係決め・コース名決め・話し合い

係り決めは、班長・副班長・つどい係はスムーズに決まったものの、お弁当係などその他の係がなかなか決まりませんでした。あまり発言しない青年は、担当者が候補を絞り選択を促すことで決定しました。決定後は責任を持って自分の役割を果たす様子がみられました。

コース名は、エクササイズとスポーツを組み合わせた「エクスポコース」と「ダンススポーツコース」が候補に挙がり、多数の結果「エクスポコース」に決まりました。

話し合いの場ではよく話す青年が中心となり、言葉が少ない青年に話を振ったり、ホワイトボードを使い意見をまとめたりする姿が見受けられました。自分で意見を出すことが難しい青年には、他の青年が出した意見の中から選択してもらうという形をとりました。

(6) バスハイク

1人欠席だったため、14人が参加しました。全体交流会では数人がみんなの前に出てジェスチャーを披露しました。歌やダンスのときには楽しそうに手をたたいたり、音に合わせて踊ったりする青年たちの姿が印象的でした。

健康文化センターでの昼食は普段の活動とは違ったデリバリーのお弁当だったためか、全員が完食しました。食後にアイスを購入して食べている青年もいました。

午後はみんなの広場という広い芝生で、ボールやフリスビーを使って体を動かしました。室内活動のときよりのびのびと運動はできましたが、気温が高くかなりの暑さだったため、早めに切り上げてふれあい動物園へ向かいました。

動物園では実際に動物と触れ合える場所もあり、車椅子を使用していても入ることができたため、多くの青年が楽しめました。モルモットを抱いたりヤギに触ったりと様々な生き物に興味津々な青年もいましたが、動物が苦手なようで怖がってしまった青年もいました。

全体の活動を通して、誰か1人が迷子になってしまうことはありませんでしたが、車椅子の青年

とそれ以外の青年の行動ペースが異なり、昼食後の移動などは少しばらけてしまったところがありました。また、全体交流会や広場での活動を1人離れたところから眺めている青年がおり、担当者が参加を促してもあまり動きたくない様子でした。



(7) クリスマス会

午前中はクリスマスケーキ作りをしました。普通のスポンジケーキが2つ、チョコのスポンジケーキが1つの、合計3つのケーキを作りました。それぞれにクリームを塗ったり、フルーツやお菓子をのせたりして飾り付けをしました。フルーツを洗う・フルーツを切る・クリームを作る・クリームを塗る・お菓子を飾り付けるなどたくさんの作業があったため、あまり積極的に活動に参加しない青年も何かしらの工程には参加することができ、当日学級に参加した全員が関わって作ることができました。用意したお菓子の量が少し多く、下のクリームが見えなくなるくらい盛りだくさんの飾り付けになりましたが、青年はもっと飾り付けたい様子でした。大量の飾り付けのため切ることが難しく、形が崩れてしまったものもありましたが、あまり気にせず「おいしい！」と嬉しそうに食べる姿が印象的でした。全員で協力して作り上げた達成感、また助け合う仲間意識が持てたのではないかと思います。

午後のクリスマス会では「U. S. A.」のダンスを披露しました。ダンスが得意な青年が中心となって踊り、手の動きが多い振り付けのため車椅子の青年も楽しく参加することができました。流行っている歌であることや特徴的な振り付けから、他のコースの青年も一緒に歌ったり踊ったりととても盛り上がりました。



(8) 成果発表会

成果発表会について考えるにあたり、1月の2回目の学級日に一年間の振り返りをしました。振り返った活動の中から成果発表会ではスポーツをやりたい、という意見が多く、ボッチャやペットボトルボーリングといった複数回行ったものが挙げられました。バスハイクやクリスマス会が1番印象に残っている青年は作文を書いて発表することにしました。ダンスを踊りたいという意見もあったため、最後にダンスを踊って締めようということになりました。ダンスの曲は学級日に踊ったことのある「マルマルモリモリ」や「U. S. A.」も挙げられましたが、今年度で退級予定だった青年が挙げた「恋するフォーチュンクッキー」に決まりました。また、はじめの言葉・終わりの言葉・司会は立候補した青年がいて全員賛成だったため、それぞれにお願いすることになりました。

2月の学級日では次回が成果発表会のため、本格的な準備と練習を行いました。作文を発表する青年は原稿用紙に作文を書き、発表の練習をしました。ダンスは用意したミュージックビデオを見ながら、簡単な振り付けに変更しつつ練習しました。スポーツは前回挙がっていたボッチャとペットボトルボーリングをやることにし、希望した青年や発語が難しい青年で実演することになりました。台本は話し合いで青年から出た意見をもとに全員が役割を持てるものを担当者が作成しました。

成果発表会当日は、前回の学級日に欠席だった青年がいたこともあり、練習したものを1つずつ振り返りながら確認していきました。当日急遽欠席した青年がいたため台本の調整を行い、リハーサルに臨みました。リハーサルが終わってから本

番までの間は、台本を読み返したり、飲み物を飲みながらのんびり過ごしたりと、思い思いの時間を過ごしていました。本番はステージから見える場所にカンペを映したり、担当者がそばでサポートをしたりしながら発表を行いました。本番が終わった後は、ジュースとお菓子を食べながら一年間の振り返りをしました。次もスポーツコースに入ると意気込む青年もおり、一年間楽しい活動であったことがうかがえました。

4. 課題と展望

今年度のスポーツコースは今までと違い、スポーツだけでなくダンスや体操といったエクササイズを取り入れた活動を行いました。ですがエクササイズがどういったことをすればいいのかうまく掴めていない部分があり、馴染みのあるスポーツに活動が偏りがちになってしまいました。青年だけでなく担当者も曖昧だったため担当者から提案するということがあまりできず、スポーツに寄りがちになってしまったことは反省すべき点です。踊ることが好きな青年も多く、ダンスの際には楽しそうに踊る姿が印象的だったため、うまく取り入れることができれば活動の活性化に繋がったのではないかと思います。上半身のみでも表現することができ、車椅子を使用する青年も積極的に参加している姿が多くみられたため、車椅子を使用する青年から遠巻きにされがちなスポーツコースに風穴をあけてくれる活動になりそうだと感じました。

スポーツ活動に関しては、多く行ってきたにも関わらずあまりレパートリーがなく、ポッチャやペットボトルボーリングといったよく挙がる活動に偏りがちになってしまいました。今後はこれら以外に、今までにやったことがなく全員が主体的に参加できるスポーツを探し、活動に取り入れていくことが必要だと思います。また今年度は公民館学級との交流試合を行わず、ずっとコース内のみの活動となってしまったため、それもマンネリ化の原因の1つかと感じました。他学級との交流はいつもと違う新鮮なもので、新たな発展に繋

がると思うので、今後は積極的に他学級、またひかり学級内の他のコースと、対校試合で交流ができればいいのではないかと思います。

その他、課題としては、担当者の数と車椅子を使用する青年の数から1回も外出ができなかったことが挙げられます。外出を希望する青年もいたものの、担当者の不足から青年の希望に沿う活動ができなかったことは改善すべき点だと思います。制限されてしまう活動や安全面の確保といった面でも担当者の体制を整えることが必要であると感じます。

ひかり学級 おまかせ芸術コース

活動の流れ

6月3日	開級式
6月17日	自己紹介、係・コース名決め、今後の活動について、おやつ
7月1日	自己紹介、七夕飾り
7月15日	バスハイク話し合い、忠生公園散策
9月2日	バスハイク話し合い、今後の活動について
9月16日	バスハイク話し合い、てるてる坊主作り、太陽の絵作り
10月7日	バスハイク
10月28日	バスハイク思い起こし、ハロウィン創作、クリスマス会・新年会について話し合い
11月11日	クリスマス会話し合い、カラオケ
12月2日	クリスマスツリー創作、クリスマス会話し合い
12月16日	ケーキ作り、クリスマス会
1月13日	お正月近況報告、2019年抱負、イノシシの絵創作
1月27日	外食、今後の活動について
2月10日	成果発表会準備、節分お面作り
2月24日	成果発表会

1. おまかせ芸術コースの特徴

男性 10 名、女性 3 名から構成されるコースです。創作活動、料理、外出を好む青年で構成されています。個人活動が多くなるため、青年同士のやり取りは少ない印象でした。アクティブな青年も多いが、歩行時に車いすを使用したり速度が遅い青年もいるため、差が広がりやすい傾向があります。前年に無かったコースのため、担当者から新たなことを提案する場面が多くなりました。

2. 活動のねらい

季節に合った活動を通し、最終的に一年間の四季折々の作品を残します。

さまざまな活動の中で青年の得意分野を見つけ、それを活かしていきます。

描画や創作を通して、自己表現の場を作ります。

3. 活動の様子

(1) 料理活動

① カレー作り

カレーライスの他に、サラダとフルーチェも作りました。材料は予め担当者の方で購入しておいたことや、米を炊く作業を担当者の方で朝から行っておいたこと、サラダを盛り付けのみのものにしたことなどから、メインのカレー作りに集中できました。

また、普段話し合いなどの活動時にあまりその場にはいない青年達にも作業に参加してもらえるようになるべく声をかけるようにして全員に何らかの役をしてもらうことができました。このコースはたくさん食べる方が多く、あまりおかわりが出きませんでした。

(2) 創作活動

① てるてる坊主・太陽の絵

バスハイクの晴れを願って、てるてる坊主を制作しました。白無地以外に、色や柄のついた布を数種類用意しました。装飾品はあまり用意しませんでした。布のパターンを数種類用意した事により青年によって違った雰囲気のあるてるてる坊主

をつくる事が出来ました。

また、これらとは別に大きなたてる坊主を白のバスタオルで制作しました。小さいてる坊主をつくる時とは違い、全員で一つの物の完成を目指す作業を行う事が出来たが、完成図が見えにくく、一人一人に任せる作業も新聞紙を丸めるのみなど地味であり、青年たちの参加度は小サイズに比べ低かったです。

さらに、てるてる坊主と平行して太陽の絵も描きました。同じモチーフではあったが、青年によって違った魅力ある絵を見る事が出来ました。自由なテーマで絵を描く時よりも具体的なモチーフを提示した事が青年達の制作のしやすさにつながったように思いました。

② 七夕飾り（ちぎり絵）

7月の第1回目の活動日に行いました。短冊や七夕飾りをつける笹を、本物ではなく絵で描いてはどうかという担当者の提案の元、ちぎり絵で笹を描くことにしました。ちぎった紙を貼り付ける枠（笹の下絵）を担当者が描き、色画用紙を青年たちがちぎって貼り付けるという作業を行いました。

接着には担当者持参のテープのりを使用しましたが、すると枠からはみ出した部分にも接着面ができてしまうことによってあまりきれいに笹の絵が浮び上がりませんでした。また、ちぎり絵に使用した紙が少々分厚かったことも失敗の一つであると考えられます。これらの原因か、作業途中、青年から「～さん（担当者の名前）、もうやめていい？」などの声も上がってしまいました。しかし、普段から丁寧な作業を好む青年からは高評価を得られたのか、全員で作るものとは別で小さな笹の絵を作る青年もいました。また、全員で一つの作品を作り上げるという貴重な機会となりました。

③ 描画

今年度の活動が始まってすぐの頃、コースに参加し青年たちがどのような絵を描くのか知りた

かったという事もあり、画用紙やクレヨン・サインペンというシンプルな画材を使って絵を描きました。基本絵を描くことが得意な青年が多いが、河合は呆然と座っていたため担当者が線描きした絵を渡すと、河合は丁寧に色ぬりを始めた。このように自分で何かを自由に描くということが苦手な青年もいるため、例えば全体の活動内容にあまり外れていないぬり絵を担当者で用意するなど個々に合った工夫を考えていくことが必要であると感じた。

④ハロウィン創作

担当者が模造紙にジャックオーランタンの枠を描き、そこにオレンジ・黄色・紫の画用紙をちぎり絵で貼り付けました。七夕の時とは異なりスティックのりを使用したため作業時間は少しかかったが部分的にのりをつけられたことで、貼りやすくはがれにくくなりました。普段は離れがちな青年も参加出来ました。

次に担当者が B5 サイズにお化けやお墓などの塗り絵を用意し、各々が好きなように色を塗りました。出来上がった作品をすべて模造紙に貼り付けました。

⑤クリスマスツリー作り

ダンボールでツリーの形を立体でかたどった物の表面に色画用紙をちぎって貼り付けました。紙粘土で飾りを作ってはどうかと担当者が提案したところ、3名が挙手。紙粘土で形を作った後、水彩絵具で色をつけました。そのほかの青年は色画用紙に絵を描いて飾りました。ツリーにあまりにも時間を注いでしまったがために、飾りを作る時間が制限されてしまいました。また、ちぎり絵をやる時には接着剤を選んだほうがよいです。

⑥イノシシ描画

2019 年の干支がイノシシということで描画をしました。ただ、イメージが付きにくい青年もいたためにホワイトボードに担当者が 6 つの例を描き、それを基に青年が制作をしました。基本的

には自分で枠を描き、色を塗っていました。時間がない中の描画だったが何枚も描く青年が多かったです。最後に作品は模造紙に貼り付けて保存しました。自分で枠を描かない青年には担当者が枠を描いて色を塗っていました。

(3) 外出

①スエヒロ館

金額がいつもの昼食代より少し高いので 50 円ごとに繰り上げをして青年から徴収しました。いつもと違う空間のせいか落ち着きがなく立ったままウロウロしていた青年もいました。お母さんが迎えに来るかを何度も聞き、料理がきてもなかなか食べようとしなかったが、服薬のため何か一口食べてもらおうとサラダを勧めると、それをきっかけに手を使って食べ始める青年もいました。予約していたテーブルではない場所に一人で座り込み担当者が皆と同じテーブルに座るように促したがすぐに応じず若干もめた青年もいましたが、予約席のみに料理をおき続けて別の担当者がもう一度説得したところ、それに応じ食事を取り始めました。その後担当者に「さっきはごめんね」と謝罪してきました。全体的に落ち着きのない一日ではあったが普段とは異なった環境で昼食を取れた貴重な機会となりました。

②忠生公園

出かける前に青年に公園で何をしたいのかを確認した後で出発しました。ただ、暑い夏の日だったので、水分補給の徹底など熱中症対策を心掛けました。

屋外で写真を撮ること、絵を描くことは中々できない経験だったので、楽しんでいる青年が多かったです。また、ボールやフリスビーを使う青年もいて、各々がやりたいことをして時間を過ごしている様子でした。

③カラオケ

青年の提案で行くことになりました。歩いて行ける町田木曽のシダックスに行きました。

歌う曲は発語が難しい青年は事前に電話で確かめて、それ以外は当日に確認しました。おおよそ一人で1、2曲は歌い、疲れる青年もいました。

ただ、時間が余れば率先して歌う青年や、笑顔で歌っている青年もいました。徒歩での移動だったが疲れを訴える青年はいませんでした。

(4) バスハイク

青年の希望を基にお昼のメニューを決めたり、コースの内容を決めました。相模原公園にはすでに来たことのある青年もいたため担当者よりも詳しくかったです。青年の希望通りに一日の流れが進められました。

全体交流会のクイズを答えるときも二人の青年が中心になり答えていました。

植物園を見学した時はハロウィンの飾りつけを前に写真を撮っており、笑顔もよく見られました。

グリーンタワーの展望台では説明を見て景色を眺めていました。子どもの多い場所なのであす青年は耳を塞ぎながら過ごしていました。

動物園では誰もがそれぞれ楽しんでいる様子でした。動物が苦手らしい青年はマスクを着用しながら見て回っていました。

(5) クリスマス会

午前はスポンジケーキ、イチゴ、みかん、生クリーム、お菓子を用意して2つのデコレーションケーキを作りました。様々な調理過程があり、全青年が必ず1つの調理には関わることが出来ました。また、衛生面を配慮して手洗い・消毒を徹底しました。一人一つを食べて好きなようにお菓子や果物を足して食べていました。担当者が4人いたので注意深くサポートが出来て、けが人は出ませんでした。

コース発表では今まで作った作品の発表を行いました。途中で青年の一人の姿が見えなくなる場面もあったが全員が発表に関わりました。ビンゴ大会では全員が輪になり座り、ビンゴシートを見ており離席者がいなかったがある青年だけは

始めからエキスポコース側におり、参加しませんでした。

(6) 節分

青年から節分に関する活動をしたいとの意見があり、2月10日に鬼やお多福の絵を描きました。顔の輪郭は担当者が描いたもの多数印刷し、顔や色を青年たちが描きました。この日応援にきた別学級の担当者からある青年が「いつもより部屋にいて活動に参加していたように感じた」との意見がありました。もともと形を紙に描いておいた点（今回で言えば「鬼」の輪郭部分）は絵を描くのがそれほど得意でない青年でも作品としてわかりやすく形に残せるというメリットはあるが、決まった形にとらわれ表現の幅を狭めてしまうというデメリットがありました。

(7) 成果発表会

「みんなで作った作品を紹介したい」という意見から一年間の活動を「作品紹介」「外出」「料理」の3つに分けて発表しました。次に、発語の少ない青年に成果発表会に何らかの形で参加してもらうために一年間の活動に関するクイズを制作しました。クイズの題材になってもらったり選択肢を紙で作って持ってもらったりしました。最後に、「作文を書いて発表したい」という意見から何名かの青年が作文を書いて発表しました。司会進行を青年2名にしてもらい担当者は台詞のサポートに周りました。

本番前に決めたインタビューを飛ばしてしまい、本番終了後に本人からも「さっき（自分の出番を）忘れてない？」と指摘がありました。

4. 課題と展望

コースで一つの作品を作ることで仲間意識を強くすることを目的としました。ただ、その際に個人とコースでの活動の時間をそれぞれ作ることで集団が苦手な青年もコースの一員として参加しやすい機会を作りました。

話し合いにおいて自分の意見を出す青年が多

くないため、その意見だけに流されないように全員の意見を聞く際には今後とも時間をかけて丁寧に聞く必要がありました。

芸術を主にしたコースが今年度からの試みのため、前年の活動例がありませんでした。しかし、活動内容の提案が担当者からのものになりがちなので、何か作るだけでなく、見たり聞いたりインスピレーションを受けて青年たち自らアイデアが出せるようなきっかけとなる活動も設けていきたいです。創作活動だけではなく、芸術作品を鑑賞する時間がなかったのでそういう機会も増やしていきたいです。

結果的に創作では同じようなパターンが多かったため、新たな試みも必要と考えます。また、描画などが多く、カメラや工作の時間が少なかったです。

どうしてもクレヨンかペンと画用紙を使って絵を描くか、ちぎり絵をして活動することになりがちであったため、既存の材料でもっと他にできることがないか模索していく必要がありました。その際に担当者がどこまで提案として発言するかは慎重に考えていかなければならないと思います。

今年度集まった青年は手足にあまり不自由のない青年ばかりでしたが、手足の動きに制限のある青年が来たときにどのような活動を行えば充実した活動を行えるかについて考える必要があります。

ひかり学級 レッドスターズ

活動の流れ

6月3日	開級式、自己紹介
6月17日	自己紹介、話し合い（係・コース名決め）、楽器演奏
7月1日	話し合い（バスハイク）、七夕飾りづくり
7月15日	デザートづくり、話し合い（バスハイク、新曲づくりについて）
9月2日	サンドイッチづくり、近況報告（夏休みの話）
9月16日	話し合い（バスハイク）、デザートづくり
10月7日	バスハイク（相模原公園）
10月28日	話し合い（バスハイク思い起こし、新曲づくりについて）
11月11日	忠生公園散歩、話し合い（クリスマス会、新曲づくりについて）
12月2日	ハンドベル練習、「わかそよ実行委員会」参加
12月16日	ハンドベル練習、クリスマス会（ハンドベル発表）
1月13日	近況報告（年末年始）、「わかそよ実行委員会」参加
1月27日	初詣&ライブコンサート外出
2月10日	新曲づくり・録音、話し合い（一年間の思い起こし、成果発表会）
2月24日	成果発表会

1. レッドスターズの特徴

レッドスターズは、歌や楽器といった音楽活動や、CDづくりや絵を描く等の創作活動、料理や外出活動など様々な要求をもった青年が集まったコースで、男性6名、女性4名の合計10名で活動しました。

昨年度の創作コース（にじドリームアンド創作コース）から引き続いてのメンバーも多く、少人数のコースで、比較的学級経験の長い青年が多かったことから、当初から仲間意識がある程度できあがっているコースでした。

2. 活動のねらい

レッドスターズでは、次のような3つのねらいを掲げて一年間の活動に取り組んでいきました。

- ① 音楽、料理、創作活動、外出など青年の得意なことや好きなことを活動に活かし、一人ひとり輝く場面をつくっていく。
- ② 活動を共有することにより、青年どうしの仲間意識を深めていく。
- ③ 青年一人ひとりの思いを歌や絵などによって表現し、みんなで協力して一つのものをつくっていく。

2. 活動の様子と評価

(1) 素材について

①料理

i) フルーチェ・ゼリーづくり

料理の好きな青年の提案でデザートにフルーチェとゼリーをつくることになりました。当日は、買い物に行くグループと食器等の準備を行うグループに分かれ活動しました。ボウルにフルーチェの粉と牛乳を入れてかき混ぜるといったシンプルな作業だったので、ほとんど全員が活動に関わることができました。ただし、活動場所の冷凍庫が使えず、ゼリーが固まらなかったためジュースのようなゼリーになってしまい、みんな残念がっていました。

ii) サンドイッチづくり

青年からサンドイッチづくりの提案があり、みんなで話し合い、①ハムレタスチーズサンド、②

ツナサンド、③玉子きゅうりサンドの3種類をつくることになりました。食材は事前に担当者が準備し、当日はみんなで調理を行いました。当日、担当者体制が2名だったこともあり、青年に対して丁寧な関わりができず、青年の主体的な活動を十分にフォローすることができませんでした。

iii) フルーツ白玉づくり

デザートづくりが得意な青年がいることからフルーツ白玉づくりに取り組んでみました。白玉をこねて、ちぎって、ゆでた後に盛り付けるという工程だったため、全員で取り組むことができませんでしたが、開始の時間が遅かったことや、担当者体制が厳しかったことから、後半慌ただしくなってしまう、青年にとっても、ゆとりのない活動となってしまいました。

②音楽活動

i) 楽器演奏

楽器をやりたいという青年が多かったことから楽器演奏に取り組んでみました。当日は学級ソングのCDにあわせて10曲程度みんなで楽器を鳴らして演奏しました。ギターの特異な青年がみんなをリードし、その他の青年もドラム、カスタネット、キーボード、マラカス、電子ドラムといったように、それぞれ違う楽器を担当することで、一人ひとりにスポットを当てることができました。ただ、ハーモニカが得意な青年は担当者がハーモニカを吹くよう働きかけてみましたが、取り組むことなく終わってしまいました。

ii) ハンドベル（クリスマス会）

楽器演奏の好きな青年からクリスマス会のコース発表でハンドベルを演奏したいとの提案があり、みんなで「赤鼻のトナカイを」演奏することになりました。全員で何度か練習し、クリスマス会で発表しました。ギター、ピアノ、スズを担当した青年以外の青年はハンドベルを担当しました。班長の青年が事前にクリスマスソングのCDを持ってきており、みんなで「赤鼻のトナカイ」を聞いて演奏のイメージを膨らませることができました。また、発表当日、その青年はハンドベル用の手袋

を持参し、みんなにハンドベルの鳴らし方を教えるなど積極的に取り組んでいました。

iii) 新曲づくり

何人かの青年から新曲をつくりたいとの提案があり、新曲づくりに取り組みました。

7月にどんな曲をつくるか話し合いをし、ある青年から「いろんなことあるけど、楽しくいけたらいい」「つらいこともあるけど、笑ったり話したり、心から言えること・・・」といった内容を歌詞に入れたいといった意見が出され、また別の青年からは「平和につながるような歌」、「みんな元気でいられる」といった言葉を入れたいといった意見がありました。曲のイメージとして、青年から「明るくて踊れる曲」「ゆっくりめで楽しい曲」「簡単な振り付けもあるといい」といった意見が出されました。

10月の話し合いで、公民館学級の担当者の応援で「スイッチ」を使うことで、歌詞に入れたい思いを一人ひとり聞いていきました。そこから担当者が歌詞とメロディーをつくり曲が完成しました。成果発表会前の活動でみんなで新曲を歌って練習用CDに録音し、みんなに配ることで、成果発表会までに歌を覚えることができました。

③創作活動

i) 七夕飾りづくり

搜索活動の好きな青年の提案で七夕飾りをつくることになりました。当日、一人の青年が宅から笹を持ってきて、その笹にみんなでつくった飾りや短冊に書いた願い事を飾っていきました。創作活動の得意な青年がたくさん飾りを作り笹に飾っていました。

ii) CDづくり

新曲を作りたいと言った青年からCDをつくりたいとの提案があり、みんなで録音した新曲に、これまで録音したひかり学級の学級ソングをボーナストラックとして加え、ジャケットに青年が描いた絵をデザインしたCDを作成し、青年一人ひとりに配りました。

時間もなくボーナストラックの選曲やジャケッ

トのデザインは担当者が担当しました。体調を崩して休みがちだった青年は休みが長かったこともあり、思いを聞いて歌詞につなげることはできませんでしたが、七夕の短冊に書いた名前をCDラベルのデザインに使うことができました。

④外出

i) バスハイク

相模原公園では全体交流会の後、植物園で昼食をとり、午後から植物園の温室を見学して、展望台に上り、最後にふれあい動物広場に行きました。

レッドスターズは外出の好きな青年も多く、ほとんどの青年が公園の散策を楽しんでいましたが、当日、気温が暑かったためか、疲れて発作が起きてしまう青年もいて、その青年は公園をゆっくり見学することができませんでした。

バスハイク後の活動で、写真をスライドで見ながら思い起こしをしました。青年から「動物園が良かった」、「タワーも楽しかった」といった感想が出されていました。



ii) 忠生公園散歩

車いすを利用している青年から散歩に出かけたいとの提案があり、みんなで近くの忠生公園に散歩に行くことになりました。公園では広場のベンチに座ってクリスマス会などの話し合いを行った後、公園内にある自然館を見学し、ひかり療育園に戻ってきました。

外出の好きな青年も多く、同じ話し合いでも普段の室内の活動とは違った雰囲気でも話しあうことができ、また、短時間ではありましたが公園や自然館を散歩し、みんな嬉しそうにしていました。

iii) 初詣&ライブコンサート

青年からコンサートを見に行きたい、初詣に行きたいといった提案があり、1月にひかり療育園近くの「淡島神社」に初詣に行った後、バスに乗って町田駅まで行き、町田駅近くのイベント広場でライブコンサートを見て帰ってきました。

初詣では神社に階段があることから車いすの青年は賽銭箱まで近づくことができませんでしたが、班長の青年がみんなを代表してお賽銭を入れていました。昼食をとった公民館カフェでは、事前に個々に希望を聞いて注文してあったナポリタンやカレーライスをみんなで食べました。ライブコンサートでは熱心に曲を聞いたり、曲にあわせて声を出したり、リズムにあわせて体を動かしたりする青年の姿が見られました。また、コンサートを見に行きたいと提案した青年は演奏後、出演からCDを買ったり、サインをもらったりなどしていました。

今回、町田駅までの往復に路線バスを利用しましたが、車いすを利用している青年がバスに乗って嬉しそうにしていました。送迎バス等ではなく、地域の人も使っているバスと一緒に乗れたことが良かったように思われます。

コース活動の一年間の思い起こしで、今年一番印象にのこっていることを聞いたところ、青年から「公民館カフェで食べたナポリタン」、「初詣」、「コンサート」、「もっとバス乗りたかった」といった意見が出るなど、青年にとって思い出に残る活動となりました。



④ 成果発表会

成果発表会に向け、レッドスターズの一年間の主な活動を写真のスライドを見ながら思い起こし、何が印象に残っているか確認していきました。そこから、一人ひとりが一年間の活動で印象に残った活動を、インタビュー形式で発表し、最後にクリスマス会で行ったハンドベルの演奏とみんなで作ったオリジナルソングを歌うこととなりました。成果発表会当日、担当者がシナリオ（案）をつくり、みんなに提案し、何度か練習し本番に臨みました。

(2) 生活について

①近況報告・七夕飾りづくり

コースで近況報告や夏休み、お正月の話をする中で、仕事のことや家庭・グループホーム等での生活の様子のお話をする機会が何度かありました。青年から職場の旅行でバリ島や北海道に旅行に行ったことやグループホームの人たちと熱海や箱根の温泉に行ったことなど近況報告で聞くことができました。

また、七夕飾りづくりでは、最近母親を亡くした青年が「お父さんやお姉さん、お兄さん家族の健康」を短冊に書いたり、また別の青年たちが「仕事、ピアノが上手になりますように」、「東京都スポーツ大会、駒沢競技場でがんばります」と書くなど、青年の日頃の思いや学級に対する思いを知ることができました。ただ、時間もなくてそうした思いを、その後青年どうして話し合い、深めていくまでには至りませんでした。

ある青年は担当者と一対一だと職場のことなど自信を持って話しますが、全体の場ではなかなか話すことができないでいました。2～3人の小集団だと話ができても、大勢になるとなかなか話ができない青年もいます。そうした青年の思いをもう少し丁寧に聞いていって、活動につなげていくことができれば、また違った活動ができたかもしれません。

②家族やグループホーム等職員とのつながり

レッドスターズには言葉で表現することが苦手

な青年が何人かいますが、自己紹介や夏休み・お正月の話をしたときに、事前に家族と連絡をとって本人の話をフォローするよう心掛けました。しかし、それ以外の活動では家族やグループホーム等の職員からあまり話を聞く機会をつくることができないまま活動が終わってしまいました。電話掛けの時に、ただ単に用件を伝えるだけでなく、家族やグループホーム等の職員から最近の様子などの話をもっと聞いて活動に活かしていけば、より活動も充実していくのではないのでしょうか。

その他、成果発表会では一年間の活動を作文やインタビュー形式に加えて、活動でとった写真をスクリーンに映して報告しました。青年がバスハイクで相模原公園を楽しそうに歩いている場面など、作文やインタビューだけではなかなか伝えられない活動中の青年の様子を、写真を使うことで家族に伝えることができました。

(3) 表現活動

～オリジナルソングづくりについて

レッドスターズで二人の青年からオリジナルソングをつくりたいといった提案がありました。二人とも昨年度の「青空の向こうへ」に加え、「ぼくらの応援歌」や「笑顔～わたしの希望」、「ぼくらの気持」をつくってきた経験があり、そこからまた歌をつくりたいといった要求が生まれてきたと思われま

す。こうした二人の思いを受けて、今年度オリジナルソングづくりに取り組んでいきました。どんな曲をつくるか、曲のイメージ等を話し合った後、公民館学級の担当者の応援で「スイッチ」等も使い、一人ひとりの歌詞に入れたい思いを聞いていきました。

KKさん

「北海道の地震があった。〇〇さん（北海道に引っ越した青年）は、元気かなと思った。」「福島原発も同じ。津波とか、障がい者が亡くなるような悲しいことはやめてほしい」

TRさん

「職場で職員が いつも利用者とかに わたしたちのことをやさしくはしているけどどこか対等

ではない・・・社会生活というかそういう大変さの中で生きて行くには、対等な仲間の存在とか、あと、やさしいところをみんなでわかちあって行くことが必要・・・まずはそういうやさし思いがみんなで持てればなーというのが私の夢というか、今、大切なことだと思っています。」

OSさん

「みんなぼくらは生きていてもしかたないんじゃないかなんて考えている人もいるようですが、ぼくらはぼくらなりに人生を頑張っ

SMさん

て生きていて、夢だってあるし、世の中ではなくて、自分とは何かと言うことを考えているので、それは言いたいことの本質です・・・利用者扱いというのがぼくらを一人前の人間として見なしていないことなのですが、学級では一人の人間として扱われるので、それは素晴らしいことです。だから学級で一人の一人前の人間としてがんばれるというか、その良さをみんなに伝えたいと思っています。」

GSさん

「のろいと職場で言われるのが、やなのですが、僕はこういうペースで生活しているので、それを大切にしてほしいです・・・ぼくらは自分の人生を悲しいと思っ

YYさん

てないし、当たり前で生きているだけなので、そういう当たり前の生活をもっとみんなと分かち合えるような歌にしてもらいたいです。」

いくのが良いのではないかと思いました。・・・最近、特に子供達が、ぼくらをさげすむことを気になるのですが、それは悲しい事で・・・子どもにとっても、とっても今の世の中がくらしにくいとことの裏返しではないかと思っています。だからそういう生きづらさを抱えているので、こどもで自殺してしまう子もいて、悲しいですが、みんなを勇気づける歌をつくっていきたいです。」

TKさん

「僕としては世の中を悪いかのような言い方に聞こえてしまって、それはみんな思っていないでしょうけど、そう聞こえない歌をつくる必要があります。職場の職員も悪気は無いはずなので、そういう人たちを仲間にしていくことが、ぼくらの生活に必要なことなので、そういう身近な人に向けた歌にしてはどうかと思いました。」

KMさん

「今、ニュースで変な事件がはやってる。ああいうのはあまり聞きたくない。いいことならいっぱい流していいけど、あまり暗いニュースは聞きたくない。連れていかれたり、人を殺すとか・・・明るいことがないかと思うけど、ないから。人を引き殺すことやめてほしい。」

EMさん

「学級でみんなと楽しく過ごすことがまず基本なので、みんなと楽しく過ごすということは私の生活ではなかなかできなくて、休みの日とかも一人で過ごしていて、さみしい感じになるのですが、学級では優しい人たちが多くですし、そういう時間はかけがえのないもので、ゆっくり心をいやしてくれるので、そうした良さを歌の中に盛り込んでもらいたいです。」

こうした青年たちの言葉から、曲の歌詞とメロディーの案を担当者がつくり、青年に提案し何度か修正しながら新曲『大切なこと』ができありました。

今回、スイッチを使うことで、言葉で表現することの難しい青年の思いを表現し、歌づくりにつなげていくことができましたが、時間的なこともあり、休みが続いていた青年の言葉を歌づくりに生かすことができないまま終わってしまいました。

そうした青年の思いを活動に結び付けていければまた違った歌詞が生まれていたかもしれません。

成果発表会後の思い起こしで、オリジナルソングづくりを提案した青年から「また来年も曲をつくりたい」といった感想がありました。自分の思いが込められた歌をつくることで、また次も歌をつくりたいといった要求が青年の中に生まれていくのではないのでしょうか。

新曲『大切なこと』

1 仕事場でときどき さみしい思いする

優しくしてくれる けどどこか対等じゃない
グズグズしていると 言われることがある
僕のこんなペース もっと大切にしてほしい
僕らは自分たちの 人生を悲しんでない
みんなと同じように あたりまえに生きている
僕らはぼくらなりに 自分のことを考えて
頑張ってる生きている 大きな夢だってある
大切なこと 一人の人として認めてもらうこと
大切なこと 優しい心みんなで分かち合うこと
大切なこと 今あなたに伝えたい

2 ニュースでときどき かなしい思いする

北の国の地震 みんなどうしているだろう
悲しいことばかり もうやめてほしい
いろいろあるけれど 楽しく生きてゆきたい
一人で過ごしていて ちょっと淋しい時もある
辛いこともあるけれど みんな話し聞いてくれる
ここにはゆっくりと 心をいやしてくれる
優しい仲間たちがいる かけがえのない時間
大切なこと みんな元気に自分らしく生きること
大切なこと 仲間としてともに歩んでいくこと
大切なこと 今あなたに伝えたい



ひかり学級 みんなの未来コース

活動の流れ

6月3日	開級式
6月17日	自己紹介、係・コース名決め、今後の活動について
7月1日	自己紹介、バスハイク話し合い、フルーチェ作り
7月15日	バスハイク話し合い、ヨーグルト作り、歌
9月2日	夏休み近況報告、ムース作り
9月16日	ハンバーグ作り、バスハイク話し合い
10月7日	バスハイク
10月28日	バスハイク振り返り、クリスマス会・新年会について話し合い
11月11日	クリスマス会話し合い、淡島神社にお散歩
12月2日	クリスマス会話し合い、クリスマスカード作り
12月16日	ケーキ作り、クリスマス会
1月13日	お正月近況報告、新年会話し合い
1月27日	カルタ作り、ラーメン作り、プチ新年会
2月10日	一年の思い起こし、成果発表会準備
2月24日	成果発表会

1. みんなの未来コースの特徴

男性7名、女性9名から構成されるコースです。歌をはじめとする音楽活動や、料理、外出など様々なことに興味を持った青年が集まりました。

昨年度のコースが「花」から6名、「何でも最強スポーツ」から1名、「お出かけ料理」から9名の計16名となっており、「花」や「お出かけ料理」出身の青年が多いです。

学級歴は10年未満が1人、20年未満が1人、残り14人は20年以上となっており、歴の長い青年が多く、仲間意識が強いコースです。

車いすを常時利用している青年が5名で、食事介助、トイレ介助が必要です。

2. 活動のねらい

料理、音楽活動、外出や新しいことへの挑戦など青年の得意なことや好きなことを活動に取り入れ、それぞれの思いを反映させた活動を展開しました。

合唱や料理などの共同作業の中で、青年同士の仲間意識を深めました。

季節や楽しさを味わえる料理作りをし、またそれに伴う金銭の収支計算を行い、日々の生活に活かせるようにしました。

3. 活動の様子

(1) 料理活動

①フルーチェ

担当者からの提案で作ることになりました。材料や調理器具が多くなく調理手順も簡単なことから選ばれました。このコースでの初めての調理でしたが、すでに協力して作る様子が見られました。一人がボウルを押さえ、もう一人がかき混ぜたり、車いすの人へサポートしに行く姿も見られました。食事の際にも、食べさせる手伝いをしていました。

②カレーライス、フルーツヨーグルト

青年たちから作りたいという要望が、一番多く出たため作ることになりました。

カレーの辛さに関して「辛口にすると食べられない人もいるかもしれない」という意見があり、甘口と中辛の2種類作ることにしました。材料に関しても「なすを入れない」という意見があり夏カレーらしくするため材料に加えました。

青年は積極的に調理に参加し、料理が得意な青年や、日ごろ家でも手伝いをしている青年が存分に力を発揮しました。

そのほか、ジャガイモの皮むきを一人で行い、最後まできれいにやりきることができた青年が、その達成感からか担当者や親御さんにそのことをよく話すようになり、本人の料理に対する自信につなげることができた。

③ムース

担当者の提案で作ることになりました。

フルーチェ同様、調理器具、材料が少なく、簡単に作れるため、話し合いメインで動きがほとんどなくなってしまふ日の、良い気分転換となりました。

④ハンバーグ、マッシュポテト、コーンスープ

ひかり学級でフードプロセッサーを購入したため、ぜひ使おうということで青年からの提案でハンバーグを作ることになりました。スープもいるということでコーンスープも追加されたが、調理するものの多さから、出来合いのものを購入することになった。

材料に関してはある程度担当者側で用意しておき、生ものなど必要最小限を買い出しに行くこととしました。

予定していた分量のお肉がお店になかったり、調理器具の不足であったり、ハンバーグの形づくりを車いすの青年たちに個人対応していると、思いのほか時間がかかってしまい、結局食事開始が13時になってしまいました。

フードプロセッサーは想像以上に性能が高く玉ねぎのみじん切りを作るところか、水っぽくなってしまふほど細かくなってしまいました。しか

し完成したハンバーグはかなり上出来で、青年たちからもおかわりを求める声が多かったです。

時間はかかりましたが、全員で協力して完成度の高いものを作ることができました。

⑤クリスマスケーキ

ケーキは合計3個、スポンジは市販のものを使用して作りました。デコレーションを青年たちに任せ、それぞれのケーキに個性を出すことができました。車いすの青年たちも積極的に参加できるよう担当者が働きかけ、生クリームの泡立てや、トッピングに参加することができました。

味についても満足している様子で成功に終わりました。

⑥ラーメン作り

新年会の日の昼食に「年越したラーメン」と称し、ラーメンを作るのはどうかと青年から提案があり調理が決まりました。時間がたってもあまり伸びない煮込みラーメンを使用し、野菜をふんだんに使って調理を行いました。

想定以上に量ができてしまったため、何度もおかわりをする青年がいたにもかかわらず、他コースにもおすそ分けすることができました。

普段は少食の青年もラーメンは好きだったため、この日はしっかり食べていました。

材料はあらかじめ準備し、買い出しの時間をなくすことで余裕をもって作ることができました。

(2) 収支計算

料理活動を単なる調理で終わらせないということや、ひかりでの活動を少しでも日々の生活に活かせるようにという目的で行うことになりました。青年たちの反応は良く、会計係に立候補した青年もいました。

調理活動の際に全体でいくらかかったのか、一人あたりはいくらなのかなど、レシートを見ながら計算し、全体に報告をしました。初回はホワイトボードに記入する形にしました。ハンバーグづくりの際の収支計算では、かかった費用を会計係

が主体となって計算をし、紙に記入、その後ホワイトボードで全体委報告する形をとりました。自分たちで作ることによって安く作れるということを確認できるいい機会となりました。

(3) 音楽活動

①オリジナルスマイル

開級式に参加できなかった青年の自己紹介を兼ねてコースのみんなで歌いました。曲の最中、その青年はとても笑顔でこの歌を気に入っていることがうかがえました。またこの歌のおかげで後から入ってきた青年を温かく迎え入れることができました。

②好きなCDを聴く

音楽活動の一環としてみんなの好きな曲を知ろうということから、お気に入りのCDを持ってきてもらい、創作活動中に流しました。

「コパカバーナ」、「AKBの曲」、「赤いスイートピー」を流しました。「赤いスイートピー」は多くの青年と一緒に歌っていました。

③「歌もあってもいい…」のコーナー

もともとコース名の案として青年が出していた「調理コース 歌もあればいい・・・」をコーナー名として使用することにしました。コース内の合唱の時間として青年たちから希望を出してもらい、担当者の伴奏とともに歌いました。

「拍手」や「ラベンダーの彼方へ」などの学級ソングを歌ったり、カレーライスをつくった日には「カレーライスのうた」を歌いました。

④新曲づくり

青年の「新しい曲を作りたい」、「僕たちにもその力がある」という賛成意見がでたことがきっかけで作曲が決まりました。しかし活動の中に作詞の話し合いをつくることがなかなかできなかったため、青年が活動の中で言っていたことや担当者が気持ちを汲み取り詩にしていきました。

2曲作り、どちらも活動で披露してから、成果

発表会で歌いました。

⑤わかそよのDVD視聴

青年からわかそよのDVDが見たいと意見があり、歌や劇に触れるいい機会ということで視聴が決まりました。ある青年が聞こえないことへのストレスからか、頭をかきむしるということもあったため早々に切り上げることになりました。興味の幅を広げるいい機会でもあるため再度、原因を検討しながら視聴を試みたいのです。

(4) 創作活動

①七夕飾りづくり

開級日の次の活動日で次回の活動を話し合う時間が作れず、担当者からの当日の提案で行うことになりました。

短冊に各々が仕事のことであったり、好きなことであったり、お願い事を書き、笹に飾りました。青年たちの思いの一端を垣間見ることができました。

②クリスマスカード・ツリーづくり

青年から作りたいと意見が出ました。2人の青年にカードのもととなる絵を描いてもらい、塗り絵やシール、リボンなどで各自装飾を行いオリジナルのクリスマスカードを作成しました。

ツリーはビーズ通しが得意な青年のスキルを活かした活動をしようという意見からつくることになりました。お手本を見せてもらったところ興味を持つ青年が多くいました。実際にやってみると青年たちは夢中になって取り組み、担当者が終了の声をかけてもなかなかやめようとしないうどでした。

ツリーへの飾りつけはケーキ作りとの同時進行ということもあって担当者が手を加えることが多かったですが、青年の活躍できる場を作れたこと、新しい興味関心を作ることができました。

③かるたカードづくり

1月のプチ新年会で行うかるたのカードを自

分たちで作りました。自分の名前と、そこに絵もかいてもらったりしました。自分の名前のカードは自分の近くにおいてもらうようにして、全員少なくとも1枚はとれるよう工夫をしました。

(5) 淡島神社へ散歩

外出の要望は前々から出ており11月の活動ですることになりました。行先は青年の希望で決まりました。なかなか外出はできなかつたため、楽しんでいる青年が多く、記念撮影やアイスを購入して療育園へ戻りました。

(6) バスハイク

リフトでの乗り込み、車いすの固定などで乗車に時間がかかりました。

全体交流会のクイズを決めていなかったため、全体交流会前の空き時間で決めることにしました。○×クイズでは2つの案を出し、そのうちの一つを出題することになりました。動物ジェスチャークイズはコースメンバーでウサギが好きな青年が多かつたためウサギに決まりました。クイズではみんなの未来コースの青年が正解を次々と当て活躍しました。

昼食時にコース内の青年の食事の速さの差から、先に食べ終わった青年が待ちくたびれてしまっていました。途中担当者の気づかぬうちに、ある青年がレッドスターズに合流してしまっているということもありました。

全員が食事を終えた後は記念写真を何枚かとり、予定が大幅に遅れていたため、全体で決をとり、植物園の見学を中止しふれあい動物園に行くことにしました。

動物園では集合時間だけ決め自由行動とし、みな思い思いに動物を見て回りました。家族から動物は苦手かもしれないと言われていた青年も、様々な動物と触れ合っていました。

バスハイク中、大きい車いすは坂などが大変で場合によっては2人体制で見る必要性がありました。トイレ介助はいつもと環境が違うことから、普段よりも時間がかかること、危険性があること

から注意が必要でした。

(7) クリスマス会

午前中はクリスマスケーキとツリーづくりを行い、昼食にはケンタッキーを注文して食べました。油ものが多くカロリーも高いことから持ち帰りもできるよう袋を用意しておきました。

午後のコース発表ではその報告を行い、ツリーをみんなに見てもらうことができました。また歌のコースらしくクリスマスソングも歌いました。

ビンゴ大会では残念ながら4位ではあったものの、番号の有無を全員で確認しあう場面があり、団結力が高まったようです。

(8) プチ新年会

午前いっぱいラーメンづくりをし、昼食をとった後ビンゴゲームとかるたを行いました。ビンゴゲームでは3～4人を1チームにした対抗戦を行い番号の抽選は青年にやってもらいました。チーム内でコミュニケーションをとり協力する姿を見受けられました。かるたは個人戦で行いました。二人の青年が強くと率で1位でした。その後おやつの時間をとりプチ新年会はお開きとなりました。

新年会自体久しくやっていなかったためか青年たちからは「楽しかった」という声が多かったのですが、成果発表会直前の時期で、準備などが重なったため少しあわただしくなっていました。

(9) 成果発表会

発表自体はお休みした青年のを担当が変わったり、緊張して無言になってしまう青年がいたり、多少の変動がありつつもつつがなく進行できました。

自分が書いた作文を堂々と読み上げたり、最初こそ緊張していたものの、途中からは担当者を応援するほど余裕をもって参加した青年もいました。自分の撮った写真を丁寧に紹介したり、大きな声で歌って、1年の締めくくりをしっかりと迎え

ることができました。

4. 課題と展望

前期は料理のコースとしてほかのコースよりも料理の回数をこなせていたが、その分、音楽活動や創作活動が少々おろそかになっているため、後期はそこに重点もおいて活動しました。

青年の人数が多いことや、自発的に意見を出す青年が少ないことから、一人ひとり順々に意見を聞く必要がありここで多く時間を使う必要がありました。担当者同士コミュニケーションをとったり、青年同士の関わり合いの中から、気持ちを汲み取り活動に反映できるようにしました。

前期の課題を振り返り、後期は音楽活動や創作活動をしっかり取り入れることができたこと、料理で使ったお金の収支計算を行えたこと、このコースらしさというものを明確にできたことなど、自立に向けた取り組みをしている青年にとって、有意義な活動ができたことは非常に良かったです。

今後はさらに食を通して健康というものにアプローチしていくことができれば、もっといいコースになれると思います。

後期は他学級からの応援も多く担当者体制が厚くはなったが、人数の多さ、車いすの青年の介助の必要性などから一人ひとりに割ける時間が短く、しっかり思いを汲み取ったり、ゆっくり話し合ったりするということがなかなかできませんでした。

慢性的な担当者不足は課題の一つといえます。

ラーメン作りの歌(仮)

みんなの未来コース

Musical score for 'Ramen Making Song (Temporary)'. The score is written in treble clef with a key signature of one flat (B-flat major). It consists of six staves of music. The lyrics are: ラーメン ラーメン (ラーメン) みんなでたべたいなー (ラーメン) みんなでつくろう (パン) ダンエプロン よくにあう (ほう) ちょうさばきも かつこよく (けん) こうあつての みらいです (い) いにおい (チャチャチャ) たまごおねぎもの せて (ま) ちきれない よ (チャチャチャ) みんなの やさしさ かくしあじ

みんなの未来コースのうた(仮)

みんなの未来コース

Musical score for 'Song of Our Future Course (Temporary)'. The score is written in treble clef with a key signature of one flat (B-flat major). It consists of seven staves of music. The lyrics are: ゼンとたまねぎ みじんざり シュ シュ じゃがいも ピー ラーでかわむき (ゼン) おにくを かきまげて (きょう) のメニュー は ハンバーグ (みんな) のみらいをつくらう (ゆめ) ときぼうの みらいめざし (う) たったのしく おりどりづくり (じり) つまめざして がんばろう (とう) さんかあさん あり がとう (たい) せつないのち あり がとう (ほく) のえがおが かんしゃのしるし (いき) るよろこび ありがとう (みんな) のみらいをつくらう (と) もと なかよく たすけあい (な) かまといっしょに まなびあつて (あ) たらしいことに チャレンジ

第2章 自治活動

1. 班長会

(1) 班長会とは

コース間の情報交換や情報交流をする場であり、またバスハイクや成果発表会、クリスマス会など学級全体に関わる議題について話し合う場として班長会が行われます。例年、午後1時から1時半まで行っていますが、外出等で複数コースが不在の場合は夕方に行うこともありました。

また、その日の班長会での出来事をまとめた班長会ニュースを持ち回りで執筆し、他の学級生への情報共有に努めました。各コースからは班長が、欠席の時は代わりに副班長が参加し、班長会を進めていきました。

(2) 活動の流れ

6月17日

バスハイクか合宿に行くか検討しました。

7月1日

話し合いの結果、バスハイクに決定しました。

7月15日

バスハイクの行先について話しあい、相模原公園に行くことに決定しました。

9月2日

バスハイクで全体交流会を行うことを決定しました。

9月16日

バスハイクのスケジュールについて確認しました。

10月7日

バスハイクのため班長会は休みでした。

10月28日

今年度はクリスマス会か新年会かどちらをするのか話しあい、クリスマス会に決定しました。

11月11日

各コースから希望を募り、クリスマス会で歌う曲を決定しました。また、プレゼント交換を行うことに決定しました。

12月2日

クリスマス会の司会、初めのことば、終わりのことば、歌の順番を決定しました。

12月16日

クリスマス会の流れの確認を行いました。

1月13日

クリスマス会の振り返り、成果発表会の招待状について（スケジュール、作成時期、宛先）話し合いました。

1月27日

成果発表会の発表の順番、コースの実施内容を

確認しました。

2月10日

成果発表会で歌う歌と、班長の役割分担を確認しました。

2月24日

成果発表会のため班長会は休みでした。

(3) 課題と展望

司会と班長会ニュースの作成担当はコースごとの輪番制としました。

積極的に発言する青年の意見が班長会の総意となるケースもありがちでしたが、成果発表会の発表順の決定などの際は、公平にジャンケンで決めるなどしました。

昨年度に引き続き、今年度も毎回班長会を行い、細かな事でも情報共有に努めることができましたので、来年度においても継続します。

第3章 考察

1. 今年度の活動について

2018年度は、「エクササイズ」、「芸術」、「創作」、「歌・料理」の4コースに分かれて活動に取り組みました。年間を通じた継続的な活動となるテーマについては、4月の「青年学級を語る会」での意見と事前アンケートにもとづいて編成しました。外出を希望する青年たちが半数以上に上がることを考慮し、各活動の中で、外出を取り入れての活動も視野に入れました。

昨年度と同様、今年度においても、ひかり学級では担当者不足等の理由から、4コースで活動をおこないませんでした。また、新人学級生の募集をしませんでした。しかし、新たな仲間を学級に迎えることにより、刺激となり、活動の幅を広げることができるのではないかという思いから、担当者不足の状況を改善しつつ、今後も新人青年の受け入れについて検討していきたいと考えています。

ここ数年、ひかり学級の秋の行事を合宿かバスハイクかのアンケートを取り決定しています。2013年度からはバスハイクがアンケート、また、学級日での話し合いで優勢です。今年度も話し合いの結果バスハイクになりました。行先は相模原公園となり、現地で展望台に登ったり、ふれあい動物園で動物と接したり、芝生広場で全体交流会を行ない、学級ソングを歌いました。終了後の感想では、「また行きたい」や「友達にお土産を買って喜んでくれた」などの意見がたくさん挙がり、とても好評でした。

しかし、近年合宿に行っていないこと、また、合宿に行きたいという意見もあることから、多数決だけで決定していくのではなく、少数意見にも耳を傾け、合宿とバスハイクを組み入れていくなどの工夫も必要になってきそうです。

2. 担当者の役割について

慢性的な担当者不足により、毎回土曜学級を中心とした他学級の担当者にも応援に来てもらいました。しかし、多い回数ではありませんが、コース活動にて近隣公園での写生活動やカラオケ、町田駅周辺の散策など外出を組み込むことができました。

担当者間での情報共有を重視し、活動後は応援担当者や当日担当者、ボランティアの方と振り返りの場を持つようにしました。担当者の役割として、青年の求めに応じた支援や、学級活動の環境づくりがありますが、「ともに活動をつくりあげていく人であること」が前提にあります。

また、青年が活動に参加しやすくなる工夫の一つとして、ニュース作りを行っています。毎回の活動報告と次回の活動予定を各コース1枚ずつ便りにして、活動日前に送ります。文章はわかりやすい表記で、活動時の様子が思い浮かぶような書き方を心がけました。また、青年の絵や作品の写真を一緒に載せることもありました。班長会での決定事項をまとめた班長会ニュースを班長自身に作成してもらい掲載しました。

今年度は、新たに4人の担当者を迎えられることになりました。依然、厳しい担当者体制ではありますが、後半は少し活動に幅を持たせることが出来ました。

3. つどい

活動の始まりと帰りに学級全体で行う「つどい」の司会進行は、始まりは例年同様コースごとに順番で、帰りは「つどい・歌係」で行いました。リクエストにより、活動の中で作られてきた学級ソングを数曲歌いますが、曲のリクエストは当日その場で青年たちに聞き取りをしていくため、リクエストをする人と選曲に偏りが出てしまいました。リクエストをする人や選曲の偏りを改善するために、帰りの「つどい」を担う、「つどい・歌係」を各コースから1名ずつ選出し、昼休みに、帰りの「つどい」で何を歌うかを決定しました。そうすることで、各コースの中で担当者のフォローの元、普段、リクエストをしない青年の声にも耳を傾ける工夫をしました。

4. 喫茶「のぞみ」

学級活動後の他コースのメンバー間の交流の場として、活動後にひかり療育園の調理室で行った喫茶活動です。2001年頃の開始後、しばらく休止していましたが、2012年から再開しています。メンバーは有志の青年で構成され、今年度は2,3人の青年と担当者2名が定例的に参加していました。活動内容は、昼休みにお茶やお菓子の買い出しをし、活動後に喫茶の支度をし、一人50円の会費で開店しました。お茶出しが落ち着くと、お金の計算、出納帳に記録、状況報告などを共有しています。

ここ数年、同じ形態で行っていますが、以前、ひかり学級の今後を見据えて、一度話し合いをする必要性などの意見も挙がっていますが実現できていなく、それが課題と言えそうです。

第4部 土曜学級

第1章 班活動

土曜学級 流れ星♥ダンス班

活動の流れ

6月9日	開級式
6月23日	係決め、お昼の買い出し、今後の活動の提案、ダンス
7月14日	午前：喫茶けやきへ外出 午後：ポッチャ
7月28日	調理（棒棒鶏、トウモロコシの炊き込みご飯、寒天）
9月8日	午前：日帰り旅行の話し合い 午後：ダンス、ストレッチ
9月22日	日帰り旅行
10月13日	午前：活動の思い起こし（作文・イラスト） 午後：ダンス、ぺったんダーツなど
10月27日	午前：シャロームへ外出 午後：成果発表会への話し合い
11月11日	午前：クリスマス会のゲーム作成 午後：ダンス
11月24日	午前：ビンゴゲーム作り お昼：全員で買い物（マクドナルド・セブンイレブン） 午後：わかそよの話し合い
12月8日	午前：調理（餃子・炊き込みご飯） 午後：ビンゴゲーム作り
12月22日	午前：ビンゴ作成 午後：クリスマス会
1月12日	午前：クリスマス会の思い起こし（話し合い） 午後：成果発表会の話し合い
1月26日	午前：成果発表会の準備 午後：成果発表会の練習
2月9日	午前：めくり作成 午後：ホールにて成果発表会の練習
2月23日	成果発表会

1 集団の特徴

流れ星ダンス班は男性7名、女性5名の合計12名で活動をしました。

集団としては比較的穏やかな青年と活発な青年の差が大きいながらも、目的は外出やスポーツをととても好む集団でした。

2 活動の狙い

- ・ダンスやスポーツを通して「健康」について考える
- ・健康を意識しつつ、元気に楽しく活動を構築する

3 活動の様子

①話し合い

一部の人しか意見が出ないことが多いですが、担当者がそばに寄り添って意見を確認したり声かけをして全員が参加できるようにしました。また、発言の難しい青年に対しては担当者が電話かけで事前に家庭での様子を聞くようにしました。

意見を出す青年は限られているため、意見を出すことが難しい青年に対しては、青年の表情で確認をとりました。

また、活動の主軸となるため、年間の活動は初回の話し合いを基に決めることが多かったです。

②調理活動



青年にはとても人気のある活動であり、全員が楽しむことのできる活動です。

健康を意識し、前期は「棒棒鶏」「とうもろこしの炊き込みご飯」「寒天」を調理しました。

当初は健康を意識し「棒棒鶏」の予定でしたが、主食と主菜のバランスを意識し「とうもろこしの炊き込みご飯」、また健康なデザート の代表格

「寒天」が加わりました。寒天は紅茶、コーヒー、牛乳の3種類を作りました。

ある青年はダイエットを意識しており、その意向を汲んだ形となりました。

「とうもろこしの炊き込みご飯」に関しては、はじめて作ったという声が多く出て思った以上に青年より「おいしい」という意見が多数出て、おかわりをする青年が多数を占めました。

また「寒天」に関しても健康的スイーツの代表格であり、多めに調理したもののすべて完食しました。

後期はこれまた健康を意識し「水餃子」、調理工程で油を使わない「炊き込みチャーハン」を調理しました。

また、新年会では「おしるこ」を調理。白玉をこねる工程がとても好評でした。体が温まり、今年 は風邪がとても流行ったので、風邪予防になったのではないのでしょうか。

③外出

喫茶けやき

喫茶けやきに勤めている青年より「自分の職場を見てもらいたい」という提案からの活動でした。

青年は自分の職場を見てもらおうというのがとても嬉しいという気持ちがあり、他の青年も自分の職場に来てほしいと願っているのですが、活動中は職場が休みなので残念に思っています。

喫茶けやきでは事前に担当者が注文をして、スムーズに自分の食べたいものを食べることができました。

シャローム

こちらもシャロームに勤めている青年より提案された活動です。

事前に担当者が部屋を確保し飲み物も用意してくれました。

行きは徒歩で、帰りはバスを使用しました。

青年がそれぞれ好きなパンを購入しましたが、一部の青年はお土産にパンを購入しており、とても満足していました。

またシャロームに勤めている青年は自分の職場にととても誇りをもっている様子で、「アピールでき

てとてもよかった」と喜んでいました。

共通していることとして「自分の職場を見てもらうこと」があり、生活を立てる拠点を見てもらうことに喜びを感じているのではないかと思います。

④ 日帰り旅行

当日に関しては「日帰り旅行はゆつたりとまわりたい」という青年が多数いたため、余裕を見て計画を立てました。

ロマンスカーは往復で乗りましたが、ロマンスカーにはじめて乗ったという青年がいて、とても気分が高揚しました。

いろいろな案が出ていましたが最後はお土産を買いたいという青年もいたため、小田原駅の地下でお土産を買う時間を取りました。

ロマンスカーでは特に多動を起こしたり、声をあげる青年もおらず、窓からの風景を楽しむ青年もいました。

行程を青年と一緒に練るにあたり、時には担当者が事前下見に行く必要性を感じ、何度も小田原に出向き適切な行程を組むことができましたと思います。



また、日帰り旅行の次の活動で思い起こしを行いました。流れ星ダンス班では絵か作文を選んで書いて発表するという方法をとりましたが、話し合いで行うよりも思い出が形として残るので好評でした。ある青年はかまぼこを日帰り旅行で購入し親が喜んだことを書いていました。またある青年は作文を書きましたが文法を間違わず自分の思いを書きました。

また、青年は自発的に旅行に行くことが珍しく、ロマンスカーで感動したり、ロマンスカーに乗る

こと自体初めてという青年もいました。

新鮮な思い出は残りやすいということもあると思いますが、一部の人を除いて旅行はあまり行かないらしく、担当者間でも話題になりました。

⑤ ダンス、ストレッチ

開級式のデモンストレーションで評判がよかった「鬼のパンツ」や青年に人気の高い「ジェンカ」を活動に多く取り入れて活動しており、かつ班活動では中核となる活動でした。

「鬼のパンツ」は青年による新しい振り付けを採用しており、成果発表会で披露しました。

また、ダンスの後に「ストレッチ」を採用し、体がほぐれたり心身ともにリラックスができるため評判が高く、青年との一体感を生み出す活動でした。

フォークダンスはリズムになじみがあって取り入れやすく、毎回の活動で時間が余ったときには「鬼のパンツ」を踊って活動のリズムを作りました。

基本的に話し合いばかりでは活動がマンネリ化してしまうので、活動の中には積極的に取り入れました。

また「ぞうさんのあくび」も踊りましたが「ぞうさんのあくび」が大好きな青年を除き、あまり好意的な場面が青年から見受けられませんでした。

⑥ クリスマス会

スマイルイベント班からの委託でオリジナルゲーム作りをしました。流れ星ダンス班では話し合いの結果ビンゴゲームを作成。25マスの模造紙に1～25までの数字を自分自身で書き込むゲームを作りましたが、全員が協力し全員の前で一喜一憂し、とても盛り上がるゲームでした。

また課題としては自由に数を入れることが難しかったり、数字を大きく書くことが難しいなど、やったことのあることに関しては容易に想像して行えますが、やったことない未知の活動では想像が難しいのではと思いました。

まだガールズクワイアのライブでは、全員が歌ってとても盛り上がったほか、ある青年はアイドルに感涙するなど実際にアイドルグループを見

るのがはじめてで印象に残っていました。

また、「おどるポンポコリン」は評判がよく、成果発表会のBGMに使用しました。

⑦成果発表会

流れとしては幕が開くと同時に鬼のパンツを踊り、作文を読み、一年の活動で印象に残ったことを挙げてもらい写真とともに発表、ピアノ演奏を挟んでジェンカで締めるというものでした。

発表順を決めるに当たり「1番がいい」という意見が大多数を占めたので1番目に発表しました。

ある青年はピアノを弾きたい、またある青年は作文を読みたいと自己主張をして、発表に取り入れられました。

全員一致した意見では「鬼のパンツ」「ジェンカ」とダンスを取り入れられました。

下記はとある青年の書いた作文です。

ながれぼしダンスはんで、ちょうりで
とうもろこしのたきこみごはんと
ばんばんじーとかんてんとぎょうざを
つくりました。
けやきでカレーライスを食べました。
せりがやこうえんでスポーツをしました。
がっしゅくにいきました。
うめまるごうのバスにのりぎょこうで
からあげを食べました。
みんなでしゃしんをとりました。
アイスクリームを食べました。
かまぼこをかいました。
クリスマスかいでたのしかったです。
ダンスをおどりました。
ケーキを食べました。
プレゼントこうかんをしました。
たのしい、いちねんでした。
ほかのひとはどんなことが
たのしかったですか。

4 担当者の役割

担当者は男性2名、女性3名の計5名という体制でした。

また、集まれる担当で活動後にその日のうちに活動の反省と次回の活動のミーティングを入念に行いました。

5 今後の展望

言葉がうまく伝えられない青年の意見の引き出し方に苦労しているのと、担当者の人数に余裕がなく、活動の範囲が制限されてしまいます。

また、青年の経験が限られる中で担当者と一緒に学級活動を創り上げるという経験や知恵を身につけて、青年たちの生活に還元していく糧をつけていくことが活動の中で重要と感じました。

また、マナー化を防ぐため時には担当者が新しい素材を提供し、共有して組み込むことの必要性もあると思われます。

活動の良さを見い出すために青年も担当者もうまく広げられてきたところで1年間の活動が終わるということがあるため、うまく構築されてきた関係性が切れてしまうこともあります。1年で全員の良さを引き出すのはとても難しいと感じました。

また、前述のビンゴゲームのように、担当者が普段何気なく日常活動で行えていることが青年にとってはとても難しいと思えることがあります。

また、ある青年の個人的な悩みに対して、土曜学級としてどこまで相談に乗り解決に導くべきなのか、はたまたそうではないのかの裁量の難しさを感じました。

その時に思ったことをそのままアドバイスとしていいののかも難しいところだと思われます。

土曜学級 スマイルイベント班

活動の流れ

6月9日	開級式、自己紹介・やりたい活動
6月22日	班の名前を考える、係決め、秋の日帰り旅行について、今後の活動について、冬のイベントについて、次回の活動について
7月14日	弁当のメニュー決め、日帰り旅行について、班名決め、日帰り旅行の行先について、クリスマス会について、歌づくりについて、次回の活動について
7月28日	夏休みの話、日帰り旅行について、家で聴いているCDを皆で聴く、クリスマス会について、ペットボトルボウリング・ポッチャを行う
9月8日	日帰り旅行について、クリスマス会について
9月22日	日帰り旅行（生命の星・地球博物館、小田原城）
10月13日	日帰り旅行の思い起こし、来年の秋のイベントの話、次回の活動について、クリスマス会について
10月27日	クリスマス会について（チラシ作り、各班に協力依頼、応援うちわ作り）、昼食は弁当を買う
11月10日	朝のつどいで「まちだガールズクワイア」のコンサートの様子を映す、クリスマス会の招待状作り、シバヒロに外出、次回の料理の話
11月24日	調理（ハンバーグ、カレー、サラダ、スープ）、クリスマス会の話、午後は「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」実行委員会
12月8日	クリスマス会について、缶バッチ作り
12月22日	缶バッチの仕上げ、ビンゴの表作り クリスマス会（まちだガールズクワイアコンサート、他班にお願いしたツリー・ケーキ・ビンゴゲーム、プレゼント交換）
1月12日	朝のつどいでクリスマス会の感想を聞く、お正月の過ごし方について、クリスマス会についての反省、成果発表会の話、浄運寺参拝、お礼のビデオレター作り
1月26日	成果発表会の話と準備、次回の活動
2月9日	班員の退級、成果発表会の班紹介チラシ・めくり作成、昼食はランチセットの出前、成果発表会の練習
2月23日	成果発表会の司会について、リハーサル、成果発表会、班の反省会

スマイルイベント班

1. 集団の特徴

班の年齢構成は20歳代4人、30歳代2人、40歳代2人、50歳代1人と幅広く、学級歴も今年入った新人から30年以上の経験者までとこちらも幅広い集団となりました。さらに特筆されるのは担当者も含めて全員が男性ということです。

また、当初の班紹介では「企画と外出」と出されていたため、『外出』活動が多いと考え参加した青年もいたと考えられます。

2. 活動のねらい

活動のねらいは

- ①かつて、土曜学級行事の企画・運営を担当する班として「企画班」が作られたことがあります。昨年度は無く、新人も含めた新たなメンバーでの活動となることから、すべての行事に関わるのではなく一つの事業にしばって企画していく。
- ②活動に関する素材は「企画」であるため、メインとするイベントの企画に参考となるような見学や学習といった活動を取り入れていく。
- ③現段階でのリーダー格の青年、将来のリーダーとなるような青年が参加していることから、お互いの関係や結束を強くすることを意識した自治活動を多く取り入れていく。

3. 活動の様子

〈素材を基に活動の評価と担当者の役割〉

(1) 可能性を引き出す

前期、はじめのうちは、話し合いで班の方向性を出すことがメインとなりました。話し合いを始めると、土曜学級全体のリーダー格の青年二人が話し合いをリードし、班長に立候補した車いすの青年の前向きな姿勢、学級歴の長い青年の一步引いたところからの意見等、核となる青年が多数存在している班ということが明らかになりました。こうした集団の中で、今年から青年学級に参加した新人にとっては先輩たちの意見や行動、他者への気配り等、活動の見本となる場面を体験したことは大きく、当初は「新人だからわからない」と

言っていましたが、後半からは先輩たちの後を追うように役割を自覚した行動が見え始め、年度末の成果発表会では司会をこなすまで成長しました。

その反面、言葉での表現が難しい青年たちは活動の主軸となるのが難しいため、適所でその存在をアピールできる場を作ることにしました。また、文字盤の通訳をする母親もしくはヘルパーと参加する車いすの青年は、文字盤を使って通訳者を經由して意思表示はするものの、意見そのものがその場に適しているかどうかは微妙で、ほとんどが自己アピールであり、また、欠席も多く集団内での位置づけは曖昧のままとなりました。さらに、文字盤での発言に対して対抗する意見を出す者もなく、本人の意見なのか通訳者の意見なのか疑問に持つこともないまま通訳者の口から出る言葉を聞いていたこともあった、活動の終盤には通訳者から直接活動への意見が出る場面もありました。支援者、特に通訳者の位置づけについて再度確認する必要があると思われます。



(2) 外出

○ 9/22 小田原日帰りハイキング

乗り物の好きな青年が多いため、事前の話し合いから大いに盛り上がりました。外出の移動に関しては、常時車いすを使用する2名、長距離の歩行が難しく外出時は車いすを使用する青年が1名、合計3名の車いす使用者への対応、さらに興味があるものを見つけると集団から離れてしまう青年やコンビニで食べ物を物色してしまう青年等いわ

ゆるマンツーマン状態での対応が必要な青年が3名いたため、行動範囲は限られたものになることが予測されました。こうした事情を長年青年学級に参加している青年は承知していて、事前の話し合いで「車いすで行ける場所」との条件が出たり、「無理しないで行ける場所」など、班全体で行動するといった意識は高く持っていたと思われます。また、交通費やお土産にかかる費用の計算から給料やお小遣いの使い方に発展し、さらに「誰にお土産を買って行くか」などから、家族内や友人との関係が垣間見られる話し合いにつながりました。

実際にお土産を買う場面になってみると、箱を見ただけでは何が入っているのが分からなかったり、手持ち金で何が買えるか分からなかったり等、文字や数が苦手な青年にとって単独での買い物の難しさも明らかとなりました。



○11/10 キラリ☆まちだ祭 2018

農業祭。会場の中心に市内の農家の作物で作られた宝船が置かれていたものの、ほとんどの青年は作物の野菜にはさほど興味を示しませんでした。農協婦人部の方々の踊る「USA」には全員興味を示して、一緒に踊る姿も見られました。やはり日常的に見たり聴いたりするものや流行へ

の反応は高く、後のイベントづくり、アイドル〜まちだガールズクワイアのコンサートにつながっていったと考えられます。

また、この日は特別支援学校・町田の丘学園の実施する「ボランティア講座」の実習として青年学級に女子高校生の参加がありました。午後からの参加であったため、数名の青年が昼食を早めに済ませてソワソワ。男ばかりの班集団に久々の(若い)女性の登場とあって、デレーとしながら室外で女子高校生を待っていた姿から、班構成の課題がみえてきました。

キラリ☆まちだ祭 2018 から帰って、感想を出し合っているうちに、会場で見たジャガイモやニンジンといった野菜から「家で料理するかどうか」という話し合いに発展しました。ある青年の『カップ麺程度なら作る』との意見から、「レトルトカレーや温めるだけのハンバーグならできる」「野菜はカット野菜」「インスタントのスープがおいしい」等、単身生活する現代の若者(担当者?)の家でのメニューのような要望につながり、次の活動で実際に「包丁を使わない」食事作りを行いました。

(3) 話し合いから発展した活動

○調理(野菜の宝船から)

前述のとおり、調理は話し合いから発展しました。調理そのものは皆さん好きですが、これまでの活動では、大半が野菜を切る、お米を研ぐといった部分的な関わりしかないこと。かつては調理が自立の条件の一つにあげられていましたが、現在は多くの青年がグループホームを利用し食事提供され、調理の位置づけも変化していることから「レクリエーション」的な意味も含めて包丁を使わないこととしました。

また、「包丁を使わない」ことにしたのは、月に2回の活動で包丁を使う技術の習得は難しいことや、今の食文化は「買って食べる」が当たり前になっていること。例えば手間や時間を短縮するために「コロッケは買うもの」という認識はかなりの家庭に浸透していることなどが理由です。実際にレトルト食品やカット野菜は青年たちの家庭でもテーブルに乗るようで、レトルトハンバーグを見て「家でも食べる」といった発言もありました。

今回、調理を“レク”と位置付けましたが、自立の定義が「生活技術の獲得」から「自己決定できる環境づくり」へと変化している現在、かつて『自立』の目的であった、料理をはじめとする具体的な生活技術の習得や公共交通機関の切符の購入等の取り組みをどう位置づけるべきか考えることも必要ではないでしょうか。

また、この時、牛肉系の食べ物が食べられない青年がいることがわかりました。通常の学級で生涯学習センターが用意する仕出し弁当だけではもの足りず、時には他人のおかずにも手を出していた青年が、レトルトハンバーグには手を付けないでいました。口もとに運んでも拒否する姿は、通常の活動では考えられないことであるため、そのことをご家族に相談すると「牛肉系の食べ物が苦手」なことがわかりました。この青年の、いつもの姿から“食べ物の好き嫌いは考えられない”という担当者側の『思い込み』による対応は、ともすると本人にとっては、大きな苦痛を伴うものとなっていたかもしれません。こうした「思い込み」による支援は、その他の活動でもおこなっている可能性もあり、支援全般の内容をみなおす必要があることに気づかされました。

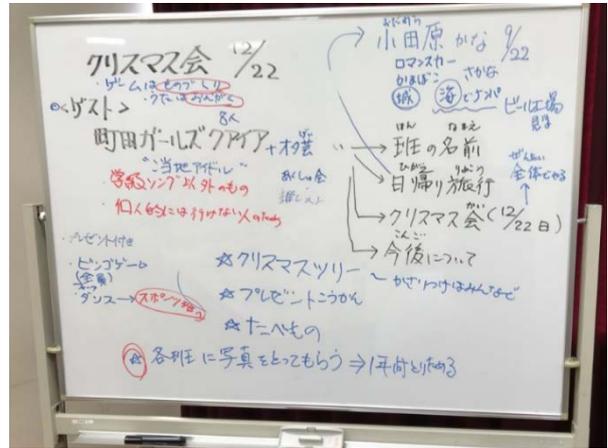
手軽な調理から始まった活動でしたが、私たちが陥りやすい『思い込み支援』が明確となり、「決めつけない」ことが、その後の活動の注意点となっていきました。



(4) イベントづくり

当初よりクリスマス会を目標のイベントとしており、後期に入ってクリスマス会の内容を話し合

いました。リーダー的存在の青年は、町田のご当地アイドル『まちだガールズクワイア』を追っかけていて、「個人で観に行くのは高いし、夜は行けない人もいます。学級活動で呼べばみんなで楽しめる」との提案がありました。



クリスマス会の話し合い 板書して確認！

この提案を受け、アイドルについて話し合うと「オタ芸」といった新種の若者文化が飛び出したり、家で聴いているCDをみんなで持ち寄り聞いてみると、やはりアイドル系の歌が受けていることがわかりました。さらに、アイドルを呼ぶことを提案した青年から、直接無料コンサートに行き、土曜学級のクリスマス会でのコンサートの出演を頼んできたとの発表があり、グループの事務所に確認したところ「彼はよくコンサートに来ている。是非クリスマス会に行きたい」との回答を得ました。

その後の具体的な詰めは担当者が行いましたが、自分たちがどう関わるかという話し合いでは、「ビデオレターを送りたい」と、積極的な意見が出され、何回もリハーサルを行って完成させました。実際にまちだガールズクワイアのメンバーからビデオレターで感激したとのコメントをいただき、今までにない大盛り上がりのクリスマス会を迎えることができました。

ほぼ同じメンバーで30年も活動していると、担当者が過去に行った活動を踏襲したり、青年たちも経験したことのある活動を要望するような傾向があるため、まったく新しい企画となった今回のクリスマス会は、青年たちも担当者も斬新な活動であったと考えられます。

また、コンサート以外では、班長を務める青年から、学級全体を意識して「みんなで作るクリスマス会にしましょう」との提案があったことから、
○流れ星のダンス班には『ゲーム』
○秋桜班には『ケーキ』
○ものづくりブリヂストン班には『ツリー』
の作成を依頼して、クリスマス会で各班が主役になる場面を設定して全員参加のクリスマス会を作り上げました。これは、青年それぞれが大きな達成感を得るとともに、その後行われた成果発表会の運営も積極的に参加するなど、クリスマス会の企画は、大きな自信へとつながっていきました。



まちだガールズクワイアと一緒に♪

4. 課題と展望

町田市青年学級は 3 学級それぞれ特徴があり、活動の内容も支援方法も異なっていて、土曜学級

は比較的年齢の高い担当者と「おっとり型」の青年の組み合わせで、ほんわかムードの中で活動が行われています。(クリスマス会に参加した公民館学級の担当者から「まちだガールズクワイアのコンサートなんて公民館学級では考えられない」との感想が出ていました。)

こうした活動から、青年学級の目的である「生きる力・働く力」の獲得について考えてみると、土曜学級は、直接「生きる力」を追い求めるのではなく、「楽しむ」ことを優先し、気分をリフレッシュさせて「明日への意欲を高めていく場」となっていると考えられます。

青年学級開設当初、法律も含めて福祉的資源がほとんどないなかで、権利や人権が無視され、差別の多い社会に打ち勝つためにテーマとした「生きる力・働く力」。それから40余年、人権や権利に関しては「障害者の権利に関する条約」「障害者差別解消法」等法律等の批准・制定。日常生活や働く場の支援については自立支援法～総合支援法等といった法整備により福祉的資源が拡大され、自身で選ぶ時代になったことで、かつての「コイツラ」から今では「ご利用者様」となった青年たちの日常生活。文化や意識が大きく変化した現在、青年たちの「生きる力・働く力」とはいったい何であるかをきちんと議論して、現代的な解釈を明確にすることも青年学級に必要なことではないでしょうか。



土曜学級 ものづくりブリヂストン班

活動の流れ

6月9日	開級式
6月23日	話し合い（班名、係り）、七夕飾りづくりで、それぞれ短冊に願いを書く
7月14日	調理（ハンバーグ、パン、アヒージョ、スープ）話し合い（次回の活動をどうするか、秋の日帰り旅行でどこに行くか、何をするか）
7月28日	日帰り旅行に向けての話し合い、プロジェクタで投影しながら、インターネットで小田原の観光スポットを検索し、イメージづくり、ストロー飛行機づくり
9月8日	かまぼこ作り、夏休み中の近況報告、日帰り旅行の話し合い、しおり作り
9月22日	小田原日帰り旅行 一夜城跡（ヨロイツカファーム）、小田原漁港、昼食、小田原駅、ロマンスカー
10月13日	写真立て作り、公民館カフェ。喫茶店では担当者が援助して、メニューから好きなものを選び、レジで支払いなど
10月27日	手形やハロウィングッズなどの粘土工作。クッキーの調理器具を利用して、クリスマスツリーを飾る星、ハートなどを型抜き
11月10日	クリスマスオーナメントの色塗り、段ボール工作 散歩（浄運寺、原町田わかば公園）
11月24日	クリスマスツリー作り、段ボールのロマンスカー作り
12月8日	クリスマスツリー作り、中央図書館でロマンスカーの資料を閲覧。 ロマンスカー作りの続き
12月22日	クッキーづくり、クリスマス会
1月12日	書初め、話し合い（お正月の過ごし方）
1月26日	成果発表会に向けて話し合い小道具づくり、練習
2月9日	調理（ビーフシチュー、フルーチェ、ポテトサラダ）
2月23日	成果発表会

1. 集団の構成、特徴

男性 10 名、女性 2 名が参加し、計 12 名と、土曜学級の中では平均的なサイズの集団となりました。このうち 5 人が前年度「トレンディものづくり班」から参加です。

自分から言葉を発することは少ない青年が多く、話し合いを行うときには担当者の適切な関わりが欠かせません。また落ち着いて座っていることが苦手な青年、大量に水を飲む青年もいて、ひとつの作業に全員で参加することは難しい面もあります。

また、今年度初めて学級に参加する青年がひとりいます。周囲と良好な関係を作るための支援が大切ですが、言語によるコミュニケーションが得意な彼と、そうではない周囲の青年たちがどのように集団を形成していくかが課題です。

2. 活動のねらい

- ア ものづくりの活動を通して、お互いに肯定し合える集団作りを目指す。
- イ ひとつのものを完成させる取り組みを通じて分担や協同を学ぶ。
- ウ 話し合ったことを目に見える形にしていく過程で作ることの喜びを体感する。

3. 活動の様子

ア 班名決め

話し合いでは様々な意見が出ました。ものづくり 48、すべらないものづくり、ものづくり dash、ものづくりボンビーなどマスコミで見聞きする名称を連想させる提案が多く、その中で「ものづくりブリヂストン」が支持を集めました。提案した青年は「乗り物にはタイヤがある。タイヤはブリヂストン」ということでした。

イ 係り決め

毎年どの班でも班長に立候補する積極的な青年と、今年初めて参加した青年が立候補しました。班のメンバーから特に異論は出ずに選出されました。ふたりとも自分のスタイルがあるので、両者の協力関係を作ることが目標になります。

新人の青年は話し合いの司会をしながら班員

の名前を覚えようと努力しているようでした。彼なりに班長の役割のイメージがあるようで、ふさわしくふるまおうとする様子が窺えましたが、班員の話聴くよりも自分が作成した旅行企画書を担当者に対してアピールしがちでした。

班長のほか、出欠係、お茶係、お弁当係、テーブル拭き係を話し合いで決めましたが、こうした係分担を活動の中に定着させていくことも目標になります。

ウ 調理（ハンバーグ）

フライパンを使わず炊飯器でハンバーグ、パン、アヒージョ、スープに取り組みました。まず買い物班と調理班に分かれました。また、限られた時間内に同時並行的に作業を進めることを青年と担当者で共有するために、調理を開始する前にホワイトボードなどを使って、必要なもの、作業工程などを説明し、その場にいるひとすべての協力関係を作るよう工夫しました。

特にハンバーグは青年たちからは「おいしい」と好評でした。

片付けも担当者主導になりがちですが、できるだけ青年が取り組めるような声掛けをしました。

エ 日帰り旅行に向けての話し合い、ストロー飛行機づくり

インターネットに接続したコンピュータで小田原の観光地を検索し、それを部屋の壁にプロジェクタで投影しながら、どこへ行くか、どこで食事をするかなどの話し合いをしました。映像があることで、言葉やホワイトボードだけよりもイメージを共有しやすくなるとの考えからです。

小田原城、小田原漁港に行ってみたいなどの声が出てきました。そこで担当者から巡回観光バスで観光地を見て回ろうと提案しました。

話し合いの時間のあとは、ストローや紙などの身近なものを使って飛行機づくりに取り組みました。自分が作ったものが飛ぶことに興味を持ったようです。帰りのつどいでも実演しました。

オ 調理（かまぼこ作り）

前回の活動で要望が出たかまぼこ作りに取り組みました。タラの身を小さく切り、すりつぶし、塩を少量加えて蒸す。これらの工程を分担してひとり一人の参加する場面を作り出しました。

一連の作業が最終的にかまぼこになることはイメージしづらかったかもしれませんが、青年たちは担当者の声掛けで参加ができていました。

出来上がったものは昼食のおかずにしりましたが、あまり見慣れない姿かたちをしていたからか、当初は積極的に食べようとする青年は少なかったものの、少しずつ分けて残さず食べられました。



カ 小田原日帰り旅行

他学級担当者、担当者 OB、生涯学習センター職員の助力を得て、2~3人の小グループで行動しました。小田急線急行で小田原駅まで、巡回観光バス「うめまる号」に乗車して、一夜城跡、ヨロイツカファーム、またバスに乗り小田原漁港、食事と盛りだくさんの行程です。当初計画にあった小田原城の見学は時間の関係から省略しました。

最後は小田原駅に戻りロマンスカーに乗車に帰途につきました。

青年たちにとっては普段行くことのない場所に行き、普段体験する機会の少ない体験ができ、特にロマンスカーは印象深かったようでした。

平日には福祉サービス事業所を利用し、休日は家族と過ごすとはいっても、日常的に外出の機会が乏しい現実があります。家族や知人などへのお土産を買うことを楽しみにしている青年もいました。

なお、運営面の反省として、青年と担当者から当日に預かった電車賃、食事、おやつ代などについて各人の収支をすべて記録して報告しましたが、例えば手帳の一種と二種の種別やその介助者の運賃など費用が各人で異なり、その管

理に神経を集中しすぎました。共益費として集めたお金を一括して管理しそこから支出するなどの簡易な方法を検討する必要があります。

キ 写真立て作り、公民館カフェで休憩

小田原日帰り旅行の振り返りながら、撮影した写真を写真立てに入れ、飾り付ける工作に取り組みました。

写真立てが出来上がってから公民館カフェに行きました。カフェでは、メニューをみて好きなものを選ぶ、運ばれてきたものから自分が注文したものを選ぶといった全ての場面で担当者が全面的に援助する必要がありました。

私たち誰もが何気なく日常的に行っていることですが、メニューをみる、商品を選ぶ、声に出して注文する、お金を出す、お釣りを受け取る、用意された座席で座って待つ、その間立ち歩いたり声を出したりしない、持ってきてくれたもののなかから自分が注文したものを正しく選ぶ、作法に従って飲むなど、あらゆる社会的行動が含まれています。

青年たちの「生きる力、働く力」の一場面ですが、これまでの生活歴、経験の少なさもあり、担当者がほとんどすべてを取り仕切ってしまうがちです。こういった社会参加の支援では担当者の力量が問われます。



ク クリスマス会に向けてツリー作り

クリスマス会では各班でそれぞれ役割をもつことになりました。イベント班からの働きかけで、ものづくり班はクリスマスツリーに取り組むことになりました。

粘土をこね、クッキー用の型抜きを使って星

やハートの形の飾りを作り、色塗り。ツリー本体は段ボールを緑色に塗り、樹木の形に切り抜いて製作しました。

共同作品として見栄えのある大型のツリーが出来上がりました。班長会では「大きすぎる！」「切り詰めたほうがいい」との声もありましたが、実際のクリスマス会では7階ホールに飾ると存在感があり、賞賛されました。

ケ 成果発表会に向けてロマンスカー、小田原城の段ボール工作

成果発表会で演ずるときの舞台をイメージして、大型のロマンスカー、小田原城の段ボール工作に取り組みました。

色を塗る、紙を切る、貼る、絵を描くなどの工程に青年たちがそれぞれの仕方に参加ができました。一方で、協力して作業しそれが出来上がったらどのようなものになるのか、そのイメージを青年たちに提示しながら取り組みを進められか、支援上の課題も意識されました。

担当者がその場で相談しながら臨機応変に青年たちが最も参加しやすい手順を考え、青年たちの声を拾ってそれをヒントにしながら、完成のイメージを段階的に共有していきました。

コ 書初め

新年1回目の活動では書初めに取り組みました。書初めにふさわしい言葉を自分で難なく選ぶ青年もいる一方で、自分の名前だけを書く青年もいます。名前だけであっても青年たちの表現として大切な場でした。

作品は当日の帰りのつどいで発表するとともに、成果発表会ではまとめて掲示し、それを自宅に持ち帰りました。

サ 調理（ビーフシチュー）

何を作り食べたいか、その話し合いの中からビーフシチューを作って食べることにしました。今年度2回目の調理で、担当者も自ずと段取りがイメージしやすくなりました。雪の予報もあって参加者が少なく、その分、青年たちが調理の各工程に参加しやすいような展開となりました。分量や手順、味付け、片付けなど担当者が

リードしつつ、青年たちも慣れた様子で参加していました。



シ 成果発表会

日帰り旅行の町田までの帰路を取り上げました。ロマンスカーの車内をステージ上にしつらえ、大道具として活動で制作に取り組んだ段ボールのロマンスカー、小田原城を置きました。

車掌役の青年が、マグロ丼やソフトクリーム、定期観光バスうめまる号などを描いたフリップを持って、班のメンバーに何が楽しかったかを聞いて回ります。

またアテンダント役の青年が車内販売。乗客約の青年が「コーヒー！」と注文し、他のメンバーもコーヒーを注文し、乾杯をします。ビールを注ぐ擬音が得意な青年も雰囲気盛り上げました。

また、ステージ背景には、青年たちのセリフや、1年間の活動の写真を投影しました。

全体としてシンプルな構成で、観る側からも分かりやすかったようです。

4. 課題と展望

青年たちの希望をベースに担当者が工夫を加えて活動の内容を作り上げるスタイルを守りつつ、いかにバリエーションを加えるか、生きる力と働く力の獲得に結び付けるかを模索する一年でした。

土曜学級 秋桜班

活動の流れ

6月9日	開級式
6月23日	【話し合い】(1) 秋の活動について、(2) 班の名前 (3) 班長係決め (4) 年間計画。秋桜班に決定。
7月14日	【色々な音を聴く】色々な効果音の収録されたCDを聞いて、何の音か考えてみる。
7月28日	【話し合い】小田原での活動について、当日の行程、目的地・経由地、所要時間、費用を確認。【曲作り】に挑戦、班では「はじめのうた」と呼んだ。
9月8日	【話し合い】お互いが過ごした夏休みの様子を報告。小田原外出の行程確認。
9月22日	入生田で地球博物館見学。 風祭までハイキング。
10月13日	小田原活動振り返り、若葉とそよ風のハーモニーコンサートの話、センター祭りの話し合い。
10月27日	若葉とそよ風のハーモニーコンサートについて話し合い、リズム練習。
11月10日	好きなDVDやCDを持ち寄って順番に再生。持ってきた人はそのDVDやCDで好きなところを発表。
11月24日	調理活動「クリスマス会で作るケーキ」の試作。製作時間や数、そして味の評価。
12月8日	クリスマス会で担当するケーキの出し方検討。
12月22日	クリスマスケーキ作り。 土曜学級クリスマス会。
1月12日	お互いが過ごした年末年始の報告。
1月26日	成果発表会向けパンフレット作成。
2月9日	成果発表の準備や話し合い
2月23日	成果発表会本番

1 集団の構成、特徴

男性9名、女性5名が参加し計14名、音楽好きの青年が多い土曜学級の中で一番人数の多い班になりました。歌や音楽が好きな人、楽器を楽しむ人が集まっています。

率先して発言や行動をする人よりも、控え目なメンバーが多い班になりました。

2 活動のねらい

楽曲創作を主軸に、活動を通して青年たちが自分の好きな音を探すこと。楽器に限らず様々な道具から発する音も使って自らを表現することがねらいです。

3 活動の評価

(1) 集団づくり

学級活動において、互いはどのように関係してきたか

秋桜班に所属した青年の14人中5人は同じ職場で働いています。活動中は5人のなかの2名が他の3名へ働きかける場面がみられることが多く、特にNKさんの周りには、親しい人たちが自然に集まる格好となっていました。

逆に職場が異なる他の青年たちは、他者を意識した関わり方が少ないように感じました。

同じ職場である人とそうではない人の違いを変えられるよう、他のメンバーの気持ちや考えを推し測るような支援のやりかた、例えばAさんがどんな意見を持っているか、皆で考えてみる場面作りなど、仲間の気持ちを意識した活動が提供できれば良かったと思いました。

班長は1名に限定せずに2名の体制になりましたが、それは2名の立候補を受けて班で話し合った結果でした。

ほかにも年間を通した大まかな予定を話し合っている時、ある青年の楽器をやりたいという言葉聞いて、班長の青年が自身の得意な楽器の「カホンを教えても良いよ」話した姿は誇らしげで印象に残りました。

(2) 生活づくり

学級活動と生活がどのように関係してきたか

今年度、この班で何をやりたいかを話し合っている時、ギターやピアノを弾いてみたいという青年からの提案があり、楽器に興味を持っていることを班のみんなと共有することができました。

学級を休みがちなNYさんの参加時間が、今年は以前に比べて多くなりました。そんな中、秋の小田原への日帰り旅行の話し合いでは、行きたい場所としてNYさんが小田原競輪場を提案する場面がありました。その時は面白おかしく話題を取り上げましたが、活動終了後に担当者間で振り返った際に「もしも、本当に青年学級の活動として競輪場に行っていたら、折角ギャンブルから遠ざかったNYさんが、再びギャンブル場へ通うきっかけになったかもしれない」という懸念が取り上げられました。その懸念を否定する根拠も見いだせなかったため、話し合いの雰囲気にも呑まれ、生活を立て直そうとしている青年への軽率な支援だったと担当者として反省しました。

今までは青年学級のオリジナルソング（学級ソング）を楽しむ姿少なかった青年が、班活動を通して朝や帰りの集いでも学級ソングを大きな声で歌うようになった姿も印象的でした。

活動の中で青年たちの家庭での過ごし方を聞き発表しあいました。この時、ある青年が「BREAKERSの歌を聞いていました」という話をしていました。しかし他の青年や担当者全員が「BREAKERS」という単語を知らないため、このままでは話を共有できません。あわてて担当者がスマートフォンで調べた結果、BREAKERSはロックバンドだということがわかり皆へ解説しました。その後、その青年がギター好きであること、歌うことも好きという情報が班で共有され、成果発表会では、エレキギターとBREAKERSの歌を披露することにつながりました。

支援する担当者や青年とは世代が違う事も多く、音楽一つをとっても担当者が考える素材と、青年の考える素材にズレが生まれているかもしれないこと。青年たちのやりたい事を聞くことは、もちろん大切ですが、何気ない日常の話の中にも青年たちの望む活動のヒントがあることがわかりました。



(3) 文化創造

学級活動で、どのようにして独自の文化が生れたか

楽器や音楽が好きな青年が集まっているので、思いを共有できる“曲”づくりを活動の幹に据えてきました。

前期は、NYさんのベースギターを軸に楽器や体を使って一緒にリズムを刻む練習をしていました。

後期は、既存の楽曲「かえるのうた」の歌詞部分を、みんなの好きな音や歌に置き換えて楽器と共に成果発表会で披露しました。

4 課題と今後の展望

楽器に触れる演奏を経験する機会がもっとあれば、皆が自分を表現する幅も広がったのだろうか、その点については明確な答えが見いだせていません。

年間の活動の中には、話し合いという自治活動や調理活動など、楽器に触れている時間を確保できない時もあります。一年間の活動を振り返ると、結果として青年同士で好きな音楽・楽器・音を共有して、皆が待ち望むような状況には至らなかったという気がします。

音楽というキーワードから、この班を選択して集まった青年が多いと思うので、もっと音楽を楽しめる活動を模索していきたいと思います。

第2章 自治運営

1 班長会

(1) 班長会とは

班の代表者である班長、副班長が各班の意見をもち寄って、学級全体に関わることについて話し合います。また各班の活動を報告し情報共有する場でもあります。1年目の新人から20年以上のベテランまで幅広い層の青年が集まりました。今年イベント企画を担当するスマイルイベント班ができたので、イベント企画の提案を班長会で話し合う流れが多かったです。

(2) 討議内容

- 6月23日 班名と班長の紹介、朝と帰りのつどい当番制にして順番を決める
- 7月14日 スマイルイベント班からクリスマス会の提案。日帰り旅行の場所が小田原へ決定。班長会で下見に行くことに
- 7月28日 台風接近のため早めに学級終了し班長会も中止
- 8月25日 小田原へ下見に。各班が行く場所のバリアフリー施設の確認や、最後に小田原駅で集合する場所を決める
- 9月8日 各班の日帰り旅行の行程確認。朝と帰りのつどいについて注意することなど
- 9月22日 日帰り旅行で小田原へ。班長会は無し
- 10月13日 日帰り旅行の振り返り。来年の秋のイベントについて
- 10月27日 クリスマス会について。スマイルイベント班より各班に手分けして準備をしてもらうよう依頼したことの報告
- 11月10日 クリスマス会の準備の経過報告。今年はまだガールズクワイアのコンサートがあるので他の学級の青年にもクリスマス会を案内する招待状を作成
- 11月24日 クリスマス会のスケジュール確定。プレゼント交換用のプレゼントの

購入金額や内容について

- 12月8日 交換用プレゼントの詳細確定。クリスマス会の役割分担
- 12月22日 クリスマス会のため班長会は無し
- 1月12日 クリスマス会の振り返り
- 1月26日 成果発表会の順番決めと招待状作り
- 2月9日 成果発表会で歌ううたを決める。成果発表会の日の班長会について
- 2月23日 昼の臨時班長会で成果発表会の役割決め。いつもの時間の班長会では成果発表会の振り返り

(3) 取り組みと評価・今後の展望

①日帰り旅行の下見

秋のイベントの場所が決まると班長会で下見に行きます。昨年度は大地沢青少年センターを使った合宿で、行き慣れた場所だったため下見は行いませんでしたが、今年度は小田原への日帰り旅行になったため下見が必要になりました。

下見の目的は、所要時間、見学予定の場所でのバリアフリー施設の有無、駅での集合場所の確認などです。最近は携帯のアプリなどで乗り換えや所要時間などがすぐにわかりますが、車いすの方がエレベーターを使った場合の所要時間や、みんなのトイレの位置などは実際に行かないとわかりません。今年8月25日の土曜日に日帰り旅行当日と同じ交通機関を使って班長会での下見を行いました。

下見でわかったことは、次の学級日で班長から各班に伝えて当日の行程に活かします。班長自身も事前に体験できるため下見は班長会での重要な活動になっています。

②クリスマス会について

今年度はイベント企画を担当する班が立ち上がったため、班長会で最初からイベントを企画することはありませんでした。7月の班長会でスマイルイベント班からクリスマス会開催案とともに、二つの新しい提案がありました。一つはまだガールズクワイアというご当地アイドルを呼ぶ事、もう一つはクリスマス会の準備を各班で手分けして行うことです。今までもクリスマス会や新年会で外部の団体を呼んでコンサートを行ったことはありますが、青年学級と関わりのある団体が多く、

今回のように全く関わりの無い団体を呼ぶのはあまり無い事です。班長会ではアイドルのコンサート、準備の分担ともに賛成となりクリスマス会に備えました。クリスマス会当日、コンサートは大好評のうちに終わり、役割分担を行ったことにより一つの班だけでは出来ない色々な事が準備できました。

③つどいについて

青年学級で朝と帰りに行く「つどい」は、1日のスタートと終わりとなる、とても重要な行事になっています。土曜学級では数年前に班長会で決めた、各班持ち回りの当番制で運営しています。今年度もつどいについて班長会でいくつかの意見と提案がありました。

- ・ホールは飲食禁止なのに飲み物を飲んでいる人がいる。外で出るよう注意する。
- ・朝のつどいの声が小さい。
- ・つどいは全員参加なので時間になったらホールに入るように班長たちが注意すること。大きな音が苦手な人はしょうがない。
- ・帰りのつどいが終わるまでは帰らない。迎えが早めに来て最後まで参加する事。用事があつたら仕方ない。

出てきた提案は班長が各班に報告して、より盛り上がるつどいを目指していきます。

④今後の展望

昨年度は班長会でイベントの企画を行ったり、土曜学級の20周年記念イベントを開催したり、とても忙しい一年でした。それに比べて今年度の班長会は各班の提案を話し合う本来の活動の場となりました。

学級全体に関わるような場合は班の中だけで無理に解決しようとせず、班長会に意見を上げて話し合ったうえで対応を決めるという、青年→班長→班長会→班長→青年との流れが青年達に理解されたとうえで、班長会が皆の意見をまとめる機関として機能しました。

班長会は青年学級が目的とする自治運営の要であるため、今後も班長一人ひとりが班の代表であることの自覚を持って参加していけるよう、担当者、職員もともに関わり続けることが必要です。

第3章 考察

1 土曜学級の概要

97年度より、第2・第4土曜日に町田第二小学校の開放教室を利用して土曜学級がスタートしました。

土曜学級は開級当初30名という規模の集団でスタートしましたが、30名で1つの集団として活動するには、自治活動の視点から見て規模が大き過ぎ、活動が行いにくいという点から3グループに分けることにしました。

また、新たな学級ということで、活動に対する要求をお互いに出し合うことから活動が始まり、そこからひとつの活動をつくっていきました。

素材を定めたコース制の良いところは、同じ要求を持った青年での集団が作りやすい点です。公民館学級、ひかり学級に続く3番目となる土曜学級では、新たな取り組みとしてコース制ではなく、あらかじめ素材を定めなくて活動の中で出される青年の様々な要求を取り上げていく班活動の形態を取り入れました。

4年目の01年度には青年が47人となり班ごとの人数が多くなってきたため、3班から4班に再編成することになりました。また02年度からはアンケートから抽出した活動の要素を開級式に提示し、希望の活動ごとに班を構成するというように、コース制に近いグループづくりに取り組んでいます。青年の人数も05年度には60名となり、この人数では4班体制で活動しにくい規模になったために、5班体制にして活動を行うこととなりました。規模の拡大に伴い、使用施設を町田第二小学校から、部屋数の多い生涯学習センター（まちだ中央公民館）に03年度から変更しています。

しかし、ここ数年は担当者会に出席できる担当者の減少が続き、15年度からは4班体制での活動に戻りました。

今年度は学級生48人で活動が始まり、昨年度に引き続き4班体制（流れ星💎ダンス、スマイルイベント、ものづくりブリヂストン、秋桜）で活動を行いました。活動は6月の開級式から2月の成果発表会まで（8月は除く）、毎月原則第2・第

4土曜日に行われました。タイムテーブルは、以下のとおりです。

午前 9時20分～会場準備、担当者打ち合わせ、送迎
10時00分～朝のつどい
10時30分～班活動
（昼食）
午後 3時30分～帰りのつどい
4時00分～班長会

主な班活動は、プレイルーム、音楽室、美術工芸室、調理実習室、ホール、学習室を使用して行いました。

2 今年度行われた行事について

（1）日帰り旅行

土曜学級では秋のイベントとして、合宿と日帰り旅行を行っています。毎年、どちらにするかは前年度中に話し合いで決めており、今年度は9月22日（土）に小田原へ日帰り旅行を行いました。

今回の日帰り旅行は、行きは4つの班が別々に小田原へ向かい現地で班活動を行い、帰り全部の班が小田原駅へ集合して、一緒にロマンスカーに乗車して使って町田まで戻るという行程になりました。

各班は小田原駅まで通常小田急線使い、その後の小田原での活動はおおまかには二つのルートにわかれしました。周遊バス「うめまる号」を使って小田原漁港へ向かう二班と、小田原から箱根登山鉄道を使って「生命の星・地球博物館」へ向かう二班です。事前に班長会で下見を行っていたおかげで小田原駅までの乗り降りは順調でした。

流れ星💎ダンス班とものづくりブリヂストン班はうめまる号に乗車。普通の路線バスと違って地元のボランティアの方が添乗員となり、それぞれの観光地の説明を聞くことができました。その後小田原漁港で昼食をとり、バスに乗って一夜城跡

へ向かって有名なスイーツ店に行く班と、小田原駅へ戻りお土産を買いに行く班に分かれました。

箱根登山鉄道を使ったのはスマイルイベント班と秋桜班。入生田駅では駅舎が工事中でしたが、事前に担当者の方が駅員さんに日帰り旅行の事を伝えていたのでスムーズに出入りできました。生命の星・地球博物館に到着した時にはちょうどお昼だったので、まずは食堂で昼食を取ってから見学することになりました。博物館はとても広くてまずは学芸員さんからのお話を聞き、恐竜の骨格標本や様々な動物のはく製、たくさんの昆虫標本などの展示物を見学しました。その後は小田原城へ行く班と、かまぼこの博物館へ行く班とで分かれ、それぞれ見学に向かいました。

全ての班が見学を終え小田原駅で集合し、その後は全員でロマンスカーに乗車して町田駅へ向かいました。青年と担当者を入れて約70名、ロマンスカーが1両貸し切りになりました。日ごろ公共交通機関をあまり使わない青年も多く、中には特急電車に乗るのは初めての人もいたりして、とても印象に日帰り旅行になりました。

(2) 成果発表会

一年間の成果の発表の場として成果発表会があります。午前中はリハーサルを行い、午後からホールで発表会が行われ、各班20分の発表をしました。

最初に発表したのは流れ星💎ダンス班。練習した歌や踊りを中心に、一年間の活動をそれぞれ作文や写真で説明しました。最後にみんなんでジェンカを踊りながら舞台から客席に降りてホールの反対側まで踊って終了しました。

二番手はものづくりブリヂストン班です。日帰り旅行で乗ったロマンスカーの車内を再現、赤い車体や、車内販売の品々、窓から見える小田原城まで全てをダンボールで作った見ごたえのあるステージになりました。

三番目の発表はスマイルイベント班。スクリーンを大きく使って活動の報告をしました。また、今年初めて呼んだ、まちだガールズクワイアに宛てたビデオレターを披露したり、クリスマス会で配った缶バッチの作り方も再現しました。

最後に発表したのは秋桜班。活動で作った「は

じまりの歌」に乗せて、全員が自分の好きな音楽を演奏します。ギターを手にロックンローラーになりきる青年や、いつも肌身離さないカホンを演奏する青年など、それぞれ好きな音楽を発表しました。

一年間行ってきた活動内容を舞台上で発表して多くの人に見てもらうことで、満足感や達成感を味わうことができる成果発表会になりました。

3 担当者の役割

(1) 青年への電話かけを行います

学級日前の木曜日に各班で電話かけを行い、出欠席の確認を行います。また、言葉で自分の意思を表現するのが難しい青年については、家族に自宅での様子や休み期間中（正月、夏休み）の様子などの確認を行います。青年のトイレ・食事介助方法や服薬状況、体調などを確認することができ、保護者と担当で情報の共有を行える貴重な時間です。

(2) 外出で行く場所の下見について

青年学級の活動では外出することがあり、活動日に外出する前に下見をする必要があります。エレベーターやトイレの場所の確認、電車の乗継の時間・移動時間の確認、昼食場所の確認などが挙げられます。当日と同じような時間帯ルートで下見を行うことで、担当者が頭の中で当日の流れをイメージすることができ、予測されるトラブルなどを予防することやスムーズに活動を行うことができます。

今年度の秋のイベントは日帰り旅行になったので、班長会の青年たちと連携して、旅行先の小田原へ下見に行きました。

(3) 青年に寄りそう

活動中、青年がどんな表情で参加をしていたか、どんな発言をしていたか、どんな様子だったのか、など青年に寄り添い、しっかりと見て聴いて感じる必要があります。言葉でのコミュニケーションが難しい青年も多いなか、青年の思いを知り、どのようにしたらその思いを皆へ伝えることができるか、どのようにしたら学級の活動などにつながるかを一緒に考えなければいけません。

青年学級は青年が主体です。活動の準備などで

青年が携われることは一緒に行い、活動を一緒に作り上げていくことが大事です。

(4) 担当者同士で情報の共有

担当者会で活動日の様子や青年の様子、次回の活動がスムーズに行えるよう準備や情報の共有をします。

(5) 当日担当者との情報の共有

当日担当者は木曜日の担当者会に参加せず、当日の活動日のみ参加します。

どのような活動を行うか、タイムテーブルなど事前にメールや電話などで伝え、班の担当者が同じ方向を向き、活動を行うことが必要です。また、活動後に当日の青年の様子などを担当者間で話し合い、共有することも必要になります。

(6) ニュースづくり

ニュースは、当日の活動の内容を青年と振り返るとともに、家族にも活動の様子を伝えるものです。また、特定の担当者が書くのではなく、班の担当者が持ち回りで書くことや編集作業などニュースづくりは協力して行うことが必要です。ニュースを作ることで、青年のことをよりしっかりと見る力、考える力などが付きます。

4 課題と展望

(1) 班長会の役割と活用について

各班の代表が集まり学級の運営にかかわる班長会は、青年学級の「自治」のうえで欠かせない大きな役割を持っています。また、別の班の青年同士が活動の情報を共有できる場でもあります。班長会で出た議題や提案は必ず各班へ班長が持ちかえって話し合うように、より良く活用していく必要があります。

また、ここ数年班長になる青年が固定化しています。これについては経験が豊かになり会が進めやすいメリットとともに、意見や活動が固定化し易くなるデメリットも生じます。今まで本人の希望制で決めていた班長についても、班長の役割や求めるものを再度確認したうえで決め方について検討していく必要があると思われます。

(2) 担当者と青年とのかかわり方

三学級の中で一番歴史の新しい土曜学級も、既に20年以上の歴史を積み重ねてきました。青年

も担当者もベテランとなってきて、何も言われなくても自然と学級活動で動けるようになってきています。そのため経験則による円滑な活動のみを重視して、突発的な考えや偶発的な活動から生まれる新しい試みを軽視することになっているのではないかという危機感もあります。

青年学級の求める「生きる力」、「働く力」、「文化創造」、「生活づくり」についても、40年、50年経ってその時代に合わせた変化をさせていくこと、方向性を見出すことが今後も青年学級を支援する人々の課題になります。

第5部 地域への広がり

第1章 サークル活動

1 おなべの会

(1) 会の歩み

1980年度青年学級成人班で調理を中心に活動したメンバーからの「青年学級以外でも調理をしたい」「調理を続けたい」という思いがきっかけになって1981年にはじまった料理サークルです。

ほぼ月に一回のペースで青年学級のない土、日、祝日に、おもに調理実習室で活動しています。

(2) 2018年度の活動

午前中の活動を例にとると、9時30分にロビーに集まり、受付で利用料（午前中は1750円、午後2000円）を支払い、鍵を受け取り調理実習室に向かいます。部屋に入るとまず、メンバーの一人が当日の会費300円を集め、ホワイトボードにその日のメニュー、必要な食材や調味料をみんなで確認しながら書き出していきます。メンバーの一人がボードを見ながら熱心に手帳にメモを取ります。

次に買い物に行く人と残って食器や調理用具の準備やご飯を炊く人に分かれます。

買い物は、公民館隣のデパート地下のスーパーへ、10時の開店にあわせて出かけ、店では、必要なものをメモした青年が買ったものを一つひとつ丹念にチェックしていきます。レジで会計を済ませると、手分けして食材を運びます。

調理実習室に戻るとまず食材を、洗う、切る、を手分けして行っていきます。ごはんが炊き上がるまでの間など、作業が一段落した際には、再び



ホワイトボードに向かって、今後の活動で作った

いものを出し合います。メニューを提案した人は、なぜこのメニューを作りたいかを説明し、最終的なメニューの決定は挙手による多数決で行っています。

- 4月1日(日) AM ちらし寿司
- 5月3日(木・祝) AM 冷やし中華
- 6月2日(土) AM 話し合い(活動の振り返り)
- 7月29日(日) PM クッキーづくり
- 8月25日(土) PM ひかりセンターまつり出店
ジャガイモのバター焼き
- 9月9日(日) PM クレープ
- 10月21日(日) 生涯学習センターまつり出店
ホットケーキ、コーヒー、紅茶
- 11月25日(日) AM PM なべ料理
- 12月23日(日) AM 豚丼
- 1月14日(月) AM カレーライス
- 2月11日(月) PM 話し合い
(振り返り、やりたいこと)
- 3月9日(土) AM ギョーザ

行事は8月後半のセンター祭り(ひかり療育園まつり)、10月後半の生涯学習センター祭り(公民館)での模擬店出店をそれぞれ25年、30年継続して参加しています。

(3) メンバーの入れ替わり

現在メンバー26名、スタッフが7名ですが、毎回の活動はそれぞれ約12名、約4名で、計20名弱で行っています。

メンバー構成については、「青年学級」か「とびたつ会」に入っていて20年以上参加している人が中心ですが、最近青年学級に入った人や、また青年学級への入級が抽選で外れた人やロコミ、公民館からの情報などで新たなメンバーが加わっています。

一方、グループホームでの生活を始める人も増え、そこでの行事や人とのつながりができることから、おなべの会を実質卒業していく人もいます。

ほかにスタッフでは青年学級元担当者が4名のほかロコミで加わった3名がいます。

(4) 活動の経費の確保

メンバーが参加しやすいよう 39 年前のサークル発足当初より参加費（材料費）300 円を維持してきましたが、実際にはこれまでもメニューによっては材料費をまかないきれない場合があります。

また、2004 年から、活動日前に案内はがきをメンバー一人ひとりに送っています。電話連絡や、活動日に次の予定を確認するだけでは忘れてしまう場合もあり、案内はがきを送ることで前もって予定が確認できるので、その日の活動に見通しを持って参加できるようになっています。その一方で、はがき代が年間 1 万 2 千円ほどかかり、スタッフやメンバーからはがきや現金のカンパを求めてきました。

7 年前からは公民館施設有料化となり、さらに一昨年には値上げが行われ、毎回 2000 円前後の施設利用料がかかっています。さらなるカンパ募集で乗り切ってきました。そうした窮状のなか他のサークルから助成金についての情報を得て、2018 年度町田市社会福祉協議会より歳末たすけあい地域福祉ボランティア活動助成金を受けることができました。

(5) 会場の確保と日程

場所の確保がなかなかできないことから以前は活動日を日曜日に固定し、公民館のほかに、せりがや会館、市民フォーラムや忠生市民センターの調理室を活動場所としてきた時期もありましたが、活動場所を変えると、行き先がわからなくなったり、送迎が必要になったりする人もいることから公民館調理実習室が確保できる日を活動日としています。

また、午前中だけの活動では、12 時 30 分までに退出しなければならず、調理活動が押してしまうと「食べる」「片付け」「清掃」職員による使用後点検などあわただしく活動を終えることもしばしばありました。

今年度利用料も助成金で賄える見通しとなり、11 月の活動では、午前午後通しで会場を予約することでお昼の時間をはさんでゆったりした活動ができました。

たまたま調理実習室が取れない日には、会議室を予約して話し合いを 2 回行っています。「新しいメンバーが加わってよかった」「（おなべの会以外の）青年学級のメンバーが亡くなったという話題になったときには、その青年のことを思い、歌を歌おうと」仲間を思う発言があったり、「（以前のように）多摩川の河原やひなた村でバーベキューをやりたい」などの意見が出ています。

(6) IS さんとの別れ

IS さんは、高等部を卒業して、まもなくおなべの会に参加し、ちょうど 30 年。話し合いや活動で積極的に意見を出して活動を引っ張ってききましたが、3 月に入って突然の訃報が寄せられました。

6 月に入ってご家族から、メッセージをいただきましたので、その一部を以下にご紹介します。

本人がおなべの会に入れていただいたのは 0k 君というお友達に誘われたのが数 10 年前のことです。

何があってもおなべの日には自転車やバスを使って出かけていきました。

私によく楽しかった日、人と言ひ合いをした日、また「Is 君はもう来なくていいよ」と言われた日は寂しそうな顔をして私に話をしてくれました。でも、またおなべの会には出かけていきました。やはり料理を作ることや、皆様とかかわりたいと思い、出かけたのでしょう。

病気のため 48 歳で亡くなりました。元気ならまだまだおなべの会に行きたかったと思います。

皆様もたくさん思い出を作り、健康に気を付け長生きしてください。楽しいおなべの会が長く続くことをお祈りしています。（母より）

2 とびたつ会

とびたつ会は、2004年にはじまった本人活動の会です。当時青年学級は180人を超える人数と担当者の不足で青年学級を希望する若い人が入れない状況でした。また、各地では本人活動の活動が活発になってきていました。そこで、本人活動の会を町田でもつくて、青年学級を卒業することで新しい若い人たちに青年学級を経験してもらおうと考えました。最初は8人でスタートしました。

(1) 参加者

2018年度の活動メンバーは25人でした。女性8人、男性17人。青年学級を経験した人16人、とびたつ会の直接入った人9人。車イスを利用する人が8人。ヘルパーさんと一緒に参加する人が5人でした。この他に見学の女性が1人参加しました。

(2) 活動日と活動場所

毎月第2、第4日曜日 午前10時～16時。会場は主にコメット会館5階ホールを有料で借りました。また、公民館など公共施設も活動内容によって利用しました。

(3) 運営の体制

活動にあたっては、毎週木曜日18時から21時に公民館の一室で運営会議を開いて準備をしています。

本人活動ですが、支援者も10人ほど参加して活動を支援しています。

(4) 2018年度の主な活動

① 文部科学省ヒアリング

文部科学省に2017年4月に障がい者生涯学習推進室が設置され、2018年3月から「学校卒業後における障がい者の学びの推進に関する有識者会議」が始まりました。その2回目に他2団体とともにとびたつ会も活動報告を20分間発表することになり、メンバー3人と支援者3名と公民館職員が参加しました。前半は青年学級について職員が発表し、後半にとびたつ会のメンバーが日ごろの活動や生活について語り、歌「私ぬきにきめないで」をうたいました。質疑の時間では、青年学級について多くの質問がありました。

② JAXA&相模原市立博物館見学

外出活動について話し合った結果、相模原市の淵野辺駅から徒歩で2施設を見学しました。

③ グラウス山の会交流ハイキング

例年恒例のハイキングに参加しました。歩くのが苦手な人は同日に行なわれた「とっておきの音楽祭」に参加しました。

④ 学習会「性と生 優生思想について」

優生保護法によって不妊手術を受けさせられた人たちが2018年1月から相次いで、損がい賠償請求訴訟を起こしました。この訴訟がなぜいま起きたのか、その背景は何かを学ぶために学習会を開きました。講師に元中学校の養護教諭の日暮かをるさんを招き、不妊手術を受けた人のインタビューの映像を見て、優生思想の問題を考えるとともに、以前取り組んだ学習を再確認するように性と生について学びました。以下、参加したメンバーの感想です。

IHさん＝生まれていくはずの命が生まれることができずに悲しい気持ちになる人がいる。結婚して赤ちゃんを産んで、幸せに暮らせる毎日を自分の意志ではなく、できない人がいた時代があったことがとても残念です。これから先そういった悲しい思いをするときが来ないように、今日聞いた話を忘れずにいようと思います。そして、改めて私が生まれて今日まで元気に生きてこれたことに感謝の気持ちを感じました。

SNさん＝午後から性の学習をしました。性のしくみをあらためて知りました。これからもっと学んでいきたいと思いました。とびたつ会の活動の輪を広げていきたい。

FSさん＝今日は性と生の勉強をやりました。卵子と精子があって私たちは生まれて今生活していることを大切にしたいなと思いました。私は以前に嫌なことがあって性の話はあまりききたくないことですが、今日の話はこれからの私の生きるみちの糧にしていきたいので聞きました。ありがとうございました。

⑤ 福祉型専攻科・学びの作業所の交流会

7月20日(金)つくば市のシャンティつくばで開催された交流会に招かれて、メンバー4人と支援者3人で出かけました。高等部を卒業して、すぐに就職するのではなく、福祉型専攻科という学びの場で、青年期の準備を2年から4年行うというものです。映像を交えた発表を見て参考になりました。とびたつ会も歌をうたって活動を紹介しました。

⑥ 調理実習

夏恒例の調理は、ベーグルとカレーをつかって食べました。もちろんベーグルは小麦粉から作りました。

⑦ 池田公生&お洒落倶楽部コンサート観覧

愛のほほえみコンサートでお世話人になった池田公生&お洒落倶楽部のコンサートがポプリホールであるというお誘いを受けて、観覧しました。次年度のコンサートへの出演を依頼されました。

⑧ 生活創造空間にし

毎年恒例となりつつある生活創造空間にしでのステージ発表です。4回目になります。今回は1時間半をかけて、とびたつ会19曲の全曲を歌って、アンケートに「いいと思った曲3曲」を書いても

らいました。

⑨ 「超福祉の学校」学びと表現の実践交流

毎年渋谷で開催されている「超福祉の学校」の一部で開催された文部科学省主催「学びと表現の実践交流 ②障がいのある人の学びと表現の実践交流フォーラム」に、書家の金澤翔子さんを含む2個人、3団体の1団体として参加し、アピールしました。

⑩ 見晴台学園・見晴台学園大学視察と交流

11月30日(金)と12月1日(土)に、先進実践視察旅行として、総勢36人で愛知県名古屋市の見晴台学園と同大学の見学と交流、三重県四日市市の聖母の家学園マリアボーイズ&ガールズのハッピーコンサートに参加しました。

見晴台学園は、発達障がいをもつといわれる中学卒業後の人たちが通う学校です。そして、見晴台学園大学は、見晴台学園を卒業した人たちが特別支援学校を卒業した人たちで、仕事に就く前にもう少し学びたいと思う人たちと、その思いを支える親、関係者でつくった福祉型専攻科の大学です。

交流では見晴台学園の東海道についての研究発表と、同大学で取り組んだコップを使ったパフォーマンスを習得する過程を撮影した映像を観るとともに、実際にとびたつ会のメンバーも参加してパフォーマンスを行いました。お互いに活動を発表しあい、充実した交流となりました。

⑪ 聖母の家学園交流・ハッピーコンサート参加

名古屋を出発して、四日市に移動して宿泊。翌日12月1日(土)は、バスを使って聖母の家学園に向かいました。会場の体育館では、すでにマリアボーイズ&ガールズのリハーサルが行われており、私たちは教室を借りて、昼食を食べました。その後コンサート直前の時間に、マリアボーイズ&ガールズのメンバーが来てくれて、お互いに歌を交換しあいました。

いよいよコンサートです。会場の体育館はお客さんでいっぱい、それでもとびたつ会用に最前列の席を用意してくれていたの、座って見ることができました。すべてオリジナルの歌と、エレキギター、ベース、ドラム、キーボードを駆使した演奏と歌は迫力満点でした。3つのグループのそれぞれの工夫をこらしたパフォーマンスには、一人一人の個性が発揮されていました。

⑫ マルチビタミンコンサート

12月23日には、公民館ホールをつかって、とびたつ会の全曲をうたうマルチビタミンコンサートを開催しました。準備の進んでいる若葉とそよ風のハーモニーコンサートに向けて、とびたつ会の準備の一つとして取り組みました。残念ながら宣伝不足のためお客さんは23人とさびしいものになりましたが、その後の江東ウィズでの発表につながるものとなりました。以下は観覧いただいた

た方の感想です。

・毎回ステキな歌をありがとう！とびたつ会へ入る前、ステージを観にいったとても仲間に入れてはもらえないと思っていましたが、今はとびたつ会の一員としてステージで歌っている息子をたのもしく思っています。

・とびたつ会でつくられた歌を全てきくことができて良かったです。歌の前にみなさんからのメッセージがあり、より歌を深く聞くことができました。一緒におどる曲もあり楽しかったです。

⑬ 映画「こんばんはⅡ」上映

2006年11月に上映会を行った映画「こんばんは」の第2弾が完成したこと、とびたつ会でも視聴しました。学ぶことの喜びが力強く表現された映画でした。

⑭ 江東ウィズ研修会発表

一般社団法人江東ウィズが主催する江東区協働事業「～障がいのある人もない人も共に認めあい、共生できる社会をめざして～ボランティア連続講座」の最終回に総勢31人で参加して歌をうたい、パネルディスカッションにメンバーが参加しました。江東ウィズには青年学級の元担当の人がイベントの担当をされていて、お世話になりました。

⑮ 第19回若葉とそよ風のハーモニー実行委員会

第19回若葉とそよ風のハーモニーコンサート(5月11日(土)市民ホール)の実行委員会に参加しました。これまでとはとびたつ会が、青年学級に呼び掛けて実行委員会を開催してきましたが、今回は文部科学省の受託事業として、公民館の主催事業となりました。みんなの思いを積み上げて、ステージから社会に向かって発信するというのが大きな目的でした。

(5) うたづくり

「自由」

性と生の学習会のあと8月になって、思いどおりに生きられない社会に対して、逆に「自由」とは何かをみんなで話し合いました。以下はその時の感想です。

私にとっての自由とは何か。

- ・いろいろなことができること。
- ・車いすでもいろいろなところに行くことができること。
- ・新しい挑戦ができること。
- ・できることまでたのまない。
- ・無理してやることはない。
- ・支援を頼んでたってもらえばいい。
- ・すべてやろうとするとケガにつながる。
- ・きちんと支援してもらいたい、きちんとやるということだと思う。
- ・どこをたのみ、どこを自分でやるか。
- ・いままで、自分でわからなかった。

- できないこと、できることをわけていいんだということがわかった。
- あれかれやっていると手がいっぱいになりイライラする。
- 自分の力でやったけど、できなくて、それを勝った負けたと一時期考えていたが、できないことは人に頼っておこなえば自由になる。人の手をかりることはおかしいことではない。
- 食べたいものが食べられる。行きたい場所に行ける。相手の気持ちを考えずに自由だけをとおしたら友だちがいなくなる。やりたいことはきちんと言葉にして伝えたほうが良いけど私はこれが食べたいけど、みんなはどう？私はここにいきたくないけどみんなはどう？とか自由さの中にもルールと相手のことを思いやるのは大切かも。そこを大切にしたい良い関係をつくれた仲間と過ごす時間はとっても楽しくて幸せ。好きな歌がうたえる。好きな人の歌声が聞ける。好きなものを好きだといえる

歌「自由」 2018年9月

- 1 行きたい場所にいける
食べたいものが食べられる
好きな歌がうたえる
好きなものは 好きだといえる
お金は自由につかえるし
みんながオレについてくる
宇宙はぐるぐる回ってる
オレのまわりをまわってる
自由 自由 自由 自由
- 2 ほんとはそれでは
生きていけないこの社会
ルールをつくって 思いやって
なんとか自由をたもってる
たがいに支え支えられ
助け合って生きている
夢を語れば だれかと
夢に向かって動き出す それが
自由 自由 自由 自由
- 3 いつもの生活 不自由
感じることはないけれど
大きな事件がおきれば
そこには差別があふれてる
「すぐれてる」ってなんなのさ
そんなに 大事なことなのか
私は私の人生に
自信をもって生きてゆく そこに
自由 自由 自由 自由
自由 自由 自由 自由
自由 自由 自由 イェーイ
自由 自由 自由 イェーイ
自由 自由 自由 イェーイ
自由 自由 自由 イェーイ

(6) 課題と今後の展望

2018年度後半、若葉とそよ風のハーモニーコンサートに向けて実行委員会など取り組みましたが、その中で青年学級が中心になり、3学級ととびたつ会の交流が実現しました。とびたつ会は「青年学級を卒業」した人たちの本人活動の会です。さまざまな活動をとおして、とびたつ会のことを青年学級の皆さんにも理解してもらい、青年学級では終わらない活動の展開を一緒に考えていきたいと思えます。

2019年度は、とびたつ会にとって15周年にあたる年です。これまでの活動を振り返るとともに、これまでの経験をもとに新たな活動を展開できるよう議論を進めなければなりません。そのためには閉じこもることなく、視野と行動範囲を広げていく必要があります。忌憚のないご意見を願います。

とびたつ会活動経過(2018年4月～2019年3月)

	月日	内容	参加人数	場所
1	4月8日	会計報告 2018年度の活動計画	17人	コメット会館
2	4月18日	文部科学省 ヒアリング学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議(第2回)	3人	文部科学省
3	4月22日	午前＝近況報告 午後＝外出活動:JAXA&相模原市立博物館	18人	コメット会館他
4	5月13日	午前＝近況報告 午後＝今後の予定について	17人	コメット会館
5	5月27日	グラウス山の会交流ハイキング(渋沢丘陵)	17人	渋沢丘陵
6	6月3日	生涯学習センター利用者交流会・公民館カフェ分科会参加	4人	まちだ中央公民館
7	6月10日	午前＝近況報告、ハイキング振り返り 午後＝今後の予定	18人	コメット会館
8	6月12日	午前＝国学院大学授業	5人	国学院大学
9	6月24日	午前＝朝一番にラジオ体操と歌2曲をすることに決める。	21人	コメット会館
10	7月8日	午前＝近況報告 午後＝日暮かをるさん学習会「性と生 優生思想について」	21人	コメット会館
11	7月20日	福祉型専攻科・学びの作業所の交流会	4人	シャンティつくば
12	7月22日	午前＝近況報告 午後＝公民館で安田菜津紀さん講演会参加	16人	コメット会館・公民館
13	8月5日	調理実習＝ベーグルとカレー 午後＝大野さん宛て暑中見舞い	18人	公民館
14	8月19日	午前＝近況報告 午後＝グループに分かれて発表の練習	14人	コメット会館
15	8月26日	「うたの森」コンサート	10人	パルテノン多摩
16	9月9日	午前＝近況報告 午後＝池田公生&お洒落倶楽部コンサート	18人	公民館・ポプリホール
17	9月16日	午後＝わかそよ実行委員会	5人	公民館
18	9月23日	午前＝近況報告 午後＝生活創造空間にし発表練習	22人	公民館・調理実習室
19	10月14日	午前＝近況報告 午後＝生活創造空間にし発表練習	18人	コメット会館
20	10月27日	生活創造空間にし(西横浜) 研修会で発表	23人	生活創造空間にし
21	11月10日	午前＝近況報告 午後＝「超福祉の学校」学びと表芸の実践交流フォーラム参加	11人	コメット・渋谷キャスト
22	11月25日	午前＝近況報告 午後＝マルチビタミンコンサート練習	24人	コメット会館
23	11月30日	見晴台学園・見晴台学園大学視察と交流	15人	見晴台学園(名古屋)
24	12月1日	聖母の家学園視察と交流・ハッピーコンサート参加	15人	聖母の家学園(四日市)
25	12月9日	午前＝近況報告 午後＝マルチビタミンコンサート練習	23人	コメット会館
26	12月23日	マルチビタミンコンサート(午前＝リハーサル、午後＝本番)	25人	公民館・ホール
27	1月13日	午前＝近況報告 午後＝わかそよ実行委員会と初詣に分かれて活動	18人	コメット会館
28	1月27日	午前＝近況報告 午後＝江東ウイズ研修会の準備	25人	コメット会館
29	2月10日	午前＝近況報告 午後＝映画「こんばんはⅡ」、江東ウイズ研修会の練習	19人	コメット会館
30	2月24日	9時30集合で、江東区文化センター 江東ウイズ研修会に参加	22人	コメット会館
31	3月10日	午前＝近況報告 午後＝わかそよ実行委員会 実行委員長を決める。	21人	コメット会館
32	3月24日	午前＝近況報告 午後＝わかそよ実行委員会 プログラム検討	21人	コメット会館
		合計	528人	

3. スケッチ・ルーム

(1) 会の成り立ちとメンバー構成

2012年4月より活動。当初から参加のShさんの提案で会をスケッチ・ルームと名付けました。

現在の参加者は、Shさんの他、土曜学級のHhさん父子、とびたつ会のHjさん母子、他7人の12人で活動しています。

(2) 活動の様子

土日祝日の午前か午後の半日、今年度はずっと文学館を利用しました。創作活動は計26回のべ178人の参加でした。

展示

期間 10月19日～21日

場所 生涯学習センターまつり

出品 9名展示のほか、招待作品1名

絵を描きたいと集まってきた年配の人たちと20代の青年とでゆったりとした空間ができてきました。HHさんは絵は飽きたと紙粘土でにわとりなどの造形物を作り、HJさんは動物など好きな絵を描いています。SHさんは誕生日プレゼントにすると、甥っ子の顔を描いていました。

3時になると喫茶店からお茶の出前をとってティータイムにするのも、みんなの楽しみです。

今年度は透明水彩画の講師に時々来てもらっています。アドバイスを受けた人が受けるゆるやかな関係にしたいと思います。

(3) 会の運営

年会費1,000円を徴収しているほか、会場費として1人/回、100円を徴収しています。

(4) 課題と展望

- ・今年も決まった日時に部屋を確保するのは難しい状態が続いています。
- ・講師を頼み、みんなで同じ絵を描くことで、まとまりができてきました。そのことで、きゅうくつにならないようにしたいと思います。

4. 風になる会

(1) 会の成り立ち

2018年終わり頃だったと思います。町田市の広報に障がい者手帳を持っている人を対象にした「うたの教室」という講座がありました。文部科

学省の委託事業を受託した生涯学習センターが実施する障がいのある人の生涯学習支援の一環だったようです。すぐに連絡をして参加を決めました。

月に一度の岩桐永幸先生（プロのシンガーソングライター）によるボイストレーニング、カラオケを使った歌の指導がはじまりました。

とても毎日が楽しみでした。最後には発表会もあり、みんなお洒落して教えていただいた事を活かして素晴らしい発表会となりました。

5月には町田市障がい者青年学級とともに、「若葉とそよ風のハーモニー」コンサートに特別枠で参加させていただき《なんと！》町田市民ホールで歌わせていただいたのでした。緊張しましたが、貴重な体験をしました。最初はカラオケの練習としか考えていなかったのも、スタッフや関係者の方々、岩桐永幸先生にはとても感謝しています。とてもたくさん練習しました。

仲間が出来ました。

そして「風になる会」というグループが出来ました。

(2) 活動の様子

町田市からは手が離れたものの、今でも月に一度、第3土曜日の午後、生涯学習センターに集まって練習しています。

興味のある方は、是非、お越しください。

(3) 会の運営

1回参加する毎に2,000円の会費をいただいています。

(4) 課題と展望

現在は、健常者の方も参加しています。障がいの有無に関係なく、理解し合って輪を広げていけたら良いなと思います。



第2章

第19回若葉とそよ風のハーモニー

1. 文科省受託事業としての取り組み

(1) 目的

2018年度、2019年度と、町田市障がい者青年学級では、文部科学省の「学校卒業後における障がい者の学びの支援に関する実践研究事業」の委託研究を引き受けることになりました。私たちが取り組もうとしたことは、障がい当事者の思いを集めて、社会にアピールする実践を、どこでも取り組めるように可視化し、プログラム化することでした。その成果を、「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」として発表することを目指しました。

この論考では、これまでの青年学級の歴史を振り返りつつ、社会教育として取り組んだ意義を確認します。

(2) 障害者権利条約をめぐる

ところで、障がい者の生涯学習の問題が、今、この時期に、文部科学省によって取り上げられるのは、障害者権利条約において、生涯にわたる学びの重要性が指摘されているからであり、その第24条教育の第5項には、「締約国は、障がい者が、差別なしに、かつ、他の者との平等を基礎として、一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯学習を享受するとすることができることを確保する。このため、締約国は、合理的配慮が障がい者に提供されることを確保する。」と述べられています。

長い間、障がい者の社会教育活動に取り組んできた私たちにとっては、障害者権利条約のおかげで、ようやく私たちの取り組みにも光があてられたとの思いがしています。

今回の事業は、2年度にわたって取り組まれている実践ですが、この実践には長い歴史と、その中で築き上げられた実践の理論とでも言うべきものがあります。

そこで、ここでは社会教育活動としての障がい者青年学級の歴史や実践が目ざしてきたものについて整理し、障がい者の生涯学習のあるべき一つのかたちを提示したいと思います。

(3) 障がい者青年学級が目ざしたもの

町田市障がい者青年学級の誕生は1974年のことです。当時、「事件や非行などにまきこまれないように」という親の願いが始まりでした。その願いは切実なものだったとはいえ、それは、言わば「保護」を求めるものであり、現在議論されている生涯学習とは異なります。それは、生涯学習というものが、学びたいという当事者自身の願いに基づくものであるからです。

町田ではこの親の願いを、社会教育の活動として受け止めることになりました。障がい者の社会教育という未知の領域でしたが、その活動を進める基本的な考えとして、二つのものをよりどころとしました。すなわち、当時、勤労青年のために開かれていた青年学級と、養護学校義務制の議論とともに高まりつつあった障がい者の発達を保障するという理念でした。

前者においては、参加者が主体的に学ぶというスタイルが確立されており、また、後者では、学ぶことによる当事者自身の人格的な発達の可能性と重要性が明らかにされていたのです。

そして、「生きる力、働く力の獲得」という目的をかかげ、実践は始まったのですが、最初の10年の実践を通じて、いくつかのことが明らかになりました。それは、実践に必要な3つの条件です。すなわち、①障がい当事者自身の自治的集団活動、②生活をテーマにすえること、③表現活動を主軸とする文化創造活動です。

最初の自治的集団活動の必要性は、一般の青年学級の実践から受け継いだものでもありますが、当事者自身が主体性を奪われてきたということがもっとも大きな理由です。これは、当時も現在も基本的に変わる場所はないと思われます。受け身的に生きることをしいられた当事者の主体性を回復し、主体的に学ぶ存在として自分自身や仲間を変革していくことをぬきに、生涯学習を語ることはできないと私たちは考えています。

二番目のテーマとして「生活」をすえるということについては、まず、「生活の場からいったん離れる」ということとの違いが議論されてきました。レクリエーションというものは、社会教育や生涯学

習の場でよく取られるものですが、それは、いったん日常生活を離れてリフレッシュして、再び生活に戻っていくというニュアンスを持っています。もちろん、障がい者青年学級には、そのような側面は常にありますし、大切な部分でもあります。ただ、私たちは、あえて生活から離れるのではなく、生活をテーマとすることが重要であると考えました。自治的活動で述べた主体性が真に確立されるためには、障がいによって生まれる様々な差別や困難、その中でなお、力強く生きている自分を確認することをぬきにしてはありえないと考えるからです。そして、そのような問題を共有するからこそ、自治的な集団活動も、よりいっそう深い仲間意識に裏打ちされたものになっていきます。

三番目の表現活動を通じた文化的創造活動については、当事者が自治的な活動の中で主体的に生活を語り合うということが、当然の帰結として必要としているものでした。町田の障がい者青年学級では、初期の頃より、年度末に成果発表会に取り組んでいて、その際に、作文を読んだり、劇を作ったりすることが試行錯誤的に行われました。そして、そうした表現活動に取り組むことが年間の活動に継続性をもたらすことが明らかになるとともに、生活をテーマにした語り合いが、毎回流れ去っていくのではなく、表現活動としてかたちにしていくことで、一人ひとりの考えがより深まったり、その考えを仲間と深く共有したりすることが可能になることが明らかになっていったのです。

また、こうした表現活動を可能にするものは、既成の文化であるよりも、手づくりの文化であることも明らかになりました。質の高い文化を享受することも重要ですが、往々にしてそれは当事者一人ひとりの生活に即したものではありません。障がいという状況の中で一人ひとりが生きている生活に即した思いを表現することを可能にする文化は、自分たちで創り出していくものだったのでした。

こうした活動の中で青年学級の目的もよりいっそうはつきりしてきました。すなわち、生きる力とは自分自身の誇りと尊厳を確立することであり、

働く力とは、その生きる力をもとに、仕事の意味を主体的に問い直し、その仕事に主体的に向かい合うことだ、ということです。

(4) 若葉とそよ風のハーモニーと青年学級

① 若葉とそよ風のハーモニーコンサートの始まり

こうした最初の10年の活動から、二つのオリジナルソングが誕生しました。一人ひとりがどんな時に輝いているかということ話し合いながら歌詞にした『僕らのかがやき』と、友だちともしっかり話をしたりいろんなところへ出かけたりしたいという思いを歌詞にした『ともだちの歌』です。そして、この歌をきっかけにして、自分たちのオリジナルソングを市民ホールのステージで歌いたいという意見が出され、若葉とそよ風のハーモニーコンサートが始まりました。1988年のことです。

このコンサートは、青年学級にさらにあらたな局面を開くことになりました。それは、公民館の中に閉じていた自分たちの表現活動を社会に向けて発信する場が得られたということです。青年学級のメンバーは、文化を享受する場さえきわめて限られている状況にありながら、自分たちが文化を創り出し、それを発信する側に立つという、まったくありえないようなことが、実現されたのでした。

そして、少しずつ青年学級の活動も、コンサートという発表の場を意識したものにもなっていく、次第にたくさんのオリジナルソングが作られるようになっていったのです。

青年学級では、「地域で主人公として生きる」という言葉も大切にしてきましたが、こうした独自の文化の発信者になるということは、その言葉をかたちにする第一歩でもありました。

② コンサートの発展と本人活動の始まり

若葉とそよ風のハーモニーコンサートと平行して、青年学級では後に日本の知的障がい者の本人活動へとつながっていく動きが始まっていました。

町田の障がい者青年学級は、当時の公民館職員大石洋子さんによって、社会教育の研究会や障がい児教育の研究会の場で、積極的に紹介され、自分たちの意見をきちんと述べる集団として、少し

ずつ関係者の中で知られるようになっていました。そして、1990年にパリで開かれる第10回ILSMH（国際知的障がい者育成会連盟）世界会議に本人を参加させようという声が親の会の全国組織で上がった時、5人の代表の中の一人を町田の青年学級から推薦してほしいとの声がかかったのです。そして、青年学級の中でリーダー的存在であった高坂茂さんが、パリの国際会議に参加し、多くを学んできたのです。帰国後、高坂さんは、「さくら会」という日本で初めての知的障がい者の本人活動の会をつくり、これが引き金となって、1990年代に本人活動が全国各地に広がっていくこととなりました。

また、この頃、NHKが開催したシンポジウムには、同じく青年学級のリーダーであった杉本好郎さんがシンポジストとして参加しました。当時、知的障がい者がテレビに登場することはほとんどないどころか、仮に登場してもモザイクがかけられるような時代でしたから、堂々とシンポジウムで意見表明をした杉本さんの存在は、時代を大きく先取りしたものでした。数年前、日本の戦後の障がい者の歴史を特集したNHKの番組で、様々な映像を短く編集して歴史を振り返るシーンに、ほんの一瞬ではありますが、この時の杉本さんの映像が使用されており、その意味の大きさを再認識させられました。

また、1990年代には、知的障がい者の海外研修として企業の支援を受けて、青年学級のメンバーの数人が、スウェーデンやアメリカへ行き、ピープルファーストの活動など、海外でさかんになってきた本人活動を実際に見学して、大きな刺激を受けるといったようなこともありました。

そして、高坂さんらが始めたさくら会の活動は、「全国手をつなぐ親の会」の中の本人部会の活動へと発展し、そうした活動が、「精神薄弱」という呼称から「知的障がい」という呼称に変わるという大きなできごとの原動力にもなっていたのです。

こうした時代背景の中で、若葉とそよ風のハーモニーコンサートも、開催は2年に1回となりましたが、次第に大きなものになっていきました。第4回に群読という試みを始め、それは、ミュー

ジカルへと発展していきました。ただし、まだこの頃は、自分たちの力強く生きている姿や、輝きをテーマにしたものが主流でした。社会がいていっている知的障がい者に対する弱者としてのイメージをうちこわすことが課題であったといえるでしょう。

③ 社会問題を訴えるコンサートへの発展

1990年代の全国的な本人活動の展開の中で、町田でも本人活動の会を作ろうという動きが2000年代に入って始まりました。全国の本人活動の実際の姿を見れば、青年学級も十分に本人活動としての性格を備えたものでしたが、あくまでも青年学級は町田市の主催事業です。完全な本人活動の会として、青年学級から独立するかたちで、2004年に本人活動「とびたつ会」が誕生しました。

とびたつ会のメンバーの多くは、青年学級でリーダーシップをとり、活発に発言するメンバーでしたから、とびたつ会は、本格的な当事者主体の会として活動を開始し、発展していきました。自治的活動や生活をテーマにすること、表現活動を通じた文化の創造活動などを重視することは、青年学級と同じでしたが、さらに、社会問題を学習するという新しい展開を見せるようになりました。

青年学級では、自分たちに関わる様々な問題を話し合うということが多いのですが、とびたつ会では、平和の学習など、市民として様々なテーマで学習を進め、改めてより広い視野から自分たちの問題を考え直してみるようになったのです。

とびたつ会の発足は若葉とそよ風のハーモニーコンサートの進め方にも新しい変化をもたらしました。それは、コンサートの実行委員会の呼びかけをとびたつ会が青年学級に対して行い、実行委員会をひっぱっていくというかたちです。実行委員長なども、とびたつ会のメンバーから選出されるのが慣例となっていきました。

かつての青年学級のメンバーが中心になっているとびたつ会ですから、大きな変化があったわけではないのですが、コンサートの企画の段階で、青年学級のメンバーが活躍する場面は、減っていったのは事実です。

とびたつ会が、社会問題に取り組んだことは、表現内容にも新しい変化をもたらすようになりま

した。被爆者の助産師の話聞くことで生まれた歌『生きていこう』、障害者権利条約の学習から生まれた『私ぬきに決めないで』、原発の事故を考える話し合いから生まれた『輪をひろげよう』、出生前診断の学習会から生まれた『キレイな空』、ハンセン病の学習と多磨全生園の訪問から生まれた『あっぱれな人生』など、それまでの青年学級の歌にはなかった新しい歌が生まれています。

ところで、上述した高坂茂さんが職場の事故で2000年に亡くなるということがありました。とびたつ会の誕生というできごとを、高坂さんは見ることはできなかったのですが、それは、高坂さんの存在をぬきに語ることはできないものでした。

2001年のコンサートでは高坂さんをしのぶミュージカルを行いました。それは、日本の本人活動の礎を築いた高坂さんの活動を振り返るものですが、その中で、「知的障がい」という呼称に変わったことに対して高坂さんたちが果たした役割、地域での自立生活などの障がい者の権利などについて訴えました。

そして、これ以降のコンサートでは、こうした社会的な問題を、徐々に取り上げるようになっていったのです。このことは、上述したとびたつ会での社会問題に対する取り組みと深く結びついていることは言うまでもありません。

具体的には、障害者自立支援法を問題にしたミュージカルを2回にわたり上演し、東日本大震災のことや出生前診断の問題を歌やミュージカルで訴え、さらに、津久井やまゆり園の事件ことを問題にした歌も最近の2回のコンサートでは取り上げています。

④ 新しいコミュニケーションの援助方法の導入

青年学級では、2008年から新しいコミュニケーションの方法を導入した取り組みを行うようになりました。それは、最初は、意思疎通が困難とされてきた障がいの重いメンバーとのコミュニケーションの試みで、パソコンと専用のワープロソフト、スイッチを用いる方法です。相手の手に触れることが必要な援助方法のため、まだ、社会的に広く承認されるにはいたってはいませんが、このことをきっかけに、それまで話し合いに言葉では参加できなかったメンバーもちゃんと気持ちが伝

えられるようになり、さらに、その表現内容もたいへん深いものだったのです。しかも、言葉で気持ちを表現するメンバーも、みずからこの方法を利用するようになり、口頭では言えなかった複雑な意見を言えるようになりました。

2013年以降、新たに手を添えて行う筆談という方法も導入され、この援助ができるスタッフも少しずつ増えていきました。

その結果、青年学級でも話し合いの内容や、作文や詩などの表現の内容がいつそう深いものとなっていきました。上述した出生前診断や東日本大震災、津久井やまゆり園の事件等の話し合いの深まりは、この新しいコミュニケーションの方法と深く関わりを持つものでもあります。

⑤ 2018年度の取り組み

文部科学省の委託事業をうけ、2018年度の活動は、青年学級として若葉とそよ風のハーモニーコンサートを企画することを一つの方向性として決めました。そして、公民館学級の中に「コンサートづくりコース」を設けて、そこでコンサートに関わる様々な話し合いを行い、その中に、ひかり学級や土曜学級のメンバーや、とびたつ会のメンバーも巻き込んでいくというスタイルをとったのです。しかも、今回は、青年学級のメンバー以外の参加者も積極的に募集しました。とびたつ会の主導で行われてきたここ10年ほどのコンサートづくりでしたが、今回は、早い段階から青年学級で議論を始めて、実行委員会の開催を呼びかけることによって、青年学級ととびたつ会とが一体になって、話し合いを進めていくことができました。

また、公民館学級の劇ミュージカルコースでは、コンサートで津久井やまゆり園の事件のことを何らかのかたちで訴えたいというメンバーが、劇づくりに取り組みました。コンサートづくりのコースが、全体的にコンサートを作っていくという役割を果たすのに対して、自分たちは、具体的な発表内容を作っていくという役割の分担をはっきりと意識して、活動が進められていきました。当初は、コース活動でつくられたミュージカルをコンサートの舞台でも上演できることをねらっていましたが、残念ながらステージで上演できるミュージカルとすることはむずかしく、その成果は、合

唱のステージの中で発表されることになりました。歌作りの方は、コンサートで歌われることを十分に意識して作られることも少なくないですが、コンサートでの上演を意識して、ミュージカル作りに取り組んだことは、ほとんどありませんでした。

2018年度は青年学級が始まってから45年目にあたります。また、2019年5月に開かれた第19回若葉とそよ風のハーモニーコンサートは開始から30年が経っています。

今回の委託研究で私たち目指したものは、こうした長い歴史の中で積み重ねられてきたものを、障がい者の生涯学習の一つのスタイルとして示すことでした。

当事者にとってどうであったかということについては、コンサートのステージ上での当事者の姿から、私たちは、一定の評価を下してもよいかと思えます。そこにいたのは、自分たちに関わる様々な問題を、ミュージカルや歌、スピーチなどを通して、主体的に訴える文化の発信者でした。

一方、私たちの側には様々な課題が存在しています。それは、スタッフの体制の問題です。青年学級やコンサートの内容は、確実に歴史を積み重ねるとともに、より深いものになっているのですが、スタッフの人数の不足はつねに大きな課題で、スタッフ間の議論も不十分な中、活動が進められています。ボランティアに目を向ける若者が減ったというわけではないと思われませんが、そうした若者たちの関心が、なかなか障がい者の社会教育には向いてこないというのが実情でしょう。

今回の委託事業は、こうした障がい者の生涯学習に目が向けられるよい機会でもあります。障がい者の生涯学習＝社会教育という世界が、大きな可能性を秘めているということを、ここで確認しておきたいと思えます。

ところで、障害者権利条約に示された合理的配慮は、国家や社会に対する義務として定められたものですが、合理的配慮は、一方的に国家や社会が行うものではなく、当事者自身が権利として求めるという当事者の主体性が先にあることを見落としてはなりません。

当事者が本当に要求している生涯学習とは何なののでしょうか。往々にして、それは、健常者が享

受できて、障がい者が享受できていないものというようにとらえられがちです。

しかし、障がい者青年学級や若葉とそよ風のハーモニーコンサートを通して、私たちはそのような図式ではとらえられないものを実感してきました。それは、当事者の本当に要求しているものを一言で表現するのはむずかしいですが、「人として自分らしく仲間とともに生きていきたい」ということだと言ってもいいのではないかと思います。そして、その要求に寄り添うことで、私たちは、それまで私たち自身が問うことのなかった様々な問いに出会い、私たちだけでは作ることのできない表現活動に出会いました。

少なくとも、青年学級やとびたつ会の活動においては、私たちは、当事者に何かを提供したという実感はありません。当事者とともに、私たち自身が知らないものをもとに創造してきたというのが実感です。

この活動に携わるスタッフの中には、長期にわたって関わり続けている者が少なくありません。スタッフ自身にとって、こうした活動に関わることから自らにとって大変豊かな体験となっているからに他ならないと言ってよいでしょう。

(柴田 保之)

2. 第19回について

2019年5月11日(土)に町田市民ホールにて、第19回若葉とそよ風のハーモニーコンサートを開催しました。今回のコンサートは、総勢210名以上が参加しました。

特徴的な取組としては、これまで行われてきたとおり実行委員会形式としての一面がありつつも、生涯学習センターが文科省の「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」委託事業を受託したことから、生涯学習センター事業としての一面もありました。

そのため、今までと比べ、大きく変わった点として、以下の2点が挙げられます。

①生涯学習センター事業として行った「うたの教室」講座の参加者から生まれた「風になる会」が、わかそよに新たに参加することになりました。

②実行委員会は、近年はとびたつ会の活動日に行われていましたが、青年学級の活動日にも実施することで、多くの声を集めることができました。

実行委員会

2018年10月21日の生涯学習センターまつりの午後、コメット会館で第1回実行委員会を開催しました。各学級やとびたつ会から25名が参加し、取り組みたい内容について意見を出し合いました。

今回の実行委員会では、冒頭に職員から文科省から協力を得てわかそよを実施したいという説明がありました。具体的には、以下の4点について説明がありました。

①実行委員会で話し合った内容や本番での様子を文書や動画にまとめ、生涯学習センターが周知すること。

②実行委員会を青年学級の活動日の中でも行うこと

③結団式や全体練習は、まちだ中央公民館のホールや各部屋で行うこと

④その他、わかそよに係ることに協力すること
これらを受け、実行委員会は、7回行いました。

第1回 2018年10月21日(コメット会館)

第2回 2018年11月24日(まちだ中央公民館)

第3回 2018年12月2日(ひかり療育園)

第4回 2019年1月13日(ひかり療育園)

第5回 2019年2月3日(まちだ中央公民館)

第6回 2019年3月10日(コメット会館)

第7回 2019年3月24日(コメット会館)

その中で、全体のテーマや実行委員長を決めました。

テーマ案は、実行委員会で、まず話し合っているということで、第5回まで、3学級ととびたつ会のそれぞれの活動日の中で、様々に話し合われました。ただ、第3回までは、参加する人が、ほぼ変わってしまうことから、話の積み上げがなかなか難しく、それぞれの思いを話すだけになってしまいました。ただ、そのような中でも、公民館学級の学級活動としてわかそよに係っているというと作られたコースからは、「いのちの大切さ」と「支えてくれている家族や仲間へ感謝の気持ちを伝えたい」、「言葉の価値はいのちの価値」などの思いや、土曜学級の青年からは「ひとりひとりの思いが形になったコンサートにしたい」という声が出ていました。また、とびたつ会が行ったマルチビタミンコンサートのテーマは「みんな違っていてもいっしょに生きる」だったことが話し合われました。

こうした話し合いが次第に積みあがっていき、第5回では、5つのテーマが提案され、ついに投票で決まりました。

<投票結果>

- | | |
|--|----|
| 1. みんな違ってみんな一緒に生きて行く | 5票 |
| 2. いのちあって私たちは輝く | 7票 |
| 3. (すべては) いのちの数だけ | 2票 |
| 4. 百人百色 | 2票 |
| 5. いのちのかずだけおもいはある
～だからみんなちがってもいっしょに生きる～ | 8票 |

また、第6回では、実行委員長について話し合われ、立候補を募ることになりました。立候補したのは、公民館学級の浅井麻里さん、ひかり学級の加藤功治さん、土曜学級の神戸洋介さんでした。

話し合いの結果、第1部の実行委員長は浅井麻里さんに決まり、第2部は選挙の結果、神戸洋介さんに決まり、加藤功治さんは副実行委員長を担うことになりました。

最後の第7回では、第2部の合唱の構成や発表順、Tシャツなどについて話し合われました。

全体練習

結団式は、3月31日にまちだ中央公民館ホールで行いました。その後の全体練習は次の通りでした。

- 4月14日(日) まちだ中央公民館ホール
- 4月21日(日) まちだ中央公民館ホール
- 4月28日(日) まちだ中央公民館ホール
- 5月5日(日) まちだ中央公民館ホール

演出・照明・伴奏など

演出は第18回に引き続き青木礼さんをお願いしました。ミュージカルの台本も担当いただきました。照明は、タケスタジオ。伴奏は、なかなか決まらず、ピアノ(奥居美穂さん)、ギター(大森勲さん)、ドラム(栗林祥也さん)、ベース(山田和裕さん)というベーシックな構成になりました。

ミュージカル練習

ミュージカル練習は、コメント会館で2月12日から始め、毎週火曜日の午後6～8時で行いました。

「ひとのかずだけ おもいはある」というテーマのもと、青木さんの提案で“わかそよ音頭”を試行錯誤しながら練習に取り組みました。

当初はパート毎の練習を行い、回を重ねるにつれミュージカル全体としての流れが見え始めてくると、配役も自然と決まっていきました。終盤では、通し稽古を中心に行いました。

3. 台本

(以下、第1部、第2部の台本を掲載します。)

第1部ミュージカル

「ひとのかずだけ おもいはある」

(一幕三場)

(下手幕前マイクの前に一人登場、歌い出しで緞帳が上がる、全員ハッピーと右手にうちわを持ち、両手を広げて待つ)

♪M1 「わかそよ音頭」

(歌い終わりで暗、全員下手へ、車いす後ろへ、ハッピーを脱ぎ、うちわを置く、明)

<第1場>

♪M2 「仕事に出かけよう」

(歌と踊りが終わったら平台に座る、車いすは上手斜めに、仕事の作業開始)

♪M3 「作業」

上司=遅いよー!

作業員=まーた、おこられちゃった。

♪M4 「拍手(1番)」(女性のみ)

(テーブルセットにスポット、上手後方よりウエイトレス登場)

ウエイトレス=おまたせしました。コーヒーです。

客=クリームソーダ、頼んだんだけど。

ウエイトレス=すみません。あつ、すぐに…

客=もういいよ!

(怒って出ていく、暗、セット片付け)

影の声=もう少しゆっくり言ってくれたら、まちがえなかったと思う。

(中央 車イス3台並ぶ、コーラス「作業」の歌、小さく歌う、車イスの3人にスポット、作業している様子)

作業員A=いたいなあ、なんだよ!

作業員B=(何度も頭を下げる)

作業員C=(驚いている様子)

(暗、3人上手のコーラスに入る)

影の声=右手が勝手に動いちゃうんだ。ごめんなさい。

(舞台前面明るくなる、上手よりカップル登場、少し歩いてから、男止まって、突然大声で)

カップル男=結婚してください。

カップル女=はい！

(背後の声)

女1=ちょっと待って！

男1=だめだめ

女2=よく考えなさい！

(このセリフをきっかけに、さっと立ち上がり、全体が前へ、コーラス歌いだす)

♪M5 「いろんな思い」

(暗、下手にマイクセット)

<第2場>

(マイク前に一人登場、スポット)

作文①

女3=去年の夏、「生と性・命の学習会」で優生保護法のもとで行われた不妊手術のはなしのビデオを見ました。自分の意志ではなく赤ちゃんが産めない時代があったことが悲しかったです。改めて今、自分が生まれて生きてこれたことに感謝したいです。

(明)

♪M6 「きれいな空 (1番)」

(暗、マイク前に一人登場、スポット)

作文②

女4=話したいのは出生前診断の事です。新しい出生前診断の事では、とてもつらい思いをしました。なぜなら「生まれてこないほうがよい」と言われた気がしたからです。私も出生前診断で殺されてしまう命になるのでしょうか。私たちも同じ血が流れていることを大きな声で叫びたいです。

(明)

M7 「いのちのことば (1番)」

(暗、全体少し下がる、暗い中で歌)

<第3場>

(下手にテーブルと椅子・客に明かり、客ゆっくり大きな声で)

客=い・ち・ご・パ・フェ お願いします。

ウエイトレス=いちごパフェですね。

客=はい、そうです。

(暗、中央手前で作業員A・B・Cにスポット、作業員C、Bの手を取って通訳する)

C=右手が動いてしまうので気を付けてください。

A=じゃあ左側に行くね。

(暗、舞台前とマイク前にスポット、カップル下手より登場、手をつないでセンターで止まり、マイク前に堀夫妻が登場)

堀=僕はゆかりさんと結婚して、11年になります。今は二人でいろんな人に支えてもらいながら、グループホームで暮らしています。幸せです。

(カップルに向かって)

堀夫妻=おめでとう！がんばれよー！

その他=おめでとう！がんばれよー！

(カップル、堀夫妻に手を振る、暗、全員後ろに並ぶ、8人前が出る、ネクタイ出す)

MC=「お名前は？」

(ダンサーズは踊る)

〇〇、〇〇、〇〇、〇〇

〇〇、〇〇、〇〇、〇〇

〇〇、〇〇、〇〇、〇〇

(「お名前は お名前は」でダンス終了)

♪M8 「ビューティフルネーム」

(一人を残して全員後ろへ)

おじいさん=すみません。駅はどちらですか？

Tさん=まっすぐ行って、左です。

おじいさん=えっ？、えっ？

(おじいさん耳が遠い様子、Tさん大声で手振りと共に)

Tさん=まっ・す・ぐ・いっ・て、ひ・だ・り・で・す

(おじいさん、まだ分からない様子)

Tさん=あっ、一緒に行きます。

おじいさん=ありがとう、ありがとう！

(二人が去る、上手から女の子、下手からおばさん登場)

女の子=こんにちは

おばさん=こんにちは、えーと、あれ、最近名前が出てこなくて…

女の子=幸子です

おばさん=あー、幸ちゃん、幸ちゃんだー、ごめんねー。

女の子=いいえ、じゃあ失礼します。

(二人別れる、女の子少し歩いて立ち止まる)

女の子=あれ？あのおばさん、だれだったっけ？

(全員、前へ)

♪M9 「いろんな思い」

<フィナーレ>

♪M10 「ピッカピカのころ」

<幕>

第2部 (90分)

MC＝第2部のはじめは、「風になる会」の皆さんです。昨年度の生涯学習センター事業「うたの教室」からできたサークルです。

【風になる会】

全員＝皆さん、こんにちは。私たちは風になる会で～す。よろしくお願いま～す！

♪M1 「手のひらを太陽に」

Us＝障がいがある、なしにかかわらず 人の数だけ思いがある。それを認め合っていきたい。これからうたう「風になって」のワンフレーズ、「ときには、涙をながすことだってある。けど自分にだけは負けないで」という歌詞に共感しました。昨日までは知らない人どうだったけど、歌が大好きでみんなと出会えました。歌は世界共通です。私たちの歌声をきょう、皆さんに送ります。聞いてください。

♪M2 「風になって」

Om＝風になる会でした。ありがとうございました。

【とびたつ会】

(前奏とともに、下手から車イスの人がステージ中央に移動、その他の人は、客席を通過して舞台にあがる)

♪M3 「みらいの虹」

Tm＝みなさん、こんにちは。私たちはとびたつ会です。青年学級を卒業して本人活動をしようと集まった仲間のグループです。学習会をしたり、歌をつくったりしています。そして、いろんなイベントに参加して歌をうたって、自分たちの思いをアピールしています。

Hs＝次の歌は「ガッツ・ビート」です。この歌はぼくの歌です。皆さん、この歌に協力してください。ぼくが、「ビートをきざんで」とうたったから「ハイ・ハイ・ハイ」と、コールを返してください。いいですか？

では、練習します。

「ビートをきざんで (ハイ・ハイ・ハイ)、ビートをきざんで (ハイ・ハイ・ハイ)、ビートをきざんで (ハイ・ハイ・ハイ) ビートをきざんでダダダーン」

ありがとうございます。それでは、歌います。ご協力よろしくお願ひします。

♪M4 「ガッツ・ビート」

Iy＝私たちは、昨年、多摩全生園とハンセン病資料館に見学にでかけました。その前に事前学習として、映画「あん」を見ました。樹木希林さんが主演の映画でした。そして映画に寄せて歌をつくりました。「あっぱれな人生」です。聞いてください。

♪M5 「あっぱれな人生」～映画「あん」によせて～

Mg＝2016年の津久井やまゆり園事件、その後の優生保護法による不妊手術裁判と、差別的なできごとが、社会の大きな問題になっています。私たちは新しい出生前診断が始まったというニュースを聞いて学習会を開き、いのちの大切さを学びました。その時につくった歌「つながるいのち」を聞いてください。

♪M6 「つながる いのち」

(とびたつ会が上手から退出後、土曜学級が前列に、ひかり学級は後列に控える。)

【土曜学級】

(体制整うまでピアノ「みんなと拍手」Aメロだけ繰り返し。体制整ったら開始。)

Kt＝これからうたう歌は、長年わかそよの演出をしていた黒田さんにメロディーをつけてもらった歌です。

Kh＝「みんなと拍手」です。聞いてください。

♪M7 「みんなと拍手」

On＝ぼくは青年学級に入ってギターをはじめました。夢は柴田さんと並んでギターをひくことです。

St＝この歌、僕好きです。

Kh＝「自分らしく」です。きいてください。

♪M8 「自分らしく」

Kt=次は2曲続けてうたいます。どちらも、ふりつけがありますね。1曲目は、マラカスをふる様子と全音符と四分音符を表しています。2曲目では、フライングディスクを投げるときの様子を取りいれています。

Ir=「オー！ハッピーバンドはみみみーん」と、「広がる空のように」、聞いてください。

♪M9「オー！ハッピーバンドはみみみーん」

♪M10「広がる空のように」

Mm=喫茶けやきでウエイトレスをしていた仲間から、「仕事は大変だけど、とても楽しい！」という話を聞きました。クリーニング屋さんで働いている仲間も「仕事を頑張っている」という話を聞きました。

Kh=ほかにも寮で暮らしている仲間の話も聞きました。それらを歌にして、ずう〜っと土曜学級で歌っています。

Nk=サビで拍手・拍手という部分。ぜひ、みなさんも一緒に手拍子をしてください。

Ut=「拍手」聞いてください。

♪M11「拍手」

(土曜学級が上手から退出後、ひかり学級は歌いながら鍋をしゃもじ等でたたきながら前が出る。)

【ひかり学級】

♪M12「みんなの未来コースのうた」

(小道具「ラーメン屋ののぼり」、「ラーメン帽子」等)

♪M13「ラーメン作りのうた」

Im=できましたー！

全員=いただきまーす！

Mt=ひかり学級で、ずっと一緒に活動してきた石原さんが、3月に急に病気で亡くなってしまいました。

Ht=石原さんは料理が好きでした。石原さんと一緒にラーメンをつくった時のうたです。

Nm=「母さんありがとう」は、石原さんの言葉です。

Im=石原先輩は、自分の気持ちよりも、私たちの気持ちを大事してくれる先輩でもありました。そして先輩は職場の「なないろ」では豆腐を手作りしていること、水が冷たいことを私に教え

てくれました。仕事の話をしている時の先輩は、すごくうれしそうに話してくれました。私の先輩が石原君でよかったです！！

Mt=次の曲は、石原さんの仕事や仲間への思いの歌です。

♪M14「ラベンダーのかなたへ」

(語りの間に車いすに挿してある花を青年に配る。花を持って揺らしながら歌う)

(小道具：花、背景照明：ラベンダー色)

♪M15「青空の向こうへ」

(※背景照明：空色 後半、虹を投影)

Kk=北海道で地震があった。北海道に引っ越した若林さんは元気になっているだろうか。

Kt=津波や、人が亡くなるような悲しいことは、やめてほしい。

Ty=みんなと同じ人間で生まれてよかったと、思える世界に変えたい。

Tk=職場でグズグズしていると言われる。私のペースを大切にしてほしい。

Wm=ぼくらはぼくらなりに人生を頑張って生きている。夢だってあるし、自分とは何かということを考えている。

Km=車いすの人もどきどき街に出ればいい。そうすれば町の人も変な顔しなくなる。悲しいこともあるけど、みんながいてくれるから頑張れる。

Em=休みの日も一人で過ごしていて、寂しいことがある。学級では優しい人たちがたくさんいます。ここでの時間はかけがえのないものです。ゆっくり心をいやしてくれます。

Tr=ひかりの仲間、ずっと大切な仲間「大切なこと」聴いてください。

♪M16「大切なこと」

(背景照明、サビ部分の振り付けあり)

【公民館学級】

(前奏(私は〜ミュージカルセット×4)とともに登場。照明は明るい雰囲気。)

司会=公民館学級は、1年間わかそよに向けたミュージカル活動に取り組んできました。

♪M17「わたしはこれからもミュージカルセット」

(曲が終わり次第、照明は全体的に暗め、悲しい

霧囲気の色。背景に木々の影絵。スポットライトを読み手に。)

Mm=くまが、やまゆりの花をふみあらしてしまった。ハチミツをとるのに役にたたない花は、いみがないと、くまが考えたからだ。

(以降読み手3名、読むときのみ立ち上がり、読み終わって座る。)

♪M18「ふみしだかれたやまゆり」

Ts=私たちのほんとうのすがたは、しられないまま、ふみにじられてしまったけれど、私たちにも、むごんのなかに、ゆたかなところがあることを、どうかつたえてほしい。

♪M19「わたしたちにはことばがある」

Ka=みんなにほんとうの花のころをつたえなくては、みらいの花は咲かないのだ。そうひとりがちからづよくさげんだ。

♪M20「ひかりがもっと とどきますように」

(照明は、徐々に明るい霧囲気の色へ)

作文(スポット。徐々に全体的にライトを当てる。)

Ay=19人のいのちが失われたやまゆり園の事件のことが、正しく理解されないと、亡くなった人たちもまた浮かばれないと思います。正しい理解とは、亡くなった人たちもまたしっかりと、自分の意思を持っていたということです。僕たちは青年学級の亡くなった仲間のこと丁寧話して合ってきました。仲間に対しての色々な思いがありますが、そんな仲間に対しての思いを僕たちはずっと大切にしていきたいと思えます。

♪M21「いつまでも友だち」

(スポット。バックミュージックに「わたしの気持ちをつたえたい」サビ。)

It=学級の仲間であった杉本好郎さんが亡くなったことは今でも信じられないのですが、私たちが今まで差別的な言い方をされていたことに対して私たちには障がいがあるのだと自分たちで声をあげたのが好郎さんや、その仲間でした。今、私たちには言葉や思いがあって、それがうまく伝わらないだけだということが徐々に発信できるようになってきました。ようやくこのような時代になったわけですから、私たちは、好郎さんが作ってきた歴史の上で、もっと沢山の

ことを人に伝えていきたいと思えます。

♪M22「わたしのきもちをつたえたい」

【フィナーレ】

MC=いよいよフィナーレです。全員が舞台に集まります。残るは3曲です。

Am=「いのちのかずだけおもいがある、みんながってもしょにいきる」というテーマで沢山の歌を届けてきました。フィナーレの1曲目は、いのちのことばです。第1部でも作文を読みました。出生前診断が取りざたされた中で、いのちの大切さについて歌ったうたです。聞いてください。

♪M23「いのちのことば」

Ih=今の職場で働き始めて11年になります。今まで私なりに、その時その時に出来る精一杯の努力をしてきたつもりです。しかし、時に「遅い」だとか、「何でこんな事が出来ないのか?」とか言われてしまう事もあります。障がいの有無ではなく、みんなが、働き続ける中で努力し、自信をつけながら成長しています。生きているということは、いろいろな思いを心の中に持っているということ。精一杯がんばっているつもりなのに、否定されれば傷つくし自信もなくなってしまう。命の数だけ思いがある。「日々みんなが努力しているのだ」ということを理解していただきたい。誰もがくらしやすく、働きやすく、輝きながら、生きていける世の中になっていく日が来ることを願っています。

Sk=ナッシング アバウト アス ウイズアウト
アス「私たちぬきに 私たちのことは決めないで」これは、障害者権利条約を広めるためのスローガンです。このことばに共感してつくった歌「わたしぬきにきめないで」を歌います。

♪M24「わたしぬきに決めないで」

Fs=朗読「うましめんかな」(栗原 貞子「詩集ヒロシマ」1969)

こわれたビルディングの地下室の夜だった。

原子爆弾の負傷者たちはローソク1本ない暗い地下室をうずめていっぱいだった

なまぐさい血のにおい 死臭 汗くさい人 ひといきれ うめきごえ

その中から不思議な声がきこえてきた
「あかん坊がうまれる」というのだ
この地獄の底のような地下室で 今、若い女が
産気づいているのだ
マッチ一本ないくらがり度 どうしたらいいの
だろう
人々は自分の痛みを忘れて気づかった
と「私が産婆です、私が生ませましょう」
と言ったのは さっきまでうめいていた重傷者
だ
かくて くらがりの地獄の底で 新しい生命は
生まれた
かくて あかつきを待たず産婆は 血まみれの
まま死んだ
うましめんかな うましめんかな おのがいの
ちすつとも
♪M25「生きてゆこう」

(アンコール)

MC=ありがとうございます。「ピッカピカのこ
ころ」をおくります。

♪M26「ピッカピカのこころ」

(曲のはじまりの前にダンサーズが通路に出て踊
る)

(間奏)

Hm=今日は、第19回の若葉とそよ風のハーモニー
をご覧いただき、ありがとうございました。い
のちのかずだけ思いがある。ぼくたちの思いが
とどきましたか？次回、第20回わかそよコンサ
ートをご期待ください。ありがとうございました。

MC=ありがとうございました。若葉とそよ風の
ハーモニーコンサートでした。

(客席を通過して、ロビーに移動し、両脇に分かれ
て、♪M「メロディータウン」で送り出し)



文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」委託事業

第19回 若葉とそよ風のハーモニーコンサート

いのちの**か**みだけ
おもいはある

みんなちがってもしょくに生きる

障がいのある仲間の日ごろの思いを
こめたオリジナルソングを届けます

日時 2019年5月11日(土)

会場 町田市民ホール(町田市森野2-2-36)

入場無料

午後1時30分開演(1時開場)

問合せ 町田市生涯学習センター (TEL:042-728-0071)



いのちのかずだけ おもいはある ～みんながってもいっしょに生きる～

第19回 若葉とそよ風のハーモニーコンサート

若葉とそよ風のハーモニーは、町田市教育委員会生涯学習センター・公民館の障がい者青年学級にっどう仲間たちが、市民ホールの舞台上に立って自分たちの思いを多くの人に伝えたいと、1988年に始めたコンサート活動です。これまで18回のコンサートを開催し、その取り組みが認められ、2016年に町田市から「文化芸術功労者」として表彰されました。また、文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」として、障がい者青年学級の活動の中で、若葉とそよ風のハーモニー実行委員会を行い、多くの話し合いを今まで以上に行うことができました。

今回は、コンサートの第1部では、「いのちがあるからこそ、私たちは輝ける」というメッセージを歌とダンスで表現します。第2部の「わかそよ合唱団ライブ」では、津久井やまゆり園事件のことも含め、青年学級の活動で話してきたことをオリジナルソングと言葉でステージから発信します。ご期待ください。

皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

第1部

『ひとのかずだけ おもいはある』

日頃の生活や仕事の中での差別や悩み。さらには優生思想に起因する社会の矛盾。ほんろうされながらも、前向きに考え、話し合い、力いっぱい活動する私たちの思いを言葉と歌とダンスで表現します。

第2部

わかそよ合唱団ライブ

わかそよ定番のナンバーから、初披露の新曲までみんなで力いっぱい歌い上げます。お届けするのは、すべて出演者が作ったオリジナルソングです。皆様も手拍子とともに楽しみください。

PROFILE

若葉とそよ風のハーモニー合唱団

町田市障がい者青年学級と本人活動の会“とびたつ会”のほかに、今年から新たに「うたの教室」講座から生まれた“風になる会”が加わりました。

それぞれが主体的に生きられるよう、一人ひとりの思いを大切にしながら活動しています。



定員：600名（先着順・全席自由・入場無料）
 瓦申込：4/2(火)正午～5/6(月)にイベントダイヤル
 (TEL:042-724-5656)へ

Web申込：4/1(月)正午～午後7時
 4/2(火)正午～5/6(月)
 に町田市ホームページよりイベ
 スへ
 イベントコード：190402F



イベシスQRコード

2019年5月11日(土)

午後1:30～3:30 (1時開場)

町田市民ホール



小田急線町田駅西口から徒歩10分 バス停「町田市役所市民
 ホール前」から徒歩1分 (駐車場なし)

申込：イベントダイヤル TEL 042-724-5656 お問い合わせ：町田市生涯学習センター TEL 042-728-0071

演出・振付：青木礼 照明：タケスタジオ 伴奏：わかそよバンド

主催：町田市教育委員会 協力：第19回若葉とそよ風のハーモニー実行委員会・株式会社ブリヂストン

第6部 学級を支える体制

第1章 担当者会・調整会・学習会

1 担当者会議の概要

町田市障がい者青年学級では、学級活動に参加し支援する人を「担当者」と呼んでいます。2018年度は公民館学級29名、ひかり学級24名、土曜学級20名、合わせて73名、そこに生涯学習センター職員4名が加わり、合計77名が「担当者」として学級活動に参加しました。担当者は（8月と年末年始を除く）毎週木曜日の夜に生涯学習センターに集まり、学級ごとに「担当者会」と呼ばれる会議を行っています。

担当者会では青年の活動を支援し、学級活動を充実したものにするために話し合いが行われています。学級日前の担当者会では、活動内容やそれに向けて準備すべき点などを確認し、学級日後の担当者会では、活動全体や青年一人ひとりの様子を振り返ります。学級日に外出する際には、担当者が事前に下見を行い、車いす用トイレやエレベーターの有無、昼食場所の確認なども行っています。

また、青年がどのようなことを求めているか、その要求の実現に向けてどのような取り組みをしていけば良いか、学級での経験を本人の生活に即したものにしていくにはどうしたら良いかということも話し合っています。活動におけるコースや班での話し合いをいかに支援していくかということも担当者会で度々話されている議題のひとつで、自分の言葉で表現することが難しい青年の思いを活動に生かしていくために、家族とコミュニケーションを取り合うことも担当者の重要な役割となっています。そういった学級活動以外の場面での取り組みについても、その内容を担当者会で共有し、「全体で取り組む体制」をつくっています。

（1）公民館学級

今年度の公民館学級は、担当者29名（うち当日担当者11名）という支援体制でした。

学級活動としては、文科省委託事業を受託したことをきっかけに、わかそよについて学級活動で取り組むため、1コース増やし、6コース体制になりました。コースが増えたことにより、担当者を6コースに振り分けることで、コース毎の支援体制は厳しくならざるを得ませんでした。

そのため、学級活動で担当者が少ない日などは、一時的に2コースが一体となって取り組むこともありました。ただし、支援体制が整っていないという理由だけではなく、前期のわかそよづくりコースとみんなのたいせつなことばコースでは、わかそよを作り上げるため、2コースの中で話し合う必要があり、合同での活動となった時もありま

した。

担当者会に参加できる人数は10～15名程度でしたが、毎回参加できる担当者となると、その人数は6名程度になってしまい、人数的にコースごとに学級日の振り返りや打ち合わせを行うことができなかつたため、普段の学級活動の様子については各コースの担当者が担当者会で報告し、合宿やクリスマス会などのイベントの計画、青年の様子など気付いたことは全体で話し合ってきました。

このように、担当者会に出席できない担当者が多いことから、昨年度に引き続きメッセージアプリで情報の共有を行いました。担当者会の記録、次回の学級日の送迎担当者、青年および担当者的出欠連絡、学級当日の緊急連絡など、多岐に渡り担当者間で相互に活用することができました。

今後は、メッセージアプリを利用していない担当者との情報共有をどのように図るのか、検討していく必要があります。

また、ニュース作成については、学級日の前の担当者会であらかじめ作成する担当者を決めることで、作成担当になった担当者が、ニュース掲載用に活動の写真を撮影したり、青年の発言を記録したりするなど、活動報告媒体として充実した内容になるよう意識を持って学級活動に臨むことができました。

今後は、できる範囲で作成の負担を平準化できるように、担当者会に出席できていない担当者や当日担当者を含め、担当者全員がニュースの作成担当として活躍できるよう、検討していきたいです。

来年度も支援体制としては依然厳しい状況が続きますが、人数が少ないからこそ、今一度担当者会で情報の共有体制をしっかりと確保していくこと、そして担当者一人ひとりの力を最大限に活用できるよう役割分担を行っていくことが必要です。

（2）ひかり学級

今年度の体制は、職員2名、担当者と他学級等の応援の20名程で活動が始まりましたが、応援担当者の割合が多く、昨年と同じ4コース制をしくことになりました。

担当者募集活動の地道な努力が実って、田園調布学園大学の学生をはじめ、他大学の学生の担当者も増えて、各コース複数人で担当者会議を開くことが出来るようになりました。年度終わりには、職員、応援等を除き24名の担当者体制でおこなうことが出来ました。学生から新鮮な意見や提案があり、活気あるものになっていきました。学生は、担当者会にも積極的に参加しています。

担当者会では、主に各コースの活動の振り返りと、次回の活動予定を全体で確認することを中心に話し合いをします。振り返りでは、各コースの一日の流れや当日の青年の様子や発言、気づいた

ことなどを全体で共有しました。全体で共有することで青年の様子を知ることができ、また、問題点の解決策を話し合ったりして、コース活動での参考として学んだり、より良い活動をつくっていくための担当者間の大切な情報共有の場となりました。次回の活動の予定では、当日の担当者体制や、部屋割り、用意する備品、送迎などを詳細に確認していきました。この確認によって当日はスムーズに活動に入ることが出来ました。そして、職員からの連絡事項やニュース作業について、全体で確認、共有していきました。

各コースの担当は、社会人と学生が担当するコースと、学生のみが担当するコースがありました。

担当者会に参加できない当日担当者も多く、担当者会だけでは十分な振り返りができないので、その日の活動の後、ひかり療育園の退室時間の制約もあるなかで、30分程度の振り返りを行いました。活動終了後の集まりは、経験豊富な当日担当者から、貴重な意見を聞くことができ、コミュニケーションも取りあえる大切な時間になっています。

担当者会は、19時からほぼ閉館までですが、実質話し合いは、20時ごろから始める状況でした。特に遠方から参加している担当者は、帰宅時間が夜遅くなります。安全の面からも、なるべく早く終わるように、担当者会の進行、内容面での工夫が必要ではないかと思われま

(3) 土曜学級

今年度の土曜学級は担当者 16 名（うち当日担当者 4 名）という厳しい状況が続いています。そのため 4 班体制を継続しました。他学級の担当者の応援もあり成果発表会まで活動することができましたが、担当者ひとりひとりの負担が増えています。

活動直前の担当者会では出欠確認や活動内容、持ち物の連絡のため青年への電話かけを行います。この電話かけは、活動中に言葉で自分の意思を表現するのが難しい青年の自宅での様子や、長期の休み期間（夏休みや年末年始）の様子などを確認することができ、また家族や青年と信頼関係を築くために重要なものだと考えています。

そのほか学級日前の担当者会では、次回の活動内容を班ごとに発表して送迎や部屋割り、応援者についてなど学級日当日の詳細を決めます。それ以外には生涯学習センターからの報告、青年の様子、連絡事項について全体で話し合いました。

学級日後の担当者会では、学級日当日の活動の振り返り、班長会やつどい委員会の様子をお話ししました。担当者会の中では、さまざまな話をしました。内容によっては一度の担当者会では決まらない時もありますが、その時は次週の担当者会に持ち越しをして継続して話し合いました。

昨年度とは担当者の入れ替わりがなく、経験の多いベテラン担当者が中心となり班活動を行いました。年間を通して新しい担当者が入ってこなかったため、担当者の募集が急務になっています。

担当者会では事務的な確認のほかにも青年との関わり方や学級活動の意義といった活動を行ううえで重要なことが話し合われ、担当者同士の経験を伝える重要な場所です。しかし夜間に行う担当者会への参加が難しい当日担当者、いかに情報共有を行うかが課題になっています。開級式や秋の日帰り旅行、成果発表会など、情報共有や話し合いが特に重要になる会議には当日担当者にも出席していただけるように呼びかけを行っています。今後、さらなる情報共有と担当者の方向性を合わせることを目的として、学級日当日に振り返りの時間を設ける、夜間に出席が難しい人のため学習会を日中に開催する、また担当者会での議論の内容をニュースに記載し、当日担当者にも知ってもらうといったことを検討し、より充実した学級活動が行えるように努めていきたいと思

2 学習会

(1) 開催実績

- ①意見交換・グループワークによる学習会
「生きる力・働く力」の変化、育み方について
日時：7月7日（土）14～16時
場所：生涯学習センター ホール
講師：土曜学級担当者 彦根 睦氏
特徴：意見交換の題材として話しがあり、その後に参加者を3グループに分かれ、グループワークを行いました。参加者からの声としては、他学級の担当者からの意見が聞けたことが良かったという声が多かったです。
- ②講演会「あふれる思いを届けよう」
日時：12月6日（木）19：45～21：45
場所：生涯学習センター ホール
講師：國學院大学教授 柴田 保之氏
特徴：半年後に行われる“わかそよ”について、新人担当者を中心に、わかそよの歴史について学ぶ機会が欲しいという声から生まれた学習会です。
- ③座談会「グループホームを利用して」
日時：2月18日（月）10～12時
場所：生涯学習センター ホール
講師：グループホームを利用している母4名
特徴：父母会主催の学習会では、これまで施設側からの話しがある中、実際にグループホームを利用している方のお話を伺うことで、これからグループホ

ームを考えている父母への参考になればということで実施されました。

(2) 課題と展望

今年度も学習会委員主催の学習会を開催することができませんでしたが、調整会という学級全体の課題について話し合われる場の中で、今のような学習会が必要かを話し合い、実施にまでつなげることができました。

このことは、近年、学習会委員が組織的に活動できていない中、社会教育の場として、担当者は青年に対する支援者であると同時に主体的な学習者でもあることを示す、ひとつの成果と言えます。

しかしながら、担当者間、そして職員と学習会の意義の再確認と、安定的な学習会を開催する仕組み作りが必要となっています。

3 調整会

調整会は職員3名と担当者会の代表の学級主事（各学級2～3名）とで構成され、青年学級を実施するにあたり、全体的な条件整備や調整を行い、担当者会に提示していく役割を持っています。学級全体のことや、これからのことを考える会議でもあります。今年の特徴としては、わかそよに向けた活動を行うにあたり、とびたつ会も参加し、4団体（以下、4学級）間での調整の場となりました。

今年度は、8月30日、12月20日、1月24日、2月14日の4回開催しました。

初回は、各学級の職員と主事の紹介、各学級の人数やコース、今年度の予定について報告を行い、合宿や日帰り旅行の応援依頼をしました。

2回目は各学級の近況報告と、わかそよ実行委員会から本番までの日程確認を行いました。

3回目は、わかそよに向けたテーマ案の報告や、より具体的な日程や期限などについて確認をしました。また、わかそよに向けた話である以上、調整会の枠に収めず、4学級での担当者会が必要ではないかと提案がありました。

なお、この中で、わかそよに向けた意見がありました。（原文ママ）

えてきていましたが、特別扱いを望むのではなく様々な障害を持った人がいて、その人達が精一杯努力しているのだと理解してもらえるような事を発表を通して伝えていければと考えています。そのためにも仕事や生活をする中で感じている思いを語り合えたらと思っています。」

4回目では、ついに4学級全体での担当者会となりました。ここでは、わかそよに向けた準備を種々行いました。具体的には、チラシ・ポスターの作成担当者、学級毎にわかそよで歌う候補曲の選定、CDの作成担当、次回実行委員会で話し合う内容、結団式に向けた準備、Tシャツのデザイン担当など、多くのことについて話し合い、決定されました。

調整会という場の中では、学級を取り巻く様々な検討事項について、対処していくとともに、わかそよという学級全体で取り組む事項に対応できたことは、一定の成果と言っていきたいと思います。

しかしながら、現在、学級生の高齢化や担当者不足や入級希望者の抽選による入級制限など、青年学級には様々な問題があります。現在休止中の障がい者青年学級将来検討委員会を再開するなど、父母会等と一緒に青年学級の中長期的な問題を早急に考えていく必要があります。そのパイプ役を調整会が担っていくことができれば、解決の糸口が見えてくると思われれます。

今後の青年学級をより良いものとするため、調整会の役割、運営の仕方、議論していく内容について職員とともに深く考え、検討していくことが求められます。

「年が明けて若そよの準備を本格的に始める時に入ったと思います。皆違って一緒に生きるこういう事を言うのは好きではありませんが私は他の人に比べれば出来る業務も少なくペースも遅い事で自分なりに努力してきたつもりですが周りの人は苛立ちを感じている所もあるでしょう。注意をされた時自分の良くない所を直していくのを前提とした上で、その時の言葉に体調に支障が出る程にストレスを感じている所もあり。去年から考

第2章 送迎検討委員会

1 これまでの経過

青年学級では学級開設以来、一人で学級に通ってくるのが難しい青年の通級をどう保障するかについて、大きな問題となっています。送迎の必要な青年の通級は、現在特定の青年への自主通級へ向けての援助を除いて、ほとんど家族の送迎に頼っているのが現状です。

担当者会では1981年度に、公的な送迎保障を求めて町田市長への要望書や市議会請願書（本会議で否決）を提出し、この問題をアピールしてきました。1992年度からは「青年の生活における送迎の意味や、今、青年学級でできることは何かを考え送迎保障をめざす」ことをねらいとして、『送迎検討委員会』を組織し、担当者会メンバーに父母会の役員も加わって検討を始めました。何回かの話し合いと青年及び家族への計2回の調査を経て、1995年度より一時送迎を実施することになりました。

この一時送迎をはじめると、ねらいを「送迎する家族の事情で学級を休むことにならないよう」、しかもそれは「送迎を必要とする青年や家族と担当者個人との関係で送迎を行なうのではなく、『青年学級全体の取り組み』として送迎を行なう」とし、確認しました。

2 現在取り組んでいる一時送迎の内容

- ① 一時送迎が必要な人は原則として、学級日前の担当者会のある木曜日までに公民館へ連絡し、担当者会で送迎を行なう担当者を調整する。（当日の送迎の要請にもできるだけ対応していく。）
- ② 送迎方法については、自家用車では事故があった場合の保障が十分でないため、できるだけ公共の交通機関を利用する。
- ③ 送迎に要した費用のうち電車代・バス代については、青年本人の交通費は全額本人負担、送迎を行なう担当者の要したバス代、電車代は送迎運営費から支出する。タクシーを利用した場合は、かかった費用の2割（端数は四捨五入し、100円単位で支払う）を青年が負担し、残りを送迎運営費から支出する。自家用車を利用した場合は、送迎運営費より送迎を行なった担当者に片道200円を支払う。
- ④ 担当者と父母で一人年間300円を負担し、これを送迎運営費とする。
- ⑤ 送迎中に事故があった場合の保障として、町田市の「全市民加入型 ボランティア活動災害補償保険」を活用する。

3 現在行なわれている送迎の状況

青年学級で行なわれている送迎には一時送迎も含め以下のようなものがあります。

(1) 自主通級を目指して行なう送迎

自主通級する力はあるのですが、道順をなかなか覚えることができなかつたり、ちょっとしたことで混乱してしまつたり、安全に通級することが難しいといった青年に対して、将来的に自主通級できるようになることを目指し、援助をしています。

家まで迎えに行く、通級途中で待ち合わせるなど青年の状況に応じて行なっています。

(2) 家族の都合で送迎ができなくなった場合の「一時送迎」

家族の体調不良などの利用により、いつも送迎をしている家族が送迎できない場合に一時的に担当者が送迎しています。その他に慶弔や、送迎を行なう車の故障、施設の一時利用のため等の理由があります。

一時送迎の制度が広まってきたことにより、送迎者の都合などで、学級に参加できないということが減っています。

しかし、親の高齢化や本人の施設やグループホームへの入居により、継続的な送迎保障がないと学級に参加できないという青年が年々増え、実態として「一時送迎」にとどまらない現実も出ています。

(3) 普段とは違う場所で活動が行なわれる場合の送迎

ひかり学級の成果発表会は、いつもの活動場所であるひかり療育園ではなく、町田市生涯学習センターで行なっています。

このように活動場所が変わる場合、「行ったことがない」「普段行き慣れないところで不安」などの理由で、直接その会場へ行けない青年が多くいます。そこで一旦通り慣れた場所（町田市生涯学習センター・ひかり療育園）に集まってから会場に向かうといった送迎体制をとっています。普段は送迎を必要としない青年にとっても、送迎は共通する問題であると言えます。

4 今年度の検討内容

今年度の送迎検討委員会は、2014年度に開催して以来、時間的な都合で担当者が集まることができず、開催することができませんでした。そのた

め、各学級の送迎の実態や送迎費用の確認ができない状況となってしまいました。また、定期的開催していた父母会との意見交換の場も持つことができませんでした。

5 今後の課題

(1) 担当者の費用負担軽減

送迎に対応した担当者は費用を立て替え、後日送迎検討委員会で精算をするのですが、担当者と送迎委員が会えない日が続くと時に数千円の立て替えの累積が発生し、担当者の経済的負担にもなります。担当者の負担を軽減する意味でも、迅速に費用精算できる仕組みの検討が必要です。また、学級によっては、送迎の記録がしっかり記載できていない状況もあり、送迎検討委員会の立て直しが急務となっています。

(2) 送迎についての情報共有

ここ数年は当日のみの担当者が送迎を行うことが多くなってきましたが、当日送迎する担当者が担当者会に出席していない等の理由で、送迎の話をする機会をあまりつくれていないのが現状です。

「なぜ一時送迎を行っているのか」といった送迎についての意義や、送迎検討委員会が組織されるまでの経緯等について担当者間で共有していくとともに、比較的経験年数の少ない担当者や担当者会に出席していない担当者についても、送迎運営費を集める理由や送迎検討委員会の存在意義を伝えていく必要があります。

(3) 一時送迎の周知

今後、青年の高齢化・家庭環境の変化により、グループホームや施設等に生活の場を移す青年が増え、送迎の必要性も高まってくるのが考えられます。

その一方で、一時送迎のことを知らない家族や、送迎を遠慮している家族もいるようなので、「送迎のしおり」を作成したり、父母交流会やニュース等を通じて送迎委員会の活動を伝えることが求められています。

(4) 制度の活用

最近ではガイドヘルパー制度を利用して学級に参加する青年も増えてきました。ガイドヘルパー制度も「障害者自立支援法（現「障害者総合支援法」）の施行以降、大きく変わってきており、今後ガイドヘルパー制度の利用について、その制度の内容や利用方法等を確認するとともに、一時送迎とガイドヘルパー制度の利用について、その利用の可能性を探っていくことも課題として挙げられています。

第3章 父母会

父母会長

18年度の行事も無事終わりました。今年度の学習会には、グループホームを利用している青年の親御さんに集まっていただき、青年たちのグループホームでの様子や親の気持ちなどを話していただきました。親離れ子離れは大切な事柄、スムーズに移行できたのかは大いに興味のあるところでした。せっかくの機会でしたのに、参加者が少なく、もったいないと思いました。興味はあるが、日程が都合悪いという方もいて、行事の難しさを実感しました。

合宿のお手伝いもたくさんの方に来ていただき、ありがたく思いました。ただ、夕飯の用意をしてくれなかった親には、悪いことをしました。年によって、親の分が用意されていたり、無かったりというのは、どうなのでしょう。一切なしと言うのであれば、親は準備してきます。それと、私自身高齢者となり、夜の運転は厳しくなっています。そういう点でも役員の方の若返りは必要ですね。

年度は変わりますが、今回の若葉とそよ風のハーモニーコンサートは、国の「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」という事業を受託したことで、全面的に町田市のバックアップがあり、開催されました。練習も生涯学習センターを使い、ホールだけでなく、学級ごとの練習部屋も確保できて、10時から4時まで、普段の学級活動のようにできたことはありがたいことでした。ただ、前もってその説明がなかったために、従来の感覚で、合唱だけに参加する青年は、午前だけで帰ると思込んでいました。土曜学級は参加者も少なく、練習も本番もひかり学級と一緒にやらせてもらい、なんとか様になったという感じでした。入場料を無料にしたことで、初めて来られたお客様が、感激したと感想を書いてくださったり、議員さんも多数最後までみてくださったことは嬉しいことでした。電話予約が少ないと心配しましたが、招待券を配ったりして300名くらいの入場があったとのことでした。ただ、受付は混乱がありました。受付番号と氏名が一致していなかったのです。さらに予約した方を優先したことにも、文句を言われました。いろいろと反省材料はありますが、歌い終えて満足した青年たちの顔を見られて、親は嬉しかったです。

第7部 青年学級によせて

◇新人担当者として関わって

公民館学級

加藤 沙耶香

私が青年学級を知ったのは広報で担当者募集の告知を偶然見つけたことです。いろいろな年代の方とお話してみたいと思ったのをきっかけに、開級式から参加しました。それまでボランティアの経験も少なく、ボランティアというと、支援する、お手伝いする、そんな単純なイメージしかありませんでした。障がいのある方と活動することも初めてで、何をして、何を話せばいいのだろうと、初めて参加する日はとても緊張したのを覚えています。

しかし、そんな心配や不安は全く必要ではありませんでした。初めて参加した開級式、初めて会う方、初めて聞く曲ばかりでした。不安で細々といた私に声を掛けてくださった青年の方、すぐに名前を覚えてくださり、「次回も来てくださいね」と言ってくくださったこと。学級ソングの歌詞、青年の方がとても楽しそうに歌われている姿。初めてだしそのうち溶け込めるかな、なんて浅はかな考えはすぐにひっくり返り、このすごいパワーの中に一緒に入りたいたいと感じました。

また、何か迷ったり分からなかったりした時は、先輩の担当者や職員の方が親身になって聞いてくださり、アドバイスをいただきました。その中で、「みんなで一緒に学ぶ場、実践する場」という大切さ、面白さを自分なりにですが徐々に理解できるようになりました。そして以前の青年学級であった出来事などを伺い、学級ソングに込められた思いや、仲間の大切さなどにも気づくことができました。

最近、家族や久々に会う友人に「すごく明るくなったけど何かあったの」とよく聞かれます。自覚はあまりありませんが、1年間青年学級の活動を通して、歌を歌い、話し合いをし、大きな作品を作り、合宿にも行き、色々な経験ができました。その全てに「全力で取り組む」楽しさを教えてもらった1年だったなと感じます。

特に、初めて参加した若葉とそよ風のハーモニー

コンサートは、話し合い、練習、本番の全てが忘れられない大切な思い出となりました。

まだまだ微力で、役に立てている訳でもありませんが、今後も青年学級の活動を通して、楽しく全力で取り組み、自分の成長にも繋がれたらと思います。これからもよろしくお願いします。

小島 道子

公民館学級に入れて頂いて一年以上が過ぎました。会の皆様がとても明るく楽しそうにお互いに助け合いながら、自分の意見をはっきり言って自信をもっている姿を見て、心洗われる気持ちです。勉強させて頂いており、力を頂いている事がたくさんあります。

世の中もいろいろな個性の人達が互いに許容しながら助け合って生活できる社会になってきているように思いますが、それぞれの個性を輝かせてみんな一緒に楽しく生きていける世の中に一日も早くなれますようみんなでやっていきたいと思えます。

ひかり学級

飯塚 葵

青年学級のごことは、大学のボランティア部に入ったことで知りました。元々ボランティアに興味はあったものの参加したことはなく、ひかり学級が初めてのボランティアでした。知識も経験も全くない、こんな私がいきなり行って大丈夫だろうか、最初は不安と緊張でいっぱいでした。しかし実際に活動が始まってみると、青年や先輩担当者、職員のみなさんはあたたかく私を迎え入れてくれ、また来たい、そう思える時間になりました。

私は青年学級に参加する前は障がい者に対し、少なからずマイナスイメージを持っていました。ですが、青年たちとの活動を重ねひとりひとりのことをよく知っていくうちに、いいところも悪いところも彼らの素敵な個性なのだと思うようになりました。よく知らずに勝手なイメージを持っていたことを申し訳なく思うと同時に、気が付くことのできた自分は幸せ者だなと思います。

この1年間でたくさんの時間を過ごさせていた

だきました。つどいで歌う学級ソングもいくつか振りまで覚え、青年と一緒に歌って踊る時がとても楽しいです。お昼などに青年からいろんな話を聞く時がとても好きです。こうした時間を過ごすごとに青年学級のあたたかさを感じ、かけがえのないものだと思います。

まだまだ未熟で至らない点も多いですが、これからの活動が私にとっても青年にとっても充実したものになるよう、大切に過ごしていきたいと思います。

金子 大智

私は障がい者青年学級には大学に入学してから参加させていただきました。

青年学級自体は高校が福祉系で町田市の障がい者施設に実習させていただいていたことで施設利用者に話を聞いていたので、「町田ってそんなことやってるのか！」と同時は思ったので福祉を学んですぐの時に知っていました。

高校の時に福祉を学び介護福祉士の資格を取ったことで大学で自分のできる幅が広がっていると感じている頃に大学に青年学級を担当している職員の方が来て話しを聞いて、「どこかで聞いた覚えがあるな、もしかしたら実習でお世話になった利用者の方々に会えるかもしれない！」という理由で参加させて頂きました。

実際に参加してみて、思ったこととしては施設で働いてる時には見せていない様子が実習に行っていたことで見れたこと、いつもみんな笑顔で楽しく青年学級の活動をしているなどの実習では経験できなかった新しい経験をすることができました。

今の自分の夢が「人々の笑顔を守る福祉と心理の専門職」と「高齢者、障がい者、子どもの施設を建てて良い三角関係を作ること」です。高校で福祉、大学で心理と福祉を学んでいてそこで得たスキルを応用して青年学級でも活用しています。最近になってからは私も学級生も慣れてきてお互いにたくさん話せるようになり、一緒に楽しく笑い合うことも増えていて、また、学級生と私がお互いにお互いを高め合うことができる関係になりつつあるとも感じています。自分も学級生も学級

を通して成長したいと思っているのでこれからも高め合いながら一緒に成長していきたいと思います。

永島 龍馬

昨年の6月に青年学級担当者に参加させて頂き、様々な人と向き合うことでたくさんのことを学び、そして感じました。また、わかそよにも参加させていただきました。その中で主に心に残っていることを三つ挙げてみます。

一つ目にバスハイクについて。バスハイクではひかり療育園ではなく外出先(今回は相模原公園)での活動なので、普段より元気に歌を歌う。レストランで普段と違うご飯にすごく嬉しそうにしている。植物に興味を示し色々話す。動物に(好き嫌い含め)様々な反応を示すなど普段と違った行動や一面を見ることができました。

二つ目にクリスマス会について。私の担当した班ではハンドベルを演奏していたのですが、ここでは青年個人個人の得意分野が強く現れてたと思います。ギターが得意な青年はギターを弾き、ピアノが得意な青年はピアノを弾く。また、過去にハンドベルを扱ったことのある青年は率先してハンドベルの演奏方法を別の青年たちに指導していました。青年たちが各々得意なことを率先して行っていたのは普段通りなのですが、やはりイベント事なので、よりはっきりと見えた気がします。

三つ目は歌作りについて。担当した班は音楽班で歌を作りましたが、作詞の方法として『青年たちが普段思っていることを歌詞に入れよう』ということで話を聞きました。そこでは言葉がうまく伝えられない青年や、思っていることをうまく言葉にできない青年たちの話も(原理はよくわかりませんが)スイッチという方法で聞くことができました。そこでは「他の人と対等じゃない気がする」「自分のペースがあるのに、他の人にグズグズしていると言われる」「みんなと同じように当たり前前に生きている」などの話が出ました。このような話は、普段の環境では面と向かって聞く機会はほとんどないのでとても心に残りました。また、それらの気持ちが入った曲を成果発表会及びわかそよで胸を張って歌えたことも、より心に残

った一因かもしれません。

これらの一年目に感じた事を大切に、担当者として、これからも青年たちに向き合っていければと思います。

資料

年 表

町田市障がい者青年学級の歩み

1973年
(S. 48)

- 親の要求 → 障がい者のための青年学級
 ～非行に走らないように～
 ＊育成会 ＊福祉事務所ケースワーカー
 ＊社会教育課長 ＊精薄指導員
 ＊社会教育主事

- 準備期間 (社会教育主事)
 ◇ゆたか作業所 (名古屋) 訪
 ◇宮津青年学級 (京 都) 問

町田市障がい者青年学級準備会

- * 青年心理研究者 (1名)
- * 人形劇研究者 (1名)
- * 社会教育主事 (2名)
- * 社会教育関係者 (1名)

- ◇参加者募集
- ◇説明会
- ◇要領作成
- ◇映画上映
- ◇スタッフ募集

ねらい
障がい者青年が豊かな生活を築くため、仲間たちと話し合ったり、学習したり、思いきり遊ぶなかで、生きる力や働く力を獲得することをめざす。

1974年
(S. 49.11)

20名

一
年
目

時 間 割		
＜各自の課題＞	＜人形劇作り＞	＜話し合い＞
各自が学校卒業後の生活の中で「学びたいこと」	集団芸術活動を通しての集団化	青年自身のものとして、生きる力、働く力、自立心
数 学 国 語 技術工作 美 術 音 楽 手 芸	ねらい ①仲間づくり ②創造する喜びを集団で ③生活の見つめ直しと表現力育成	

<担 当 者>

- * 市内の教師 (5名)
- * 福祉施設作業職員・児童学園職員 (3名)
- <行政職員>
- * ケースワーカー (2名)
- * 社会教育主事 (1名)
- 計 11名

父母会誕生

月2回の青年学級予算が決まる

1975年
(S. 50)

32名

二
年
目

時 間 割		
＜各自の課題＞	＜人形劇作り＞	＜話し合い＞
数 学 国 語 技術工作 美 術 音 楽 手 芸	ねらい 思いきり体を動かす。	ねらい 自分の思っている事をはっきり言う。
☆ 小集団編成	生活班	
☆ 全員が役割	「よくばりこぐま」上演	
☆ 運営委員会		

<担 当 者>

- * 学生・市民 (12名)
- <行政職員>
- * 社会教育主事 (1名)
- * 社会教育職員 (1名)
- * ケースワーカー (2名)
- 計 16名
- ・ 健全者青年学級演劇コースに初めて2名参加
(障がい者青年学級・健全者青年学級に両方参加)
- ・ 障がい者に対する差別観念のたたかい
- ・ K・Yさんの家出
- ・ テレビ出演問題 (76年2月)
↓
- ・ 文集づくり → 文集委員 ↓

障がい
の多様化代

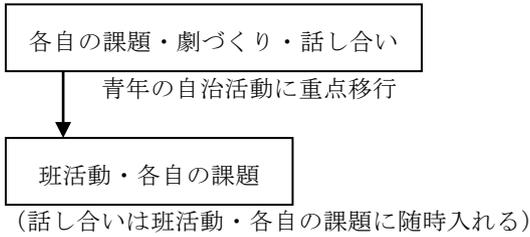
1976年 (S. 51) 37名	時間割			<ul style="list-style-type: none"> ・「通級可能な者」をとりはずす ・二学級制検討 <ul style="list-style-type: none"> ①数的増大 ②要求多様化 ③担当者の能力限界 父母との話し合い、青年の要求をふまえて
	<各自の課題> 数 学 美 術 国 語 技術工作 サイクリング 音 楽 手 芸 ↓ 手芸サークル化 (あみもの)	<人形劇作り> ねらい どうやって青年 を劇づくりの主 役にするか。 ☆要求別劇班 ①人間劇班 一言いたい事を読み合った ②オペレッタ班 一へっこき嫁さん→体を動かす ③かげえ班 一あわて床屋	<話し合い>	
1977年 (S. 52) 42名	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">二 学 級 生 実 施</div> ☆ ねらいはくずさず、二学級別々に運営する。 ☆ 午後 (文化活動・話し合い) →生活班 四つの基礎集団 (一学級二班)			<担 当 者> *学生・市民 (15名) *地域青年 (2名) *人形劇団員 (1名) <行 政 職 員> *社会教育主事 (1名) *社会教育職員 (1名) *ケースワーカー (3名) 計23名
	時間割			
四 年 目 改 築 の た め ↓ 町 田 第 一 中 学 校 へ 青 年 の 多 様 化 (年 齢 障 害)	<各自の課題> ① 手 芸 班 →サークル ② 手 芸 班 ① } 学 習 班 ② } ① } スポーツ班 ② } 音 楽 班	<人形劇作り> ねらい 集団としての自 治の高まり	<話し合い>	
	☆ 生活班としての劇づくり ①かしの木班「泣いた赤鬼」 — 友情 — 「人形劇」 ②ラーメン屋班「むぎひとつぶ」 — 青年の気持ちをひきだす — ③くりご班「ももたろう」 — 重たい人をどうまきこむか — ④ごろね班 — 感想をつづらせる — ○素材として劇は妥当かどうか ☆運営委員会 (やりたいもの学級運営にたずさわる) ☆実行委員会 (クリスマス会) 劇会ベース (担当者) では自治活動が積みあげられない。			<担 当 者> *学生・市民 (15名) *地域青年 (2名) *人形劇団員 (1名) <行 政 職 員> *社会教育主事 (1名) *社会教育職員 (1名) *ケースワーカー (3名) 計23名 ・担当者の移行 ①任務分担 { ・文化活動担当 ・条件整備担当 ・生活担当 } ②かかわり方の明確化 ③学級主事 代表者会 } 設置 ・学習会 (月1回) 行なう ・土曜学級生きがいコース } 開催 ・料理教室 ・地域へ ①盆踊り大会→土曜学級実施 ②ゲーム大会→ゴボーの会と ・送迎 — 教育としての送迎 職員の負担 ・父母会 — 通勤寮構想 ・公運審 — 父母等が参加

1978年
(S. 53)
49名

五年目

改築後
町田第一中学校
↓
公民館へ

3つに分かれた時間割りを2つに減らす



- ①集团的文化活動 劇づくり→行事を節に
- ②班→四つの基礎集団 (一学級二班)
- ③運営委員会 劇会→ 班長会・実行委員会へ

時間割

＜班活動＞午前	＜各自の課題＞午後
前半—キャンプ 後半—班ごとの活動 ①ペンペン草班 ・楽しみ仲間を意識し話し合いを成立させる ・お料理 ②デン助班 ・仲間を意識し、班活動を青年の手ですすめる ③トマト班 ・援助し合い、自治活動を高めよう ・ソフトボール ④ひゃっか店班 ・班員を知り、青年の手ですすめ、青年間で助け合う ・ソフトボール	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px dashed black; padding-left: 5px;"> 手芸班 工作班 美術班 スポーツ班 国語班 算数班 音楽班 </div> <div style="margin-left: 10px;"> A・B学級の枠を超えて編成 </div> </div> 養護学校生は、各自の課題のみ参加(疲れ、家族との関係の為) →午前・午後と集団の質の違い
☆ 班長の役割の不明確、青年の手で →担当者の援助方法・班のみの行動	

- ☆青年たちの要求
- ・自分たちの力でやりたい
 - ・ゆったりとした学級をやりたい
 - ・学習時間を長くしてほしい

積極的に受けとめ、ゆったりとした学級へ

- 担当者 → 学生増
(新旧交代)
代表者会 → 調整委員会へ
(担当者会で話しきれないもの)

＜担当者＞

- *在宅訪問事業 (2名)
 - *地域青年 (2名)
 - *人形劇団員 (1名)
 - *学生・市民 (14名)
- ＜行政職員＞
- *社会教育主事 (1名)
 - *社会教育職員 (1名)
 - *ケースワーカー (3名)
- 計24名

○ 地域へ

- ・キャンプ →ゴボーの会
- ・フェスティバル→日曜実行委員会
- ・クリスマス会 →実行委員会
- ・ソフトボール →健康者青年学級ゴボーの会
- ・スケート →希望者
- ・料理教室

○ 送迎問題 → 運動方針出す

○ 学級卒業 → 夜間中学へ1名

1979年
(S. 54)
54名

六年目

- ☆ A・B学級でまとまろう
- ☆ 青年の手による自主的な運営をめざす

時間割

＜班活動＞午前	＜各自の課題＞午後
○A学級 { フレンド班 バラ班 ○B学級 { ピンクレディ班 たんぼぼ班	・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班
<前期> ・キャンプを通して仲間意識、班意識、学級意識を高める ・キャンプの準備 (班内係・メニュー決め・調理実習)	

＜担当者＞

- *地域の専門家 (2名)
 - *訪問事業担当者 (2名)
 - *青年心理研究者 (1名)
 - *学生 (14名)
- ＜行政職員＞
- *ケースワーカー (2名)
 - *社会教育主事 (1名)
 - *社会教育職員 (1名)
- 計23名

○地域の専門家に広がる

	<p><後期> 学級単位の活動 A タコづくり B レク・料理等班長会主導 ↓ 各班単位へ ・ピンクレディ班 — 野外活動・ゲーム ・たんぽぽ班 — 劇づくり ☆ 自治活動をすすめる上での共通体験、生活の広がりが必要 ☆ 重度の青年の発達過程をどう保障するか ☆ 成人（30代以上）にとっての課題は何か</p>	<p>○地域への広がり→クリスマス会 日曜学級、地域のサークル、金曜教室、 「交流会の意義を考える」 ○送迎問題→運動の視点から考える</p>						
<p>1980年 (S. 55) 50名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">七 年 目</p>	<p>☆ ゆとりある活動の中で、生活経験を広げ、その上で自主的に活動する力を獲得する ☆ 重度の青年、成人たちへの課題を考え、独自のグループをつくる</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">時間割</th> </tr> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;"><班活動>午前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;"><各自の課題>午後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 150px;">→ 生活を共にし、ゆったりした中で生活を語り合う → 重度の青年と共に活動する</p> <p><後期> ☆ 重度の青年をどうするか、青年たちの投げかけ、その結論より、自主的な活動を展開していく ○ 重度の青年と共に活動していくか ↓ 「いっしょにやっぺいこう！」(全班一致) ※ 重度者グループの解体 活動内容 コスモス班 — 劇 ハ班 — はり絵 ニ班 — 劇とはり絵 ※ 成人班は独自の活動を行なう ・重度の青年に対する班、独自の課題での取り組みにおいて、課題が不明確だった ・班で中心となる青年の位置づけと、担当者の援助の問題 ・成人、重度者グループ編成の際、メンバー選定の問題</p>	時間割		<班活動>午前	<各自の課題>午後	<p><前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班</p>	<p><担当者> *地域の専門家 (3名) *学生 (16名) <行政職員> *ケースワーカー (2名) *社会教育主事 (1名) *社会教育職員 (1名) *ひかり療育園指導員 (1名) 計24名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">父母会 (学習会)</p> <p>福祉事務所ケースワーカー近藤氏を招いての講演「障がい者の足の保障」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クリスマス会</p> <p>公民館事業からクリスマス会実行委員会主催に移行</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文集づくり</p> <p>文集委員会が中心 文集の表題に「障害者青年学級」を入れることにより問題が起こった</p>
時間割								
<班活動>午前	<各自の課題>午後							
<p><前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班</p>							
<p>1981年 (S. 56) 54人</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">八 年 目</p>	<p>☆ 生活の見つめ直し (1年目) ☆ 表現活動 (劇活動) への取り組み</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">時間割</th> </tr> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;"><班活動>午前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;"><各自の課題>午後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>A学級 (班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班</p> </td> </tr> </tbody> </table>	時間割		<班活動>午前	<各自の課題>午後	<p>A学級 (班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (16名) *市民 (5名) <行政職員> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (2名) *ひかり療育園職員 (1名) 計27名</p>
時間割								
<班活動>午前	<各自の課題>午後							
<p>A学級 (班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体</p>	<p>・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班</p>							

<p>B学級（班替えなし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハ班 ・二班 <p><前期></p> <p>話し合い 仕事の悩み 家族の様子等</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観劇 ・プール <p><後期></p> <p>↓</p> <p>劇づくり 台本委員 (自主的な劇づくり)</p> <p>○ 生活上の抱えている問題を出し合う ○ 否定的側面が強調されすぎた ↓ 広く生活をとらえ直すことの必要性</p> <p>(注1) のびのび班一障がいの重い青年に必要な課題を特に設定したグループ。これは前年度班活動の中で取り組まれた重度者(からだほぐし)グループが発展的に解消されたもの。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術班 ・スポーツ班 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">重度者グループ</div> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のびのび班(注1) <p>班長会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・学級日 ・第4日曜日 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">地域へ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい広場クリスマス会へ参加 ・自主的な学習サークル「すぎの子」誕生 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">送迎問題</div> <p>送迎委員会の再建</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の公民館利用を考える ・公民館利用者懇談会参加 「送迎を考える会」誕生
---	--	---

<p>1982年 (S. 57) 52名</p>	<p>☆ 生活の見つめ直し(2年目)</p> <p>☆ 表現活動への取り組み</p> <p style="text-align: right;">※ 班替えなし(班名の変更)</p>	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家(1名) *学生(11名) *市民(4名) <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員(2名) *ケースワーカー(2名) *ひかり療育園職員(1名) 計21名 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">九 年 目</div>	<p>時 間 割</p>		
	<p><班活動>午前</p>	<p><各自の課題>午後</p>	
	<p>A学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すみれ班 「～できる」という心 劇づくり(すみれヶ丘) ・さくら班 生活を広い領域でとらえ カードを文章化していく ことで、生活の自覚化・ 共有化をはかる <p>B学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハ班 「夢」を通して生活を見 つめる 劇づくり(ハ班の夢) ・スイートピー班 生活場面を表現する 劇づくり(13名の同窓会) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・プール ・合宿 ・狛江との交流 </div> <p style="text-align: center;">・班長会、実行委員会の役割が不明確</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 <p>・班長会</p> <p>・実行委員会 (合宿、狛江との交流)</p>	<p><地域へ></p> <ul style="list-style-type: none"> ふれあい広場クリスマス会へ参加 ・「すぎの子」 ↓ 「さなえサークル」誕生 (水曜班、土曜班、日曜班) <p><送迎問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・署名運動の展開 ・議会への請願不採決

<p>1983年 (S. 58) 53名</p>	<p>☆ 生活の見つめ直し(3年目)</p> <p>☆ 青年の手による自主的な運営をめざす</p> <p>☆ 新しい班で仲間を知り合う</p>	<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家(1名) *学生(9名)
----------------------------------	---	--

十
年
目

☆ 表現活動への取り組み		*市民 (8名)
時間割		<行政職員>
<班活動>午前	<各自の課題>午後	*公民館職員(3名)
(班替え)		*ケースワーカー(2名)
<前期>	・音楽班	*ひかり療育園職員(1名)
話し合い	・手芸班	計24名
お互いに知り合う	・工作班	<サークル活動>
仕事のこと	・学習班	・さなえサークル
生活の悩み など	・美術班	・モンチッチ
↓	・スポーツ班	・おなべの会
・狛江との交流	・のびのび班	・土曜学級
↓		<送迎問題>
・プール	<班長会>	学級活動の一環としてとりくむ
<後期>	・各班活動の情報交換	担当者間で位置づけにバラつきがあった
↓	・学級全体のことについて話し合う	
・合宿	・行事の企画運営を行なう	
↓		
・もちつき大会	<実行委員会>	
<表現活動>	・狛江との交流会	
・ガチャガチャ班(15名)	・合宿	
— 人形劇づくり —	・もちつき大会	
人形をとおして、自分を語り		
自分の想いをアピールする		
・チューリップ班(13名)		
— 歌づくり —		
歌によって自分の意見や、思		
いを表現する		
・レモン班(13名)		
— 劇づくり —		
自分たちの職場を紹介しあい		
お互いの理解を深める		
・考える班(12名)		
— 劇づくり —		
職場の実態や生活、そして		
「仲間とは何か」を考える		

1984年
(S. 59)
63名

十
一
年
目

☆ 青年の自主的運営		<担当者>
☆ 2年目の班で活動内容を深める		*教育心理学の専門家(1名)
☆ 10周年行事、「とびたとう」発行を中心活動とする		*学生(10名)
時間割		*市民(6名)
<班活動>午前	<各自の課題>午後	<行政職員>
<前期>	・音楽班	*公民館職員(2名)
↓	・手芸班	*ケースワーカー(2名)
・2年目の班としての活動	・工作班	*ひかり療育園職員(1名)
・狛江との交流	・学習班	計22名
↓	・美術班	<サークル活動>
・合宿	・スポーツ班	・さなえサークル
↓	・のびのび班	・モンチッチ
・プール	・サイクリング班	・おなべの会
<後期>	<班長会>	
↓	・実行委員会と合同で行事の	
・10周年記念行事	進行をする	
パーティー		
・クリスマス会	<実行委員会>	<送迎問題>
↓	・狛江との交流会	・学級活動の一環とする
・もちつき大会	・合宿	・ハンディキャブの利用はじまる
↓	・10周年	
・とびたとう	・クリスマス会	
・ガチャガチャ班(17名)		
ガチャガチャ新聞		
・チューリップ班(14名)		
うた作り、絵		
・レモン班(14名)		
文集「レモンの友だち」		
・考える班		

	自己表現—思ったことを を大声でいう	・とびたとう
1985年 (S. 60) 57名 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">十二年目</div>	☆ 生活づくり (コース制 1年目) <コース別活動>全日 ・音楽コース ・文化芸術コース ・体づくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース ・班長会 ・狛江交流実行委員会 (行事) プール 狛江との交流会 合宿 (水元青年の家) 公民館まつり	<担当者> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (15名) *市民 (6名) <行政職員> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (2名) *ひかり療育園職員 (1名) 計27名 <サークル活動 ~地域へ> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会 ・ふれあいクリスマス会参加 ・公民館まつり
1986年 (S. 61) 64名 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">十三年目</div>	☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 2年目) <コース別活動> ・音楽Aコース ・音楽Bコース ・文化・芸術コース ・健康・体づくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース <班長会> 実行委員会と同時進行 <実行委員会> 狛江との交流会 クリスマス会 とびたとう <行事> スポーツ大会 狛江交流会 合宿 (山中湖) 公民館まつり クリスマス会	<担当者> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (15名) *市民 (6名) <行政職員> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (2名) *ひかり療育園職員 (1名) 計27名 <サークル活動> ・さなえサークル ・おなべの会 ・らくだバンド <地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加
1987年 (S. 62) 77名 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">十四年目</div>	☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 3年目) <コース別活動> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康・体づくりコース ・生活コース ・自然コース <班長会> 実行委員会と並行 <実行委員会> 狛江交流会 (クリスマス会)	<担当者> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (16名) *市民 (3名) <行政職員> *公民館職員 (2名) *ケースワーカー (1名) *ひかり療育園職員 (1名) 計24名 <地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加

	<p><行事> 合宿（山中湖）、公民館まつり 狛江交流会（クリスマス会） ※若葉とそよ風のハーモニーコンサート（町田）</p>	<p>※きらきら笑顔のメッセージコンサート参加（国立） ※若葉とそよ風のハーモニーコンサート参加（町田）</p>
<p>1988年 (S. 63) 83名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">十五年目</p>	<p>☆ 生活づくり・文化創造（コース制 4年目） <コース別活動> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・生活コース ・自然コース</p> <p><班長会> <新聞委員会> <狛江実行委員会></p> <p>（行事） 合宿（府中青年の家） 公民館まつり 狛江市青年学級との交流会 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（7名） *学生（9名） *市民（3名）</p> <p><行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園職員（1名） 計24名</p> <p><地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>
<p>1989年 (H. 1) 91名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">十六年目</p>	<p>☆ 生活づくり・文化創造（コース制 5年目） <コース別活動> ・音楽①コース ・音楽②コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・自然コース ※各コースで生活について考えていく</p> <p><班長会> クリスマス会実行委員会と並行 <新聞委員会> <とびたとう編集委員会></p> <p><行事> 合宿（府中青年の家） 公民館まつり ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（10名） *学生（9名） *市民（2名）</p> <p><行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園指導員（1名） 計26名</p> <p><地域へ> 公民館まつり参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p> <p><サークル活動> ・さなえサークル ・おなべの会</p>
<p>1990年 (H. 2) 99名</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">十七年目</p>	<p>☆ 生活づくり・文化創造（コース制 6年目） <コース別活動> ・音楽①コース ・音楽②コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・自然コース ・生活コース</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（9名） *学生（7名） *市民（5名）</p> <p><行政職員> *公民館職員（3名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園職員（1名）</p>

	<班長会> <クリスマス会実行委員会> <新聞委員会> <行事> 合宿（水元青年の家） 公民館まつり ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加	計 27名 <地域へ> 公民館まつり参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加 <サークル活動> ・さなえサークル ・おなべの会 <会場> 1～3月、公民館改修工事のため、町田第2 小学校で通常学級活動を、成果発表会を地域 センター（成瀬）でおこなう
--	--	--

1991年
(H. 3)
105名

十
八
年
目

☆ 生活づくり・文化創造 ☆ 二学級制（公民館学級・ひかり学級） *公民館学級（コース制7年目） <コース別活動> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・健康からだづくりコース ・自然コース ・生活コース	<行事> 合宿（大地沢青少年 センター） 公民館まつり	<班長会>
*ひかり学級 <班別活動> ・コスモス班 ・ハチ公班 ・コンドル班 ・JR班	<行事> 合宿（府中青年の家） 公民館まつり	<班長会> <行事委員会>
<合同実行委員会> ・クリスマス会実行委員会 ・とびたとう編集委員会	<サークル活動> ・さなえサークル ・おなべの会	<担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（9名） *学生（15名） *市民（6名） <行政職員> *公民館職員（3名） *ひかり療育園指導員（1名） 計35名

1992年
(H. 4)
118名

十
九
年
目

☆ 生活づくり・文化創造 ☆ 二学級制（公民館学級・ひかり学級） *公民館学級（コース制8年目） <コース別活動> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・健康からだづくりコース ・自然コース ・生活コース	<行事> 合宿（山中湖） 公民館まつり	<班長会>
*ひかり学級（コース制1年目） <コース別活動> ・音楽コース ・健康からだづくりコース ・自然コース ・生活コース	<行事> 合宿（山中湖） 公民館まつり	<班長会>

<合同実行委員会>
・クリスマス会実行委員会 ・とびたとう編集委員会

<サークル活動>
・さなえサークル ・おなべの会 ・音楽サークル

<地域へ>
※共作連全国大会「うたごえ東京」(ベイNKホール)に参加
※若葉とそよ風のハーモニー合唱団「芸術祭
おまつり広場」(都庁ホール)に参加

<担当者>
*教育心理学の専門家(1名)
*作業所指導員(9名)
*学生(18名)
*市民(6名)
<行政職員>
*公民館職員(3名)
*ひかり療育園指導員(1名)
計38名

1993年
(H. 5)
131名

二十
年
目

☆ 生活づくり・文化創造
☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)
*公民館学級(コース制9年目)

<コース別活動> <行事>
・音楽コース 合宿(長野県川上村)
・劇ミュージカルコース 公民館まつり
・健康からだづくりコース クリスマス会
・自然コース
・生活コース

<班長会>
<新聞委員会>

*ひかり学級(コース制2年目)

<コース別活動> <行事>
・音楽コース 合宿(長野県川上村)
・劇ミュージカルコース 公民館まつり
・健康からだづくりコース クリスマス会
・自然コース
・ものづくりコース

<班長会>
<新聞委員会>

<サークル活動>
・さなえサークル
・おなべの会

<担当者>
*教育心理学の専門家(1名)
*作業所指導員(9名)
*学生(14名)
*市民(23名)

<地域へ>
※第5回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<行政職員>
*公民館職員(3名)
*ひかり療育園指導員(1名)
計51名

1994年
(H. 6)
141名

二十一
年
目

☆ 生活づくり・文化創造
☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)
*公民館学級(コース制10年目)

<コース別活動> <行事>
・音楽コース 合宿(水元青年の家)
・劇ミュージカルコース 公民館まつり
・健康からだづくりコース クリスマス会
・自然コース
・生活コース

<班長会>
<新聞委員会>

*ひかり学級(コース制3年目)

<コース別活動> <行事>
・音楽コース 合宿(水元青年の家)
・劇ミュージカルコース 公民館まつり
・健康からだづくりコース クリスマス会
・自然コース
・生活ものづくりコース

<班長会>
<新聞委員会>
<喫茶のぞみ>

20周年記念行事（昼）健康福祉会館…20周年記念行事実行委員会
 20周年記念パーティ（夜）ホテル・ザ・エルシー…20周年記念パーティ実行委員会

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<地域へ>

※第6回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担当者>

- *教育心理学の専門家（1名）
- *作業所指導員（9名）
- *大学院生（1名）
- *学生（12名）
- *市民（24名）

<行政職員>

- *公民館職員（3名）
 - *公民館嘱託職員（1名）
- 計51名

1995年
(H. 7)
152名

二十二年目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 二学級制（公民館学級・ひかり学級）

*公民館学級（コース制11年目）

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級（コース制4年目）

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<地域へ>

※第7回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担当者>

- *教育心理学の専門家（1名）
- *施設職員（8名）
- *学生（18名）
- *市民（27名）

<行政職員>

- *公民館職員（4名）
- 計58名

1996年
(H. 8)
162名

二十三年目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 二学級制（公民館学級・ひかり学級）

*公民館学級（コース制12年目）

<コース別活動>

- ・音楽ハッピーコース
- ・音楽トマトバナナコース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・新聞づくりコース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

*ひかり学級（コース制5年目）

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・人形劇づくりコース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<サークル活動>

<担当者>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

- *教育心理学の専門家 (1名)
- *施設職員 (8名)
- *学生 (14名)
- *市民 (39名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)
- 計66名

1997年
(H. 9)
169名

二十四年
目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)
- *公民館学級 (コース制13年目)
 - <コース別活動>
 - ・うさぎミュージカルコース
 - ・チャンピオンバンドコース
 - ・抱きしめたいコース
 - ・健康からだづくりコース
 - ・自然コース
 - ・生活コース
 - <行事>
 - 合宿 (大地沢青少年センター)
 - 公民館まつり
 - クリスマス会
 - <班長会>
 - <つどい委員会>
- *ひかり学級 (コース制6年目)
 - <コース別活動>
 - ・劇ミュージカルコース
 - ・健康からだづくりコース
 - ・自然コース
 - ・生活コース
 - ・人形劇づくりコース
 - <行事>
 - 合宿 (大地沢青少年センター)
 - 公民館まつり
 - クリスマス会
 - <班長会>
 - <新聞委員会>
 - <喫茶のぞみ>
- *土曜学級 (班制1年目)
 - <班別活動>
 - ・あじさい班
 - ・コスモス班
 - ・スピッツ班
 - <行事>
 - 合宿 (青梅青年の家)
 - 公民館まつり
 - 新年会
 - <班長会>
 - <新年会実行委員会>
- <サークル活動>
 - ・さなえサークル
 - ・おなべの会
- <地域へ>
 - ※第8回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

- <担当者>
- *教育心理学の専門家 (1名)
- *社会教育職員 (1名)
- *施設職員 (8名)
- *学生 (20名)
- *市民 (38名)
- <行政職員>
- *公民館職員 (4名)
- 計72名

1998年
(H. 10)
182名

二十五年
目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)
- *公民館学級 (コース制14年目)
 - <コース別活動>
 - ・ものづくりコース
 - ・Jバンドコース
 - ・ブロード・スマイルコース
 - ・健康からだづくりコース
 - ・自然コース
 - ・生活コース
 - <行事>
 - 合宿 (大地沢青少年センター)
 - 公民館まつり
 - クリスマス会
 - <班長会>
 - <つどい委員会>
- *ひかり学級 (コース制7年目)

	<p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇ミュージカルコース ・健からオールスターズコース ・さんぼでけんからコース ・生活コース ・自然コース 	<p><行事></p> <p>合宿（大地沢青少年センター）</p> <p>公民館まつり</p> <p>クリスマス会</p>	<p><班長会></p> <p><新聞委員会></p> <p><喫茶のぞみ></p>
	<p>*土曜学級（班制2年目）</p> <p><班別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり班 ・トマト班 ・トトロ班 	<p><行事></p> <p>合宿（青梅青年の家）</p> <p>公民館まつり</p> <p>新年会</p>	<p><班長会></p> <p><新年会実行委員会></p>
	<p><サークル活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さなえサークル ・おなべの会 		<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家（1名） *施設職員（14名） *学生（21名） *市民（38名） <p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員（4名） <p>計78名</p>
1999年 (H. 11)	<p>☆ 生活づくり・文化創造</p> <p>☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）</p>		
192名	<p>*公民館学級（コース制15年目）</p> <p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パフィーコース ・ミッキーコース ・ラビッツコース（バンド） ・ひまわりコース ・自然オレンジズコース ・生活コース 	<p><行事></p> <p>合宿（大地沢青少年センター）</p> <p>公民館まつり</p> <p>クリスマス会</p>	<p><班長会></p> <p><つどい委員会></p>
二十六年 目	<p>*ひかり学級（コース制8年目）</p> <p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇ミュージカルコース ・健康からだづくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース 	<p><行事></p> <p>合宿（大地沢青少年センター）</p> <p>公民館まつり</p> <p>クリスマス会</p>	<p><班長会></p> <p><新聞委員会></p> <p><喫茶のぞみ></p> <p><とびたとう編集委員会></p> <p><行事委員会></p>
	<p>*土曜学級（班制3年目）</p> <p><班別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイートピー班 ・スマップ班 ・ミッキーコースター班 	<p><行事></p> <p>合宿（青梅青年の家）</p> <p>公民館まつり</p> <p>新年会</p>	<p><班長会></p>
	<p><サークル活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さなえサークル ・おなべの会 		<p><担当者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家（1名） *施設職員（14名） *学生（21名） *市民（30名）
	<p><地域へ></p> <p>※第9回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>		<p><行政職員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員（4名） <p>計70名</p>
2000年 (H. 12)	<p>☆ 生活づくり・文化創造</p> <p>☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）</p>		

188名

二十七年
目

*公民館学級（コース制16年目）

<コース別活動>

- ・ストロベリーコース
- ・健康からだづくりコース
- ・キッカーズコース（バンド）
- ・ものづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級（コース制9年目）

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<とびたとう編集委員会>

<行事委員会>

*土曜学級（班制4年目）

<班別活動>

- ・ひまわり班
- ・のぞみ班
- ・すずらん班
- ・さくらんぼ班

<行事>

- 合宿（狭山青年の家）
- 公民館まつり
- 年忘れ大運動会&クリスマス会

<班長会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

*教育心理学の専門家（1名）

*施設職員（14名）

*学生（21名）

*市民（28名）

<行政職員>

*公民館職員（4名）

計68名

2001年

(H. 13)

185名

二十八年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

*公民館学級（コース制17年目）

<コース別活動>

- ・はいくキングコース
- ・健康からだづくりコース
- ・うたダンスミュージカルコース
- ・ものづくりコース
- ・町田たんけんコース
- ・生活コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級（コース制10年目）

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

- 合宿（大地沢青少年センター）
- 公民館まつり
- クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<行事委員会>

*土曜学級（班制5年目）

<班別活動>

- ・うたとゆめ班
- ・つばさ班
- ・あさぎり班
- ・うさぎ班

<行事>

- 合宿（狭山青年の家）
- 公民館まつり
- 新年会

<班長会>

<つどい委員会>

<サークル活動>	<担 当 者>
・さなえサークル	*学生・市民 (60名)
・おなべの会	<行政職員>
<地域へ>	*公民館職員 (4名)
※第10回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加	計64名

2002年
(H. 14)
183名

二十九
年
目

☆ 生活づくり・文化創造		
☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)		
*公民館学級 (コース制18年目)		
<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・健康からだづくりコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<つどい委員会>
・あさがおコース	公民館まつり	
・ももコース	クリスマス会	
・ものづくりコース		
・自然コース		
・生活コース		
*ひかり学級 (コース制11年目)		
<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・劇ミュージカルコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<新聞委員会>
・健康からだづくりコース	公民館まつり	<喫茶のぞみ>
・ものづくりコース	クリスマス会	<行事委員会>
・生活コース		
・自然コース		
*土曜学級 (班制6年目)		
<班別活動>	<行事>	<班長会>
・あるき班	合宿 (狭山青年の家)	<つどい委員会>
・らくだものづくり班	公民館まつり	
・ブギウギ班	新年会	
・ブルースカイ班		
<サークル活動>	<担 当 者>	
・さなえサークル	*学生・市民 (61名)	
・おなべの会	<行政職員>	
	*公民館職員 (4名)	
	計65名	

2003年
(H. 15)
181名

三十
年
目

☆ 生活づくり・文化創造		
☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)		
*公民館学級 (コース制19年目)		
<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・健康からだづくりコース	合宿 (大地沢青少年センター)	<つどい委員会>
・トマバナミュージカルコース	公民館まつり	
・ニコニコバンドコース	クリスマス会	
・ものづくりコース		
・自然コース		
・生活コース		
*ひかり学級 (コース制12年目)		
<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・劇・ミュージカルコース	日帰りハイキング (府中郷土の森)	<新聞委員会>
・健康からだづくりコース	公民館まつり	<つどい>
・企画づくりコース	クリスマス会	
・生活コース		
・自然コース		

	<p>*土曜学級（班制7年目）</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="347 185 702 347"> <p><班別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストロベリージャンプ班 ・にじ班 ・生活をつくる班 ・ひまわり班 </td> <td data-bbox="702 185 1037 347"> <p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> 合宿（水元青年の家） 公民館まつり 冬のイベント </td> <td data-bbox="1037 185 1276 347"> <p><班長会></p> <p><つどい委員会></p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 387 702 548"> <p><サークル活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おなべの会 ・(仮称) 共同学習識字の会 <p><地域へ></p> <p>※第11回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p> </td> <td data-bbox="702 387 1037 548"></td> <td data-bbox="1037 387 1276 548"> <p><担当者></p> <p>*学生・市民 (61名)</p> <p><行政職員></p> <p>*公民館職員 (4名)</p> <p>計65名</p> </td> </tr> </table>	<p><班別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストロベリージャンプ班 ・にじ班 ・生活をつくる班 ・ひまわり班 	<p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> 合宿（水元青年の家） 公民館まつり 冬のイベント 	<p><班長会></p> <p><つどい委員会></p>	<p><サークル活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おなべの会 ・(仮称) 共同学習識字の会 <p><地域へ></p> <p>※第11回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>		<p><担当者></p> <p>*学生・市民 (61名)</p> <p><行政職員></p> <p>*公民館職員 (4名)</p> <p>計65名</p>						
<p><班別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストロベリージャンプ班 ・にじ班 ・生活をつくる班 ・ひまわり班 	<p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> 合宿（水元青年の家） 公民館まつり 冬のイベント 	<p><班長会></p> <p><つどい委員会></p>											
<p><サークル活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おなべの会 ・(仮称) 共同学習識字の会 <p><地域へ></p> <p>※第11回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>		<p><担当者></p> <p>*学生・市民 (61名)</p> <p><行政職員></p> <p>*公民館職員 (4名)</p> <p>計65名</p>											
<p>2004年 (H. 16) 193名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">三 十 一 年 目</div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造</p> <p>☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）</p> <p>*公民館学級（コース制20年目）</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="347 689 702 918"> <p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康からだづくりコース ・スマイルコース ・ジャニーズコース ・ピンクガーデンコース ・ものづくりコース ・コスモス人生コース </td> <td data-bbox="702 689 1037 918"> <p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館まつり クリスマス会 </td> <td data-bbox="1037 689 1276 918"> <p><班長会></p> <p><つどい委員会></p> </td> </tr> </table> <p>*ひかり学級（コース制13年目）</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="347 987 702 1187"> <p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ&ハイキングコース ・ハイキングするコース ・企画づくりコース ・音舞団 ・さつまいも南アルプスハイジコース </td> <td data-bbox="702 987 1037 1187"> <p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> 合宿（大地沢青少年センター） 公民館まつり クリスマス会 </td> <td data-bbox="1037 987 1276 1187"> <p><班長会></p> <p><新聞委員会></p> <p><つどい委員会></p> </td> </tr> </table> <p>*土曜学級（班制8年目）</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="347 1256 702 1422"> <p><班別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・そら班 ・ズームイン班 ・ハートおんぷ班 ・Shooting Star班 </td> <td data-bbox="702 1256 1037 1422"> <p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> 合宿（水元青年の家） 公民館まつり 新年会 </td> <td data-bbox="1037 1256 1276 1422"> <p><班長会></p> <p><つどい委員会></p> </td> </tr> </table> <p><サークル活動></p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="347 1491 702 1590"> <ul style="list-style-type: none"> ・おなべの会 ・(仮称) 共同学習識字の会 ・とびたつ会 </td> <td data-bbox="702 1491 1037 1590"></td> <td data-bbox="1037 1491 1276 1590"> <p><担当者></p> <p>*学生・市民 (60名)</p> <p><行政職員></p> <p>*公民館職員 (4名)</p> <p>計64名</p> </td> </tr> </table>	<p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康からだづくりコース ・スマイルコース ・ジャニーズコース ・ピンクガーデンコース ・ものづくりコース ・コスモス人生コース 	<p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館まつり クリスマス会 	<p><班長会></p> <p><つどい委員会></p>	<p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ&ハイキングコース ・ハイキングするコース ・企画づくりコース ・音舞団 ・さつまいも南アルプスハイジコース 	<p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> 合宿（大地沢青少年センター） 公民館まつり クリスマス会 	<p><班長会></p> <p><新聞委員会></p> <p><つどい委員会></p>	<p><班別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・そら班 ・ズームイン班 ・ハートおんぷ班 ・Shooting Star班 	<p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> 合宿（水元青年の家） 公民館まつり 新年会 	<p><班長会></p> <p><つどい委員会></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おなべの会 ・(仮称) 共同学習識字の会 ・とびたつ会 		<p><担当者></p> <p>*学生・市民 (60名)</p> <p><行政職員></p> <p>*公民館職員 (4名)</p> <p>計64名</p>
<p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康からだづくりコース ・スマイルコース ・ジャニーズコース ・ピンクガーデンコース ・ものづくりコース ・コスモス人生コース 	<p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館まつり クリスマス会 	<p><班長会></p> <p><つどい委員会></p>											
<p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ&ハイキングコース ・ハイキングするコース ・企画づくりコース ・音舞団 ・さつまいも南アルプスハイジコース 	<p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> 合宿（大地沢青少年センター） 公民館まつり クリスマス会 	<p><班長会></p> <p><新聞委員会></p> <p><つどい委員会></p>											
<p><班別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・そら班 ・ズームイン班 ・ハートおんぷ班 ・Shooting Star班 	<p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> 合宿（水元青年の家） 公民館まつり 新年会 	<p><班長会></p> <p><つどい委員会></p>											
<ul style="list-style-type: none"> ・おなべの会 ・(仮称) 共同学習識字の会 ・とびたつ会 		<p><担当者></p> <p>*学生・市民 (60名)</p> <p><行政職員></p> <p>*公民館職員 (4名)</p> <p>計64名</p>											
<p>2005年 (H. 17) 196名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">三 十 二 年 目</div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造</p> <p>☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）</p> <p>◇全体行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12回若葉とそよ風のハーモニーコンサート ・東京都障がい者スポーツ大会 ・町田市障がい者スポーツ大会 ・公民館まつり ・秋合宿（大地沢青少年センター） <p>◇学級別活動</p> <p>*公民館学級（コース制21年目）</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="292 1995 702 2051"> <p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イルカさかなコース </td> <td data-bbox="702 1995 1037 2051"> <p><学級内代表活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・班長会 </td> <td data-bbox="1037 1995 1276 2051"> <p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会 </td> </tr> </table>	<p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イルカさかなコース 	<p><学級内代表活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・班長会 	<p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会 									
<p><コース別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イルカさかなコース 	<p><学級内代表活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・班長会 	<p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会 											

<ul style="list-style-type: none"> ・ものコース ・やりたいことと暮らしを考えるコース ・ジャーニーオレンジコース ・さくらコース ・すまいるミュージカルコース 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・忘年会
*ひかり学級（コース制14年目）		
<ul style="list-style-type: none"> ＜コース別活動＞ ・おいしいたべものコース ・みんなでGO！！コース ・ダンス&ミュージックコース ・歩くんです。コース ・ザ・家庭と暮らしコース 	<ul style="list-style-type: none"> ＜学級内代表活動＞ ・班長会 ・つどい委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ＜行事＞ ・クリスマス会
*土曜学級（班制9年目）		
<ul style="list-style-type: none"> ＜班別活動＞ ・ハッスル班 ・キネマゴーゴー班 ・のりものでゴー！班 ・F班 ・ちっちゃいお店班 	<ul style="list-style-type: none"> ＜学級内代表活動＞ ・班長会 ・つどい委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ＜行事＞ ・忘年会 ・新年会
◇学級外のサークル活動	担当者 公民館職員	63名 4名
<ul style="list-style-type: none"> ・おなべの会 ・とびたつ会 		

2006年
(H.18)
188名

三十三年目

☆ 生活づくり・文化創造
☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制22年目）

<ul style="list-style-type: none"> ＜コース別活動＞ ・イルカキラキラソナタミュージカルコース ・ものぷーさんコース ・やりたいことと暮らしを考えるコース ・自然まんきつコース ・みんなでGOコース 	<ul style="list-style-type: none"> ＜学級内代表活動＞ ・班長会 ・つどい委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ＜行事＞ ・クリスマス会
--	--	---

*ひかり学級（コース制15年目）

<ul style="list-style-type: none"> ＜コース別活動＞ ・ライブクリップコース ・みんなのものづくり隊コース ・自分で自分コース ・レッツゴーハイキングコース 	<ul style="list-style-type: none"> ＜学級内代表活動＞ ・班長会 ・つどい委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ＜行事＞ ・新年会
--	--	--

*土曜学級（班制10年目）

<ul style="list-style-type: none"> ＜班別活動＞ ・ねこバス班 ・ドレミ班 ・グルメハイキング班 ・夢新聞班 ・イルカ班 	<ul style="list-style-type: none"> ＜学級内代表活動＞ ・班長会 ・つどい委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ＜行事＞ ・新年会
---	--	--

◇学級外のサークル活動
 ・おなべの会
 ・とびたつ会

担当者	63名
公民館職員	4名

2007年
 (H. 19)
 176名

三十四年目

☆ 生活づくり・文化創造
 ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事
 ・第13回若葉とそよ風のハーモニーコンサート
 ・東京都障がい者スポーツ大会
 ・町田市障がい者スポーツ大会
 ・公民館まつり
 ・秋合宿 (大地沢青少年センター)
 ・バスハイク (こどもの国)

◇学級別活動

*公民館学級 (コース制23年目)

<コース別活動>
 生活とやりたいことを考えるコース
 ポンタコース
 劇団キャッツアイ
 みんなでチャレンジコース
 つばめコース

<学級内代表活動>
 ・班長会
 ・つどい委員会

<行事>
 ・クリスマス会

*ひかり学級 (コース制16年目)

<コース別活動>
 GO!GO!チャレンジコース
 富士山コース
 ひまわり・コスモスコース
 ミュージックコース

<学級内代表活動>
 ・班長会
 ・つどい委員会

<行事>
 ・クリスマス会

*土曜学級 (班制11年目)

<班別活動>
 ハッピー班
 空色美術班
 ホットなごみ班
 キラキラ班
 レインボー班

<学級内代表活動>
 ・班長会
 ・つどい委員会

<行事>
 ・新年会

担当者	63名
(学級日当日担当者)	13名)
公民館職員	4名

◇学級外のサークル活動
 ・おなべの会
 ・とびたつ会

※ 学級日当日担当者の制度を新設しました

2008年
 (H. 20)
 173名

三十五年目

☆ 生活づくり・文化創造
 ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事
 ・東京都障がい者スポーツ大会
 ・町田市障がい者スポーツ大会
 ・公民館まつり
 ・秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇学級別活動

*公民館学級 (コース制24年目)

<コース別活動>
 生活とやりたいことを考えるコース
 パンダコース
 ブルースコース

<学級内代表活動>
 ・班長会
 ・つどい委員会

<行事>
 ・クリスマス会

フレンズドリームコース
ものピカソコース

*ひかり学級（コース制17年目）

<コース別活動>

スポガイGO!GO!コース
にじいろ・たいようコース
GO!GO!ハイキングコース
音楽&とびたとうコース
ひまわりコース

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*土曜学級（班制12年目）

<班別活動>

ドンドン班
アドベンチャー班
アリス班
ほしとひまわり班
うんどうすば一つ班

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・新年会

◇学級外のサークル活動

・おなべの会
・とびたつ会

担当者	67名
(学級日当日担当者)	19名)
公民館職員	3名

2009年
(H.21)
169名

三
十
六
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

・第14回若葉とそよ風のハーモニーコンサート
・東京都障がい者スポーツ大会
・公民館まつり
・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制25年目）

<コース別活動>

ROBOTコース
作品づくりコース
ドリームレインボーコース
生活とやりたいことを考えるコース
ルーキーズコース

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*ひかり学級（コース制18年目）

<コース別活動>

みんなの手コース
元気あいじょうコース
ステージJコース
フラワー・ヤッホーコース
企画チャレンジコース

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*土曜学級（班制13年目）

<班別活動>

ラッキー班
あるくものづくり班
ピピスポーツ班
チャレンジ班
キラキラげんき班

<学級内代表活動>

・班長会
・つどい委員会

<行事>

・新年会

◇学級外のサークル活動

担当者	81名
(学級日当日担当者)	13名)

- ・おなべの会
- ・とびたつ会

公民館職員

3名

2010年
(H. 22)

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

178名

三十七年目

◇全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇学級別活動

- * 公民館学級 (コース制26年目)

<コース別活動>

- ・ スターウォーズコース
- ・ ひまわりコース
- ・ オールスターコース
- ・ ゆめをみようコース
- ・ ミュージカルインストルメンツコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

- * ひかり学級 (コース制19年目)

<コース別活動>

- ・ スポーツドリームコース
- ・ 冒険散歩コース
- ・ 星のつばさコース
- ・ ラベンダーのかなたへコース
- ・ あじさいコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ 20周年記念イベント

- * 土曜学級 (班制14年目)

<班別活動>

- ・ ビクトリー班
- ・ ステップでどん班
- ・ ニコニコお祭り班
- ・ ぞうさんのあくび班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会

担当者	73名
(学級日当日担当者)	21名)
公民館職員	3名

2011年
(H. 23)

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

186名

三十八年目

◇全体行事

- ・ 第15回若葉とそよ風のハーモニーコンサート
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇学級別活動

- ※ 公民館学級 (コース制27年目)

<コース別活動>

- ・ ハピネスクローバー コース
- ・ ダンシングミュージカル コース
- ・ 銀河鉄道999 コース
- ・ みんなのあかり コース
- ・ きずな コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

※ ひかり学級（コース制20年目）

<コース別活動>

- ・探検ハト コース
- ・健康スポーツ コース
- ・レッドビッキーズ コース
- ・パンダ コース
- ・パフォーマンスアカデミー コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・クリスマス会

※ 土曜学級（班制15年目）

<班別活動>

- ・ひまわり 班
- ・げきだんランランロック 班
- ・ハッピーミュージック 班
- ・ワクワク体験 班
- ・お陽さまごっつんこ 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・新年会

◇学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会

担当者	82名
(学級日当日担当者)	23名)
公民館職員	3名

2012年

(H. 24)
183名

三十九年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇ 全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり
- ・ 秋合宿（大地沢青少年センター）

◇ 学級別活動

* 公民館学級（コース制28年目）

<コース別活動>

- ・ コンサート♪ コース
- ・ みんなのあかり コース
- ・ 健康・体力づくり コース
- ・ 劇団 宇宙のかがやき コース
- ・ ギブア・ハピネスクローバー・トゥ・ビーナス コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・クリスマス会

* ひかり学級（コース制活動21年目）

<コース別活動>

- ・ 笑顔&ミュージカル コース
- ・ スマイル コース
- ・ ひまわりものづくり コース
- ・ 愛情料理 コース
- ・ さんぽ コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・クリスマス会

* 土曜学級（班制16年目）

<班別活動>

- ・ はくちょうで野球しようぜ 班
- ・ ラビットグルメ 班
- ・ なんでもチャレンジ 班
- ・ やったねストライク 班
- ・ ムーンランド♥ドラエモンバンド 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・新年会

- ◇ 学級外のサークル活動
- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	77名
(学級日当日担当者)	32名)
生涯学習センター職員	3名

2013年
(H. 25)
183名

四十年目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)
- ◇全体行事
- ・ 第16回若葉とそよ風のハーモニーコンサート
- ・ 東京都障害者スポーツ大会 (フットベースボール)
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり (展示・舞台)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制29年目)

<コース別活動>

- ・ みんなのゆめ コース
- ・ みんなのあかりコース 2013
- ・ ヘルス・パワーアップ コース
- ・ 夢よびたい コース
- ・ ものづくり コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 合宿 (大地沢青少年センター)
- ・ クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制活動22年目)

<コース別活動>

- ・ みんなのいのち コース
- ・ ハッピースポーツ探検さんぽ コース
- ・ メニーハンズ コース
- ・ うさぎのダンス コース
- ・ ふれあいのぞみ コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ バスハイク (こどもの国)
- ・ クリスマス会

※ 土曜学級 (班制17年目)

<班制活動>

- ・ みどりのはっばとたんぽぽ 班
- ・ じゃえじゃえ! あじさいだー 班
- ・ ラビット・ミッフィー・ドルフィン 班
- ・ ひまわり 班
- ・ 住・行(考) 班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 合宿 (大地沢青少年センター)
- ・ 新年会

- ◇ 学級外のサークル活動
- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	73名
(うち学級日当日担当者)	26名)
生涯学習センター職員	4名

2014年
(H. 26)
182名

四十一年目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)
- ◇全体行事
- ・ 東京都障害者スポーツ大会 (フットベースボール)
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり (展示・舞台)
- ・ 青年学級40周年記念式典

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制30年目)

<コース別活動>

- ・ こころ夢 コース
- ・ はれの日 コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 合宿 (大地沢青少年センター)

- ・わたしたちのみらい コース
- ・スマイルヘルスアップ コース
- ・カリビアン コース

・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制23年目）

<コース別活動>

- ・世界にひとつだけの花 コース
- ・江ノ島かもがわ水族館 コース
- ・元気はつらつ夏椿 コース
- ・トトロミュージック コース
- ・イベント・ドリーム コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・バスハイク
- (よこはま動物園ズーラシア)
- ・新年会

※ 土曜学級（班制18年目）

<班制活動>

- ・青空クローバー 班
- ・ギターとラップと夢とともだち 班
- ・健康グルメ 班
- ・あまちゃん 班
- ・生活まじめ 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・日帰り旅行
- (江ノ島)
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	71名
(うち学級日当日担当者)	22名)
生涯学習センター職員	4名

2015年
(H. 27)
174名

四
十
二
年
目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・第17回若葉とそよ風のハーモニーコンサート
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制31年目）

<コース別活動>

- ・楽器大好き コース
- ・ものづくり コース
- ・わたしたちのみらい コース
- ・ケンカラ コース
- ・劇・ミュージカル コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
- (大地沢青少年センター)
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制24年目）

<コース別活動>

- ・にじスマイル コース
- ・強くて負けないスーパー電車
スポーツコース1・2・3
- ・小さなしあわせ すみれ コース
- ・ミュージカル・ダンス コース
- ・おでかけ料理 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
- (江ノ島)
- ・新年会

※ 土曜学級（班制19年目）

<班制活動>

- ・ハッピーブルー 班
- ・みんな元気スポーツ 班
- ・楽しいイベント 班
- ・あじさいものづくり48 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・合宿
- (大地沢青少年センター)
- ・新年会

- ◇ 学級外のサークル活動
- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	71名
(うち学級日当日担当者)	22名
生涯学習センター職員	5名

2016年
(H. 28)
171名

四十三年目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

- ◇全体行事
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり (展示・舞台)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制32年目)

<コース別活動>

- ・ 抱きしめたい心 コース
- ・ ものづくり コース
- ・ 生活とくらしを考える コース
- ・ 炎のファイト! 健康からだづくり コース
- ・ あおのなかま コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 合宿
(大地沢青少年センター)
- ・ クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制25年目)

<コース別活動>

- ・ ふれあいをつくっていく コース
- ・ 無敵最強スポーツ コース
- ・ ひまわり味彩大作戦 コース
- ・ コスマリップ劇ダンス コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ 日帰り旅行
(藤野芸術の家)
- ・ クリスマス会

※ 土曜学級 (班制20年目)

<班制活動>

- ・ ハッピーブルー 班
- ・ みんな元気スポーツ 班
- ・ 楽しいイベント 班
- ・ あじさいものづくり48 班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ 日帰り旅行
(みなとみらい)
- ・ 新年会

- ◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	64名
(うち学級日当日担当者)	26名
生涯学習センター職員	6名

2017年
(H. 29)
171名

四十四年目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

- ◇全体行事
- ・ 第18回若葉とそよ風のハーモニーコンサート
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり (展示・舞台)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制33年目)

<コース別活動>

- ・ なでしこ コース
- ・ たんぽぽ コース
- ・ よりみち コース
- ・ エビカニクス コース
- ・ 自由カンガルー コース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 合宿
(大地沢青少年センター)
- ・ クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制26年目)

<コース別活動>

<学級内代表活動>

<行事>

- ・花 コース
- ・虹ドリームアンド創作 コース
- ・何でも最強スポーツ コース
- ・お出かけ料理 コース

・班長会

- ・日帰り旅行
(みなとみらい)
- ・クリスマス会

※ 土曜学級 (班制21年目)

<班制活動>

- ・ハワイと虹 班
- ・トーマスレインボースポーツ 班
- ・一刀両断 班
- ・トレンディものづくり 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・合宿
(大地沢青少年センター)
- ・新年会
- ・20周年記念式典

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	64名
(うち学級日当日担当者)	27名)
生涯学習センター職員	4名

2018年
(H. 30)
166名

四
十
五
年
目

- ☆ 生活づくり・文化創造
- ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり (展示・舞台)

◇学級別活動

※ 公民館学級 (コース制34年目)

<コース別活動>

- ・わかそよづくり コース
- ・みんなのたいせつなことば コース
- ・ひわまり コース
- ・くらし コース
- ・ハッピー生き生き!スポーツ コース
- ・夢のあかり コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
(大地沢青少年センター)
- ・クリスマス会

※ ひかり学級 (コース制27年目)

<コース別活動>

- ・エキスポ コース
- ・おまかせ芸術 コース
- ・レッドスターズ
- ・みんなの未来 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(相模原公園)
- ・クリスマス会

※ 土曜学級 (班制22年目)

<班制活動>

- ・流れ星~~舞~~ダンス 班
- ・スマイルイベント 班
- ・ものづくりブリヂストン 班
- ・秋桜 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(小田原)
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

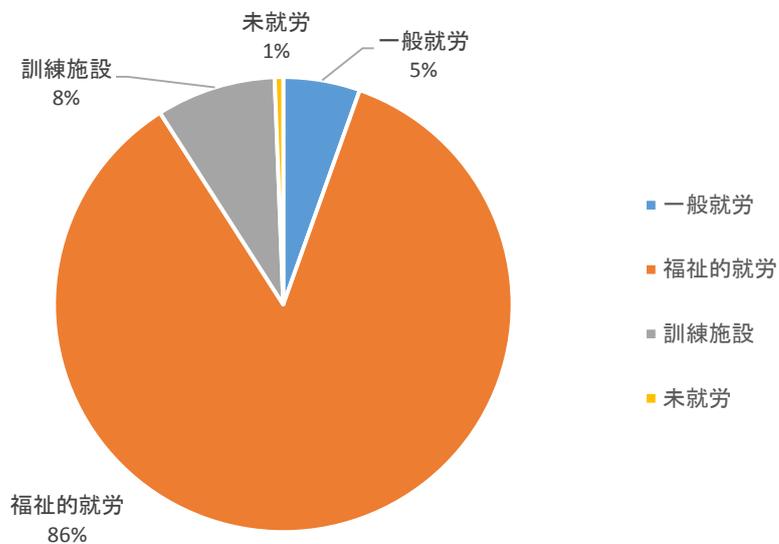
- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム
- ・風になる会

担当者	73名
(うち学級日当日担当者)	30名)
生涯学習センター職員	4名

☆学級生の就労状況

未就労	1	福祉的就労	町田かたつむりの家	6	
		アールフィールド	1	町田リス園	2
一般就労		赤い屋根	4	森工房	1
特例子会社	1	大賀藕絲館	17	ラ・まの	6
リネンサプライ	1	かがやき	21	ワークステーション立川	1
菓子工場	1	喫茶けやき	2	コラボワークセンターつくし	1
木・紙製品製造	1	共働学舎	6		
理容・美容	1	くず葉学園	1		
園芸	1	こころみ農園	3	訓練施設	
設計事務所	1	サポートセンター町田とも	4	島田療育センター	1
衣料販売	1	シャロームの家	5	ひかり療育園	3
医療・介護	1	スワン・ベーカリー	2	町田生活実習所	4
		地の星	9	町田福祉園	3
		つるかわ学園	3	わさびだ療育園	2
		なないろ	13	介護デイ シナモンとアットホーム	1
		ニーズセンター花の家	13		
		花の家クッカ広場	1		
		花の郷	6		
		美術工芸館	5		
		プラスアルファ	7		
		ボア・アルモニー	1		
		町田おかしの家	1		

就労・通所状況



☆学級生の持っている手帳

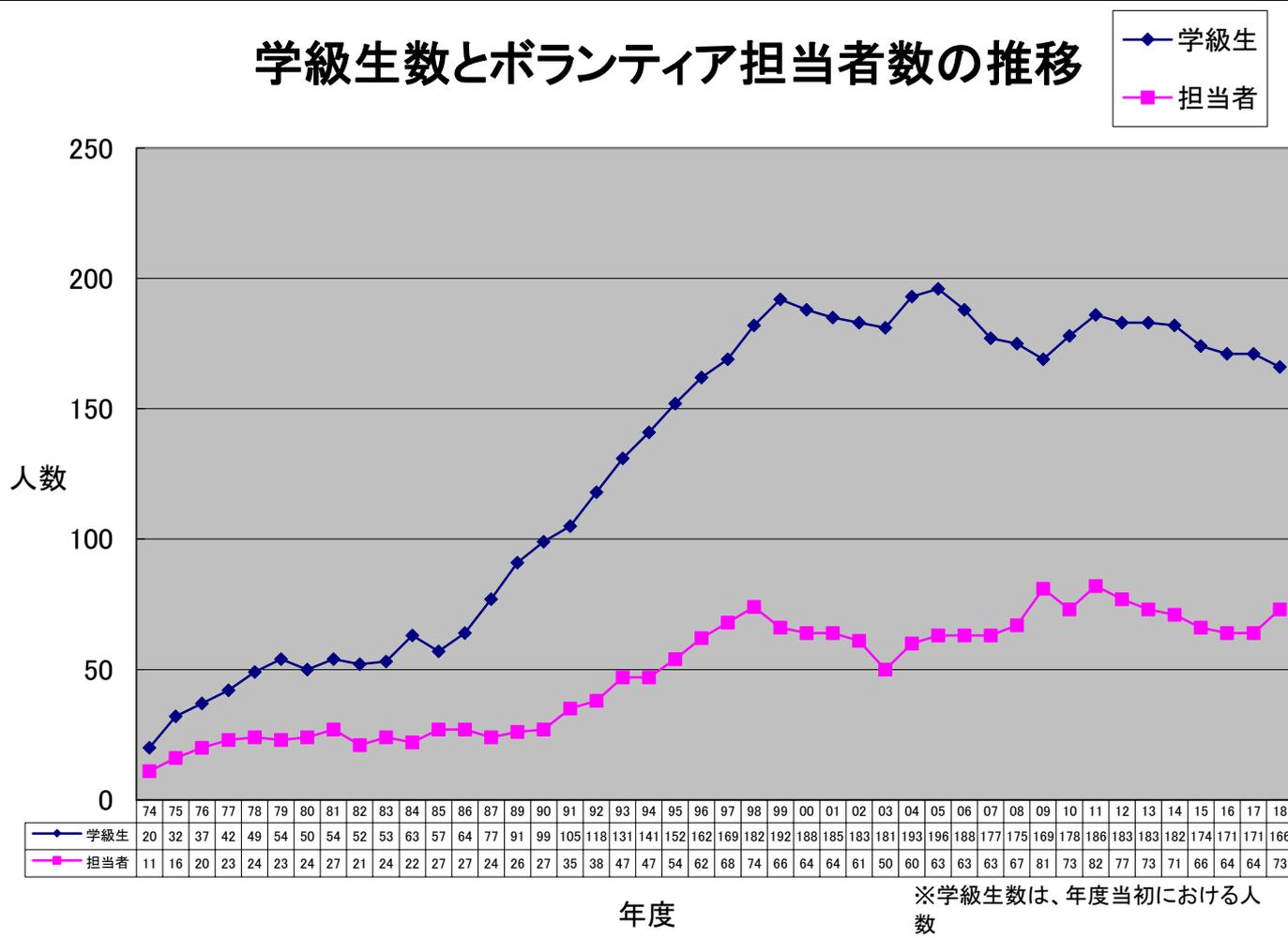
愛の手帳(療育手帳)

		1度	2度	3度	4度	計
公民館学級	男	1	20	15	5	41
	女	1	9	9	3	22
ひかり学級	男		12	19	2	33
	女	1	12	6	2	21
土曜学級	男	1	15	15	5	36
	女		7	4	1	12
計	男	2	47	49	12	110
	女	2	28	19	6	55
総計		4	75	68	18	165

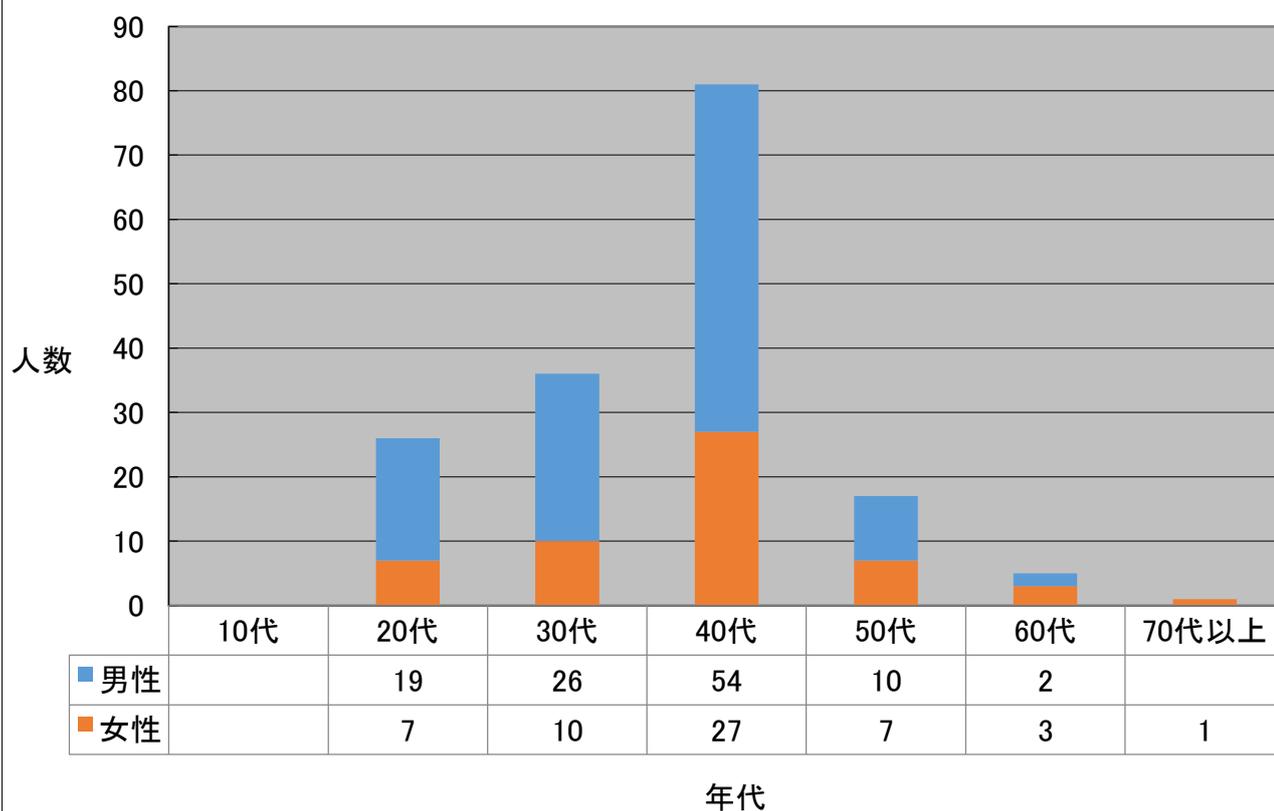
身体障害者手帳

		1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
公民館学級	男	5	2	1	1	1		10
	女	3	2		1			6
ひかり学級	男	1	2				1	4
	女	7	5			1	1	14
土曜学級	男	3	2		1			6
	女	1	1		1			3
計	男	9	6	1	2	1	1	20
	女	11	8	0	2	1	1	23
総計		20	14	1	4	2	2	43

学級生数とボランティア担当者数の推移



学級生の年代・男女別構成比



担当者・当日スタッフ紹介（2018年4月～2019年3月）

☆：担当者 ★：当日スタッフ

公民館学級（29名）

- ☆ 市川 慎二
- ☆ 上原 美南
- ☆ 大毛 萌子
- ☆ 加藤 沙耶香
- ☆ 木元 祥平
- ☆ 齊藤 萌楓
- ☆ 櫻井 明美
- ☆ 柴崎 智啓
- ☆ 柴田 保之
- ☆ 関水 末子
- ☆ 高井 大輔
- ☆ 能登 あやな
- ☆ 花岡 周平
- ☆ 原子 昌平
- ☆ 牧野 恵里香
- ☆ 宮城 日菜子
- ☆ 山之内 敦郎
- ☆ 吉田 華
- ★ 石上 美津子
- ★ 伊藤 美紀子
- ★ 今泉 晴世
- ★ 内田 桃香
- ★ 小島 道子
- ★ 鈴木 邦子
- ★ 富永 節子
- ★ 的野 賢太
- ★ 松本 萌恵子
- ★ 森泉 由美子
- ★ 和田 創

ひかり学級（24名）

- ☆ 朝比奈 康太
- ☆ 飯塚 葵
- ☆ 五十嵐 端記
- ☆ 伊藤 美保子
- ☆ 恩田 吉郎
- ☆ 金子 大智
- ☆ 黒川 めぐみ
- ☆ 児玉 佳那姫
- ☆ 酒匂 健太
- ☆ 鷺阪 信雄
- ☆ 芝 佳菜子
- ☆ 永島 龍馬
- ☆ 播本 啓子
- ☆ 松尾 彩音
- ☆ 山本 佳奈
- ★ 佐藤 優香
- ★ 志賀 健二
- ★ 芝 明菜
- ★ 徳永 恵生
- ★ 舘井 菖
- ★ 中村 千津子
- ★ 樋田 五気
- ★ 村松 由理
- ★ 森口 敦子

土曜学級（20名）

- ☆ 伊藤 直光
- ☆ 井上 廣美
- ☆ 梅原 光輝
- ☆ 片岡 千栄子
- ☆ 小山 京子
- ☆ 瀧本 克芳
- ☆ 富沢 タツ子
- ☆ 彦根 睦
- ☆ 宮城 幸生
- ☆ 渡辺 祐美子
- ★ 石橋 堯弥
- ★ 大貫 徳三
- ★ 岡村 綾子
- ★ 小野寺 浩文
- ★ 朽方 光代
- ★ 小山 寿美子
- ★ 杉山 千代美
- ★ 西村 しず男
- ★ 難波 誠
- ★ 福島 妙子

行政職員

（生涯学習センター）

- ☆ 岩田 武（16～）
- ☆ 戎谷 昭浩（18～）
- ☆ 菊島 登志子（17～）
- ☆ 矢嶋 良史（15～）